

令和 7 年度
(第 52 期)
事業報告

作成日：令和 8 年 5 月 30 日

自 令和 7 年 04 月 01 日

至 令和 8 年 03 月 31 日

社会福祉法人 さつき会

1 全体総括

(1) はじめに

令和7年度は、第7次中期経営3か年計画（2025～2027）の初年度として、法人理念の実現に向けた経営基盤の再構築と次世代への転換を進めた一年であった。

本年度は、中期経営計画に掲げた重点方針である、1) 次世代の経営を担う人材育成、2) 介護DX・ICT・介護ロボット活用による生産性向上とサービス品質向上、3) 地域課題に対応した地域包括ケア機能の強化、4) 働きがいのある職場づくりと主体性を重視した組織文化の醸成、5) 安定した経営基盤の確立と持続的成長、を中心に各事業所・委員会・プロジェクト活動を展開した。

また、開設から38年が経過した特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑については、将来を見据えた施設環境整備として、大規模修繕・リノベーション推進ワークショップを実施した。多職種・多世代の職員が参加し、「これからの特養のあり方」や「働きやすく選ばれる施設づくり」をテーマに意見交換を行い、ハード・ソフト両面から施設機能の再構築に向けた検討を進めたことは、次期整備計画に向けた重要な取り組みとなった。

さらに生産性向上に向けては、ICT・介護ロボットの活用を推進するとともに、業務の可視化・標準化・役割分担の見直しを進め、限られた人材の中でも「良いケア」と「働きやすさ」を両立できる組織づくりに取り組んだ。

加えて、地域交流活動やボランティア受入を推進し、「地域にとってなくてはならない存在」を目指す法人として、地域福祉機能の強化に取り組んだ一年でもあった。

一方で、小規模多機能ホームにおける登録者数減少、慢性的な人材確保難、物価高騰による経費増加など、持続的経営に向けた課題も継続しており、経営改善と組織改革をさらに加速させる必要性が明確となった。

(2) 法人経営

社会福祉法人さつき会は、法人設立以来52年間にわたり、「利用者本位」の理念のもと、地域福祉の向上と地域包括ケアの推進に取り組んできた。

令和7年度は、法人全体として「主体性」をキーワードに、管理職・主任層を中心とした次世代人材育成に重点を置き、次世代経営を担う職員成研修、先進施設視察研修、外部研修参加等を積極的に実施した。また、定期面談、リフレッシュ休暇取得推進など、働きがいと職員定着を意識した組織づくりを進めた。

本年度の法人全体の離職率は6.1%となり、前年の5.4%に比してやや上昇したものの、依然として全国平均（13.1%/令和5年度）を大きく下回る水準を維持している。慢性的な介護人材不足が続く中においても、各種研修制度、面談制度、リフレッシュ休暇制度等の定着施策に加え、働きやすい職場環境整備や主体性を重視した組織づくりを継続してきたことが、一定の職員定着につながったものと考えられる。

経営面では、サービス活動収入814,906千円（前年比6.9%）、サービス活動増減差額78,227千円（前年比73.6%）、収支差率9.6%を計上し、大幅な改善を示した。特に、デイサービス、特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅では高い稼働率を維持し、安定経営につながった。

また、デイサービスセンターはびねすでは、全国研究発表における優秀賞受賞など、現場実践と経営改善が高く評価され、法人ブランド向上に大きく寄与した。

一方で、小規模多機能ホームは目標を下回り、登録者確保が大きな経営課題となった。地域包括ケアを推進する上でも、小規模多機能型居宅介護は重要な機能を担っており、登録者確保、営業活動強化、多職種連携、地域包括支援センター・医療機関との連携強化などを通じて、経営改善を図る必要がある。

さらに、介護職員・調理員においては慢性的な人材不足が継続しており、職員の高齢化や重度化対応による身体的・精神的負担増加も課題となっている。今後は、外国人介護人材・ケアアシスタント活用、多様な働き方への対応、介護 DX による業務負担軽減など、より戦略的な人材確保・定着施策を推進する必要がある。

(3) 施設運営

施設運営面では、「良いケア」の実践を軸に、多職種協同による重度化予防・重症化防止、科学的介護、ICT・介護ロボット活用を推進した。

特別養護老人ホーム・グループホーム・サービス付き高齢者向け住宅では、入居者の生活継続性を重視しながら、外出支援、地域交流、行事活動等を積極的に実施し、生活の質（QOL）向上に努めた。特に、サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほでは、認知症カフェ、地域マルシェ、地域交流活動等を通じて、地域共生社会づくりへの推進に取り組んだ。

また、総合事業「フィットネス倶楽部コレカラ」では、介護予防・フレイル対策・地域リハビリテーション活動を推進し、住民主体の介護予防活動支援や体操指導士養成など、地域包括ケア推進の中核的役割を担った。

介護 DX 推進では、見守りセンサー、生体センサー、ICT 記録、情報共有ツール等の導入・活用を進め、業務効率化とケア品質向上の両立を図った。一方で、整理整頓の徹底不足や記録漏れ、服薬事故など、基本的ケア・確認行動の徹底不足による課題も見られ、基本姿勢のルール遵守・安全管理体制の再強化が必要である。

さらに、事故防止・感染対策・BCP 対応・災害訓練など、安全対策を継続して実施したが、転倒骨折や離脱等が一部事業所で発生しており、組織全体でのリスクマネジメント強化が今後の重要課題となる。

(4) 次年度の向け

令和 8 年度は、第 7 期中期経営計画の着実な推進に向け、「次世代の経営を担う人材育成」「介護 DX・ICT 活用による生産性向上」「選ばれる施設づくり」「地域包括ケアの機能強化」「適正利益の固守」を重点事項とし取り組む。

また、鷹栖さつき苑大規模修繕・リノベーション計画については、令和 7 年度に実施したワークショップでの意見や課題を踏まえ、入居者の生活環境向上と職員の働きやすさの両立を目指した具体的な整備計画へと発展させていく。

さらに、若手職員の活躍機会を拡充し、職員一人ひとりがやりがいと成長を実感できる組織づくりを推進するとともに、小規模多機能型居宅介護事業の経営改善に重点的に取り組み、地域包括ケアを支える中核事業としての機能強化を図る。

加えて、「自ら学び、自ら考え、自ら動く」を法人全体の行動指針として、職員一人ひとりが主体的に課題解決に取り組む組織風土を醸成し、地域にとってなくてはならない存在として、持続可能で良質高度な福祉サービス提供体制の構築を進めいく。

2 部門別事業実績（概要）

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
法人本部	理事会・評議員会の運営 内部監査の実施 法人全体の企画・調整 各施設・事業所の経営及び統括 経営企画に関する諸会議の運営 許認可・申請事務 特命事項 職員の教育・研修 実習、研修等の受入・調整 デイ・なごみ・えんの給食管理・実務 ボランティア・家族会の運営 地域包括支援センターへの人材派遣	—	5	理事会 7回(5) 評議員会 1回(1) 監事監査 4回(4) 経営改善会議 33回(36) 全体会議・研修 2回(2) 実習受入(実件数) 6件(6) (延べ人数) 27名(24) 健康料理教室 6回(5) 地域食堂 12回(12)	Δ4,310 (Δ3,348)
総務課	総務・人事・会計の管理・実務 施設運営の企画 施設設備の維持管理 施設内の衛生管理 他部署に属さない業務	—	8	施設整備 スプリングラー修理等 11件(9) 総事業費 4,030千円(995千円) 器具備品費 車両・機械浴槽等 15件(18) 総事業費 6,976千円(15,381千円)	—
介護老人福祉施設事業	要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	50名	41	新規入居者 男4名(5)、女9名(11) 計 13名(16) 退居者 男5名(2)、女8名(15) 計 13名(17) 総延べ入院日数 245日(314日) ベッド稼働率 98.1%(96.2%) 入居待機者 19名(21)	22,240 (17,826)
短期入所生活介護事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしりを介護されている家族が、介護疲れ、病気、事故などにより、一時的に介護することができなくなった場合に、一定期間そのおとしりに特別養護老人ホームに入居していただき、家族の介護負担の軽減に努めた。	10名		実利用者数 29名(36) 実件数 173件(161) 延利用者数 3,285名(2,844) 一日平均 9.0名(7.8) ベッド稼働率 90.6%(78.2)	8,019 (2,116) 生きがいショート委託費 1,244 (573)
通所介護事業	在宅のねたきり、認知症及び虚弱等の要介護等認定者に対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消、4)家族の介護負担の軽減を図るために通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護、日常生活の相談・助言を行うことで要介護等状態の悪化予防に努めた。	34名	15	開催日数 309日(309) 実利用者数(月平均) 142.1名(118.1) 延利用者数 10,369名(9,220) 生きがいデイ 0(0) 新規利用者 71名(67) 週6日開館、1日平均 33.5名(29) 稼働率 定員34名 98.5% (定員30名 117%)	16,607 (11,955)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
居宅介護支援事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりが「住み慣れた自宅で最後まで暮らし続けることができるよう」、本人及び家族のニーズに即したケアプランを作成するとともに、ケアプランに基づく各種サービスや社会資源が確保・活用されるよう事業者・関係機関との連絡調整に努めた。	—	6	月平均利用者数 介護 126.4 名(127.1) 予防 95.3 名 (76.3) 計 221.8 名(203.3) 新規利用 107 名(100) 停止者 86 名(54) 入院者延べ人数 218 名(222)	181 (△1,155)
共同生活介護事業 認知症対応型	認知症により自宅での生活が困難な方に対して、グループホームにおいて「自立と尊厳を支え」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう「利用者中心」の生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	18 名	18	新規入居者 男 2 名(2)、女 0 名(5) 計 2 名(7) 退居者 男 0 名(1)、女 2 名(6) 計 2 名(7) 総延べ入院日数 29 日(106 日) ベッド稼働率 99.5%(95.5) 入居待機者 13 名(8)	7,935 (2,173)
小規模多機能型居宅介護事業 なごみの家	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせ、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15 名 ----- (泊まり) 6 名 ----- (訪問) 一名	10	開催日数 365 日(365) 平均登録者数 22.2 名(19.8) 実利用者数 28 名(30) 延利用者数 3,328(3,375) 新規利用者 10 名(10) 停止者 10 名(10) 1 日平均 9.1 名(9.2) 稼働率 60.8%(61.6%) ----- 実利用者数 18 名(13) 延利用者数 859 名(874) 1 日平均 2.4 名(2.4) 稼働率 39.2%(39.9%) ----- 実利用者数 18 名(19) 延利用者数 3,817 名(2,989) 1 日平均 10.5 名(8.2)	8,938 (3,666)
介護老人福祉施設事業 ユニット型地域密着型	鷹栖町在住の要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	20 名	21	新規入居者 男 1 名(3)、女 3 名(2) 計 4 名(5) 退居者 男 3 名(2)、女 0 名(3) 計 3 名(5) 総延べ入院日数 53 日(196 日) ベッド稼働率 98.8%(96.0%) 入居待機者 20 名(7)	9,168 (4,467)
小規模多機能型居宅介護 事業めぐもりの家えん	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」	(通い) 15 名	9	開催日数 365 日(365) 平均登録者数 18.8 名(21.3) 実利用者数 28 名(31) 延利用者数 3,471 名(3,720) 新規利用者 11 名(9) 停止者 12 名(12) 1 日平均 9.4 名(10.2) 稼働率 62.4%(67.9)	3,835 (5,420)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
	や一時的な「泊まり」を組み合わせ、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(泊まり) 6名		実利用者数 24名(17) 延利用者数 1,502名(1,188) 1日平均 4.1名(3.2) 稼働率 68.5%(54.2)	
		(訪問) 一名		実利用者数 20名(18) 延利用者数 3,025名(5,400) 1日平均 8.3名(14.8)	
住宅サービス付き高齢者向け 事業 ぬくもりの家 たかほ	主に虚弱・要支援等の高齢者の早めの住み替えニーズに応じた安心・安全な住宅サービス・相談援助サービス等を提供し、出来る限り長く住み慣れた地域社会で生活をしていくことの支援に努めた。	18名	11	新規入居者 男1名(3)、女4名(1) 計5名 退居者 男1名(4)、女2名(2) 計3名 月平均入居者数 17.3名 稼働率 98.6(95.4) 総延べ入院日数 174(144) 入居待機者 7名(7)	△96 (△1,972)
訪問介護事業	在宅で虚弱、ねたきり、認知症のおとしより等の要介護等認定者および難病患者の家庭等に対して、自立とより質の高い在宅生活の継続が図られるよう、生活援助、身体介護、相談・助言を主とする生活支援サービスの提供に努めた。	—	9	派遣世帯数(年間) 101世帯(125) 訪問延回数 10,756回(9,691) 活動延時間 8,099時間(7,535) 内、生きがいヘルプ 0(0) 内、難病疾患ヘルプ 0(0) 新規利用者 24名(24) 停止者 17名(28名)	6,469 (5,099) 生きがいヘルプ [°] 委託費 0(0) 難病患者ヘルプ [°] 委託費 0(0)
フィットネス倶楽部コレカラ 総合事業	在宅の主一般高齢者を対象に、虚弱化・要介護の予防を目的に、フィットネス倶楽部コレカラの運営、介護予防体操(あったかすリハビリ体操)の普及、介護予防体操指導士(あったかすリハビリ体操指導士)の養成、介護予防サポーター(コレカラサポーター)の養成、住民主体の通いの場の立ち上げ、介護予防運動教室の運営に努めた。	—	2	開催日数 300日(307) 登録者数 459名(475) 総延べ利用人数 8,200名(8,098) 各教室の内訳 サーキット 5,404名 レッドコード教室 2,796名 月平均利用者数 683名(675) 1日平均利用者数 23.6名(23.0) 新規利用者 14名(29) 停止者(利用0回) 284名(278)	
移送サービス事業	心身の障がい・病気により、ねたきりや車いす上で生活されている方が、通院等の理由により外出しなければならず、一般の車両への乗降が難しい時に、さつき苑に配置されている寝台、若しくは車いすのまま乗り込むことができる専用車両で、自宅から目的地までの送迎を行い、利用者の外出支援に努めた。	—	—	実利用者数 15件(9件) 延利用件数 8件(75件) (内訳...町内0件、町外8件)	80 (33) 委託費収入のみ

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
(生 き が い デ イ サ ー ビ ス) 介 護 予 防 事 業	在宅の介護認定非該当の虚弱なおとしよりに対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消を図るため、デイセンター(はびねす)に通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護等のサービスを提供し、要介護状態にならないように努めた。	—	—	実利用者数 0名(0) 延利用者数 0名(0) 新規利用者 0名(0)	0 (0) 委託費収入のみ

※1 職員数に施設長は含めず

※2 実績及びサービス活動増減差額欄の()内は前年度実績

令和7年度 業績概況

3 業績の状況

(1) サービス活動収益の目標対比

(単位:円)

事業名	当初予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	5,793,000	17,341,316	11,548,316	0.0%	
小 計	5,793,000	17,341,316	11,548,316	0.0%	
介護老人福祉施設事業	232,404,000	236,054,857	3,650,857	101.6%	
短期入所生活介護事業	32,415,000	40,071,449	7,656,449	123.6%	
小 計	264,819,000	276,126,306	11,307,306	104.3%	
通所介護事業(はびねす)	77,936,000	87,535,858	9,599,858	112.3%	
居宅介護支援事業	32,861,000	30,261,064	▲ 2,599,936	92.1%	
小 計	110,797,000	117,796,922	6,999,922	106.3%	
認知症対応型共同生活介護事業	89,456,000	95,899,389	6,443,389	107.2%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	66,652,000	61,414,599	▲ 5,237,401	92.1%	
小 計	156,108,000	157,313,988	1,205,988	100.8%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	108,151,000	115,205,762	7,054,762	106.5%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	66,494,000	61,114,717	▲ 5,379,283	91.9%	
小 計	174,645,000	176,320,479	1,675,479	101.0%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	31,527,000	32,595,842	1,068,842	103.4%	
訪問介護事業	37,523,000	38,154,173	631,173	101.7%	
小 計	69,050,000	70,750,015	1,700,015	102.5%	
合 計	781,212,000	815,649,026	34,437,026	104.4%	

(2) サービス活動収益の前年度対比

(単位:円)

事業名	令和6年度 (A)	令和7年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	17,125,685	17,341,316	215,631	0.0%	
小 計	17,125,685	17,341,316	215,631	0.0%	
介護老人福祉施設事業	226,409,757	236,054,857	9,645,100	104.3%	
短期入所生活介護事業	31,213,809	40,071,449	8,857,640	128.4%	
小 計	257,623,566	276,126,306	18,502,740	107.2%	
通所介護事業(はびねす)	74,345,176	87,535,858	13,190,682	117.7%	
居宅介護支援事業	28,937,950	30,261,064	1,323,114	104.6%	
小 計	103,283,126	117,796,922	14,513,796	114.1%	
認知症対応型共同生活介護事業	89,129,508	95,899,389	6,769,881	107.6%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	60,947,931	61,414,599	466,668	100.8%	
小 計	150,077,439	157,313,988	7,236,549	104.8%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	107,362,107	115,205,762	7,843,655	107.3%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	63,088,556	61,114,717	▲ 1,973,839	96.9%	
小 計	170,450,663	176,320,479	5,869,816	103.4%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	29,625,855	32,595,842	2,969,987	110.0%	
訪問介護事業	34,962,550	38,154,173	3,191,623	109.1%	
小 計	64,588,405	70,750,015	6,161,610	109.5%	
合 計	763,148,884	815,649,026	52,500,142	106.9%	

令和7年度 業績概況

(3) サービス活動増減差額の目標対比

(単位:円)

事業名	当初予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 17,066,000	▲ 4,310,263	12,755,737	25.3%	
小 計	▲ 17,066,000	▲ 4,310,263	12,755,737	25.3%	
介護老人福祉施設事業	22,405,000	22,240,466	▲ 164,534	99.3%	
短期入所生活介護事業	1,582,000	8,018,839	6,436,839	506.9%	
小 計	23,987,000	30,259,305	6,272,305	126.1%	
通所介護事業(はびねす)	14,961,000	16,607,268	1,646,268	111.0%	
居宅介護支援事業	1,510,000	181,178	▲ 1,328,822	208.9%	
小 計	16,471,000	16,788,446	317,446	101.9%	
認知症対応型共同生活介護事業	4,395,000	7,935,087	3,540,087	180.5%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	3,300,000	8,938,221	5,638,221	270.9%	
小 計	7,695,000	16,873,308	9,178,308	219.3%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	9,602,000	9,167,950	▲ 434,050	95.5%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	13,529,000	3,835,214	▲ 9,693,786	28.3%	
小 計	23,131,000	13,003,164	▲ 10,127,836	56.2%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	▲ 1,147,000	▲ 95,819	1,051,181	8.4%	
訪問介護事業	5,899,000	6,469,142	570,142	109.7%	
小 計	4,752,000	6,373,323	1,621,323	134.1%	
合 計	58,970,000	78,987,283	20,017,283	133.9%	

(4) サービス活動増減差額の前年度対比

(単位:円)

事業名	令和6年度 (A)	令和7年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 3,348,132	▲ 4,310,263	▲ 962,131	128.7%	
小 計	▲ 3,348,132	▲ 4,310,263	▲ 962,131	128.7%	
介護老人福祉施設事業	17,825,881	22,240,466	4,414,585	124.8%	
短期入所生活介護事業	2,116,193	8,018,839	5,902,646	378.9%	
小 計	19,942,074	30,259,305	10,317,231	151.7%	
通所介護事業(はびねす)	11,954,968	16,607,268	4,652,300	138.9%	
居宅介護支援事業	▲ 1,155,231	181,178	1,336,409	220.4%	
小 計	10,799,737	16,788,446	5,988,709	155.5%	
認知症対応型共同生活介護事業	2,173,080	7,935,087	5,762,007	365.2%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	3,666,347	8,938,221	5,271,874	243.8%	
小 計	5,839,427	16,873,308	11,033,881	289.0%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	4,466,719	9,167,950	4,701,231	205.3%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	5,420,069	3,835,214	▲ 1,584,855	70.8%	
小 計	9,886,788	13,003,164	3,116,376	131.5%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	-1,972,203	-95,819	1,876,384	4.9%	
訪問介護事業	5,098,919	6,469,142	1,370,223	126.9%	
小 計	3,126,716	6,373,323	3,246,607	203.8%	
合 計	46,246,610	78,987,283	32,740,673	170.8%	

令和7年度 法人本部事業報告

1. 総括

本年度は、「職員の成長支援」「外国人スタッフの受け入れ体制整備」「魅力ある職場づくり」「介護ロボット・ICTの活用推進」「大規模修繕に向けた取り組み」「法令遵守体制の強化」を重点課題として、法人運営に取り組んだ。

職員研修については、外部講師によるハラスメント研修をはじめとする各種社内研修を実施した。基礎介護力向上研修は、追加事業への対応等により計画どおりの実施には至らなかったものの、人材育成システムを活用した研修履歴および資格情報の一元管理は継続的に運用することができた。

外国人スタッフの受け入れについては、技能実習生2名および特定技能人材5名を新たに採用し、受け入れと定着支援を進めた。組織的な活動(B-Pro)は実施に至らなかったが、監理団体主催のイベントへヘルダー職員とともに参加するなど、個別支援は継続して行った。

採用・広報活動では、学校訪問を通じて令和8年度採用予定の新卒者3名の内定を確保した。また、ブログは年間230件(月平均19件)の更新を継続し、月平均約5,800人のサイト訪問を維持した。一方で、Instagramの開設およびホームページのリニューアルについては、次年度への課題として持ち越しとなった。

大規模修繕・リノベーションに関しては、外部コンサルタントの支援を受けながら、各職種の代表職員および幹部職員、設計担当者によるワークショップを5回実施した。ワークショップではこれからの暮らし方、働き方、組織文化を再定義し、多角的に掘り下げ、未来のさつき苑の姿を描いた。その結果、「自立と尊厳を大切にしながら、利用者と家族が安心して穏やかに暮らせる施設」「職員が誇りと働きがいを持ち、健やかにいきいきと働ける施設」という基本構想をたて、年度末までには基本設計および費用概算を概ね策定することができ、令和9年度の修繕実施に向けた重要な基盤を整備した。

次世代経営幹部候補の育成については、外部講師を招き全6回の育成研修を実施するとともに、富山、兵庫、岡山にある3か所の先進施設視察を行い、将来の法人運営を担う人材の育成を推進した。3月に行った研修では、講師が理事長を務める滋賀県の職員との交流研修を実施した。

制度・法令に基づく法人運営では、最低賃金改定や業績給制度の導入に伴う規程改定、各種届出および職員への説明を適切に実施した。理事会・評議員会についても計画どおり開催し、必要に応じて臨時理事会を追加開催するなど、適正なガバナンス体制を維持した。

また、同一労働同一賃金の観点を踏まえ、職員の努力や成果を毎月の手当および賞与に適正に反映する仕組みを構築した。これにより、職員の処遇改善と法人の財務健全性の両立を図る業績給制度について、新年度からの導入に向けた基盤整備を完了した。

全体として、大規模修繕計画の策定においては着実な成果が見られた。一方で、SNSやホームページの整備、社内副業制度および限定正職員制度の検討、ならびに一部施設における中長期修繕計画の策定については、次年度以降の課題として引き継ぐ。

なお、令和7年度の経営状況については、当初の業績管理目標を達成した事業所は、ショートステイさつき苑、介護センターさつき苑、デイサービスセンターはびねす、グループホームなごみの家、特別養護老人ホームぬくもりの家えんだった。

法人全体の事業活動収入は788,066千円(予算比+17,170千円)、事業活動収支差額は97,942千円(予算比+15,851千円)、サービス活動増減差額は45,055千円(前年度比+26,940千円)となった。

2. 展望（次年度に向けて）

（1）人材育成と組織活性化

研修体制の充実に向け、引き続き社内研修を計画的に実施するとともに、基礎介護力向上研修の内容を見直し、OJTの質向上を図る。また、次世代育成研修では、外部講師を招きコーチングを学ぶ機会をつくる。

また、ホームページのリニューアルを令和8年度当初より実施し、情報発信力の強化に取り組む。加えて、社内副業制度および限定正職員制度について検討を進める。

（2）大規模修繕・施設整備の推進

鷹栖さつき苑の大規模修繕については、令和7年度に策定した基本設計および費用概算をもとに、実施設計および補助金申請を進め、令和9年度の工事着手を目指す。

また、なごみの家、ぬくもりの家えんにおける中長期修繕計画についても、令和8年度中の策定を目標として取り組む。

（3）法人運営・経営基盤の強化

制度改正への適切な対応と法令遵守を引き続き徹底するとともに、全職員を対象としたアンケート等による意見収集を継続し、職員が主体的に活躍できる組織風土の醸成を図る。さらに、「くるみん認定」および「えるぼし認定」の取得に向けた具体的な行動計画を策定し、法人のブランド価値向上を推進する。

これらの取り組みを通じ、職員一同が一層の努力を重ね、地域社会に貢献する質の高い介護サービスの提供と、持続可能な法人運営の実現を目指す。

1. 運営状況

(1) 理事会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	5月24日 (土) 15:00～ 16:00	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和6年度経過報告並びに事業報告・業績報告について 報告第3号 令和6年度決算報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 報告第5号 評議員選任・解任委員会の結果報告 議案第1号 就業規則の一部改正について (始業、終業時刻および休憩時間) 議案第2号 次期役員の選任案について 議案第3号 定時評議員会の招集について 議案第4号 鷹栖さつき苑大規模修繕・リノベーションにおけるワークショップのファシリテーション及び空間整備計画策定支援業務の委託契約について 議案第5号 鷹栖さつき苑大規模修繕・リノベーションにおける介護環境適正化に関するコンサルティング及び基本構想・基本設計作成に関わる監修・アドバイザー業務委託契約について	理事5名 監事2名
2	6月14日 (土) 17:00～ 18:00	報告第1号 次期役員の選任について 議案第1号 理事長及び常務理事の選定について 議案第2号 令和7年度 介護職員等処遇改善加算支援手当Ⅲについて	理事6名 監事2名
3	8月23日 (土) 15:00～ 16:00	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和7年度 第一四半期経過報告について 報告第3号 令和7年度 第一四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査報告について 議案第1号 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑 大規模修繕・リノベーションにかかわる建築設計業務委託契約(案)について 議案第2号 業績給制度の導入(案)について 議案第3号 給与規程の一部改正(案)について 議案第4号 業績給制度移行支援コンサルティング業務の委託契約について 議案第5号 資金運用規程(案)の制定について	理事6名 監事1名
4	9月29日 (月) 18:30～ 19:00	議案第1号 介護DXを利用した抜本的現場改善事業【在宅向けサービスにおける実証研究】への参画及び契約について	理事6名 監事2名

回	期 日	議決事項等	出席者
5	11月15日 (土) 15:00～ 16:30	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和7年度第二四半期経過報告について 報告第3号 令和7年度第二四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査報告について 報告第5号 令和7年度 介護保険施設等運営指導の結果について（小規模多機能ホームぬくもりの家えん） 議案第1号 令和7年度第1次補正予算（案）の編成について 議案第2号 鷹栖さつき苑大規模修繕・リノベーションによる居住環境・労働環境改善計画スライド作成業務委託（案）について 議案第3号 資産運用規程附則（細則）の制定について 議案第4号 資産運用実施について	理事6名 監事2名
6	2月21日 (土) 15:00～ 16:15	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和7年度第3四半期経過報告について 報告第3号 令和7年度第3四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査報告について 議案第1号 給与規程の改定（案）について（別表1 役割資格等級範囲給表） 議案第2号 業績給制度の創設（案）について 議案第3号 給与規程の改定（案）について（業績手当の創設に伴う改定） 議案第4号 旅費規程の改定（案）について（第7条 鉄道賃） 議案第5号 決算賞与の支給（案）について 議案第6号 感染対策支援金の支給（案）について 議案第7号 令和7年度第2次補正予算（案）について	理事5名 監事2名
7	3月21日 (土) 15:00～ 16:30	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 積立金の計上について 議案第2号 令和8年度経営（事業）計画（案）並びに当初予算（案）について	理事5名 監事2名

（2）評議員会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	6月14日 (土) 15:00～ 17:20	議案第1号 令和6年度 事業報告並びに決算報告について（監査報告含む） 議案第2号 第6次中期経営3か年計画総括及び第7次中期経営3か年計画（案）について 議案第3号 令和7年度経営（事業）計画並びに当初予算（案）について 議案第4号 次期役員（理事・監事）の選任について	評議員 5名

(3) 監査等の実施状況

① 監事監査

回	期 日	主な監査実施項目	監査実施者
1	5月15日(木) 15:00～ 15:45	令和6年度経過報告並びに事業報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
2	8月20日(火) 15:00～ 15:45	令和7年度第1四半期経過報告について 令和7年度第1四半期業績報告について 令和7年度第1四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事1名
3	11月6日(木) 15:00～ 15:45	令和7年度第2四半期経過報告について 令和7年度第2四半期業績報告について 令和7年度第2四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
4	2月13日(金) 15:00～ 15:40	令和7年度第3四半期経過報告について 令和7年度第3四半期業績報告について 令和7年度第3四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名

(4) 入職者状況

単位：人

入職者			紹介元								
	入職者数	内 正職員	職員紹介	人材紹介	ハローワーク	学校推薦	求人広告	鷹栖町社協	技能実習生	特定技能	本人直接
介護職員	14	11	0	3	0	1	0	2	2	5	1
介護職員以外	12	2	2	1	2	0	0	1	0	0	6

(5) 退職者状況

単位：人

入職者		
	退職者数	内 正職員
介護職員	14	12
介護職員以外	15	3

(6) 令和8年4月1日入職者

単位：人

入職者			紹介元							
	入職者数	内 正職員	職員紹介	人材紹介	ハローワーク	学校推薦	求人広告	技能実習生	鷹栖町社協	
介護職員	5	3	0	0	0	3	0	0	2	
介護職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(7) 介護職員（正職員）離職率

単位：％

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
離職率	8.5	7.2	4.6	9.5	7.8	4.3	6.8	4.3	5.4	7.9

(8) 資格保有・取得状況

単位：人

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	保健師	管理栄養士	理学療法士	社会福祉士（精神保健福祉士）	2級ヘルパー（介護職員初任者研修含む）	社会福祉主事
正職員	58 (-4)	24 (-5)	8	0	2	2	2	8【1】	24	18
パート職員	16	2	3	2	0	栄養士1	0	1	19	1
計	74	26	11	2	2	3	2	9【1】	43	19

註：令和8年3月31日現在の在籍者 精神保健福祉士は【 】で表示

註：下段（ ）内は令和7年度取得者数

(9) 諸会議

① 経営改善会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎週水曜日 10:10～11:00	安定的かつ効率的な施設・事業所経営を図るため、経営・運営上における課題や重要事項について協議・決議することを目的とする。	施設長 各部長 各課長	33回

② 財政健全化推進チーム・地域包括ケア推進チーム会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第4水曜日 13:15～15:00	・収入と支出のバランスが取れた安定的な財政構造の実現を図るために必要な推進（計画策定・実行・評価）を行う。 ・新たな地域ケア（地域包括ケア）に取り組むために必要な事業所の運営改善を図る。	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援専門員等	6回

③ 衛生委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第4水曜日 13:00～13:15	・職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事 ・職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事 ・労働災害の原因調査及び再発防止対策で衛生に係る者に関する事 など	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援専門員等	12回

④広報委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
2 ヶ月に1回開催 17:45～18:15	地域・家族・利用者の方々に広報誌等を見てもらうことで、施設の取り組みを知ってもらい、ボランティアや地域の方々との交流につなげるきっかけをつくる。 主な内容 ・経営（事業）計画、決算報告 ・満足度調査結果報告 ・各事業所の季節行事 ・入社式、永年勤続表彰、各種表彰 ・長寿のお祝い会 ・その他	部長 尾上健介 大矢敏之 和泉千春 林由美 谷口尚弘 河田真美子 舟根佳奈	6 回

⑤感染症対策委員会・担当者会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
(感染症対策委員会) 毎週水曜日 10:10～11:00	・感染症対策に関すること ・感染症予防ワクチン接種に関すること ・その他	施設長 部長 (2) 課長 (3)	33 回
(担当者会議)	・感染症予防研修について ・感染症予防ワクチン接種に関すること	施設長 課長 看護師	2 回

⑥職員全体研修・会議

	目 的	出席者	開催実績
1. 全体研修	感染対策研修会 (対象：全職員～各事業所単位で実施) 講師：谷水さおり・藤川朋恵)	全職員	全体研修 各事業所 1 回
	令和7年10月24日・30日 『パワーハラスメント研修』 講師：倉雅彦 社会保険労務士	全職員	2 回
	令和8年3月5日、12日 『基礎介護力向上研修』 トランスファー研修（初級・中級 各2回）	全職員	4 回
2. 全体会議	令和7年5月30日（金）6月5日（木）18:00～20:00 1) 令和7年度社会福祉法人さつき会経営計画・事業計画について 2) 介護職員処遇改善について 3) 福祉関連取得支援金について 4) 人材紹介謝礼規程について 5) 有給休暇の取得について 6) 各種相談窓口について（眷顧状態・ストレス・ハラスメントなど） 7) 交通安全について 8) BCP（業務継続計画）について 9) その他	合計 112 名	2 回

3. 業績給制度説明会	令和8年1月28日（水）18:00～19:00 （オンライン同時配信） 『業績給制度の導入について』	合計 94名	1回
-------------	--	-----------	----

⑦次世代の経営を担う人材育成研修会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
令和7年 7月30日	『介護現場における生産性向上の基本的理解と推進方法1』 講師：株式会社 TRAPI 齊藤 陽 氏	16名	1回
令和7年 8月19日	『介護現場における生産性向上の基本的理解と推進方法2 ～準備8割ワーク～』 講師：株式会社 TRAPI 齊藤 陽 氏	16名	1回
令和7年 9月17日 19日	『介護施設の経営者に必要な実務力』 講師：全国高齢者ケア研究会 研究委員長 泉田照雄氏	計16名	2回
令和7年 11月25日 26日	『介護施設の運営改善と KPI 設計』 講師：全国高齢者ケア研究会 研究委員長 泉田照雄氏	計16名	2回
令和8年 2月18日 19日	『介護施設の組織運営・人材育成。運営改善における作用点 思考』 講師：全国高齢者ケア研究会 研究委員長 泉田照雄氏	計16名	2回
令和8年 3月2日	『地域まるごとケアの実践現場から』 講師：社会福祉法人ひだまり 理事長 永田かおり氏	16名	1回

⑧さつき苑大規模修繕・リノベーションワークショップ

ワークショップメンバー 【さつき苑】 波瀾施設長、谷本部長、尾上部長、室橋主任、看護師 宮草久美 鈴木管理栄養士、舟根事務員 【外部事業者】 株式会社ウチダシステムズ、デジタルアドサービス株式会社 ケアスタディ株 式会社、柴滝建築設計事務所	
開催日時	目 的
令和7年5月21日	①『現状把握と価値共有』
令和7年6月27日	②『SWOT 分析による方向性整理』
令和7年6月27日	③『価値をどう伝えるか』
令和7年8月29日	④『空間イメージの具現化』
令和7年10月17日	⑤『“いい場” の再定義と未来年表』

(11) サービス向上発表会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
令和 8 年 2 月 27 日 18:00～ 19:30	令和 7 年度 サービス向上発表会 記念発表会 記念発表 1 『「自宅で暮らしたい」 思いを叶えるために』 鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑 主任 米澤 美絵 訪問介護員 深瀬 千津 記念発表 2 『稼働率 100%を実現！デイサービス運営改善の軌跡』 鷹栖町デイサービスセンターはびねす 課長 谷 和仁 特別発表 『HOL な職場作り』 特別養護老人ホーム静苑ホーム HOL 課 課長 橋本 抄苗 様 ※録画視聴	79 名 ※オンライン参加 含む	1 回

(12) 広報誌の発行（町内全戸配布）

発行回数	発行部数
年 6 回発行	各 3, 000 部発行

(13) 実習生等受入状況

実習日程	人数	実習名	実習生所属学校等
6 月 9 日～7 月 12 日	2	介護実習（2 年生）	東川国際文化福祉専門学校
8 月 25 日～9 月 6 日	3	介護実習（1 年生）	東川国際文化福祉専門学校
8 月 18 日～9 月 17 日	2	ソーシャルワーク実習Ⅱ（3 年生）	市立旭川大学保健福祉学部 コミュニティ福祉学科
10 月 9 日～10 日	14	介護職員初任者研修 介護実習	北海道鷹栖高等学校
12 月 1 日～12 月 22 日	3	介護実習（1 年生）	東川国際文化福祉専門学校
2 月 24 日～3 月 22 日	3	介護実習Ⅱ（3 年生）	市立旭川大学保健福祉学部 コミュニティ福祉学科
人 数	27		

(14) 苑外研修参加状況

月	日	研修・会議名	開催地	参加者
4	19～20	全国先端ケア研究会	オンライン	波潟ほか 14 名
5	30	全国老施協オンライン会議	オンライン	波潟
6	3～4	認知症介護実践研修	旭川市	藤川、大懸、小林
	11～12	認知症介護実践研修	旭川市	藤川、大懸、小林
	16	全国老施協代議員総会	東京都	波潟
	17～18	先進施設視察	東京都	波潟、谷本、尾上
	21～22	第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	札幌市	大河原
	26	北広島市介護サービス連絡協議会シンポジウム	北広島市	波潟
7	4	キャラバンメイト養成研修	札幌市	林崎
	4	令和 7 年度第 1 回介護支援専門員研修	旭川市	河田
	7	安全運転管理者等講習	旭川市	谷
	8	令和 7 年度全道ホームヘルプサービス研究発表会	札幌市	米澤、藤木
	24	新任介護職員研修	旭川市	水澤、タマン
8	6	認知症介護実践研修	旭川市	藤川、大懸、小林
	6	科学的介護フォーラム	札幌市	波潟ほか 6 名
	7	先進施設視察、在宅サービスにおける介護 DX を利用した抜本的現場改善事業勉強会	札幌市	波潟ほか 4 名
	18	認知症介護実践リーダー研修	旭川市	佐久間
	19～20	令和 7 年度北海道介護支援専門員更新研修（実務経験者）	オンライン	佐藤恭
	21～22	学卒者採用向け学校訪問	札幌近郊、旭川	尾上
	26	ぬくもり友の会 先進地域視察研修	江別市・他	尾上、松原、佐藤晴、設楽、林
9	1～5	2025 年度第 1 回認知症介護実践リーダー研修	札幌市	角谷
	3	加藤財務大臣・今津旭川市長と老施協役員との情報交換会	旭川市	波潟
	4～5	全国老施協北海道ブロック研究会・全道老人福祉施設研究発表会	札幌市	波潟、谷、岩井、成田
	8～12	WJU 見学会	三重県、滋賀県	波潟、大矢
	9	令和 7 年度第 1 回介護支援専門員研修	旭川市	河田
	19	鷹栖中学校お仕事説明会	鷹栖町	谷、松原

	20	全国高齢者ケア研究会 リーダー研究会	オンライン	和泉、田村、大倉、藤川、大矢、藤矢、林
	24～25	一般社団法人介護人材政策研究会 第1回タウンミーティング	美瑛町	波潟
10	2～6	ノーリフトケア国際シンポジウム・先進施設視察研修	神戸市	波潟、谷本、室橋
	8	全国老施協会議	オンライン	波潟
	21～22	令和7年度北海道介護支援専門員更新研修(実務経験者)	オンライン	佐藤晴
	21	認知症介護実践リーダー研修	札幌市	波潟、角谷
	24	令和7年度認知症介護実践リーダー研修・報告会	札幌市	佐久間
	28	道北地区老人福祉施設協議会 正副会長会議		波潟
	30	道北地区老施協介護職員研修会	旭川市	中澤
11	7	令和7年度第2回介護支援専門員研修	旭川市	河田
	7～9	第12回日本予防理学療法学会学術大会	福岡県	大河原
	15	多職種協同による自立支援と重度化対応・重度化予防研修	オンライン	谷、室橋、鈴木、和泉、藤川、大矢、森、大倉、松原、谷水、己上
	16	アイムジャパン安全衛生大会	旭川市	尾上
	19	道北地区老施協事務職員研修会	旭川市	波潟、舟根、佐藤凜、小瀧
	20	旭川市立大学特別講義	旭川市	波潟
	25	道北老施協栄養士・調理員研修	旭川市	己上、鈴木
12	1	令和7年度北海道高齢者虐待防止推進研修会	オンライン	室橋
	3～7	全国老人福祉施設大会・研究大会～JSフェスティバル in 山口、法人経営・施設運営に関わる視察見学	山口県・岡山県	波潟、谷、古田、田村
	11～12	WJU勉強会	東京都	波潟
	13	北海道ホームヘルプサービス協議会上川・留萌地区別紙資質向上研修	旭川市	米澤、深瀬、藤木
	14	全国高齢者ケア研究会 ICT 研究会	オンライン	波潟、谷本、尾上、谷、秋保、松原、米澤、能登
	15～16	全国老施協第56回総会	東京都	波潟
	20	多職種協同による自立支援と重度化対応・重度化予防研修	オンライン	谷、室橋、鈴木、和泉、藤川、大矢、森、大倉、松原、谷水、己上
	23	デジタル中核人材養成研修	オンライン	大河原

1	9	全国老施協在宅サービス経営委員会	オンライン	波潟
	15	全国老施協デイサービス事業継続相談支援研修会	オンライン	波潟
	16	北海道老施協 幹事会	札幌市	波潟
	20	地域医療計画研究会	札幌市	波潟
	21	全国老施協正副会長会議	オンライン	波潟
	30	北海道老施協施設長研究セミナー	札幌市	波潟
2	2	デジタル中核人材養成研修	オンライン	古田
	12	令和7年度第3回介護支援専門員研修	旭川市	河田、佐藤恭、林崎
	16	全国老施協デイサービス事業継続等相談支援研修会	オンライン	波潟
	20	第2回認知症介護実践研修	札幌市	和泉
	22	シルバーリハビリ指導士養成認定講師研修会	オンライン	大河原
	25	アイムジャパン受入企業懇談会	札幌市	尾上
3	11	北海道介護支援専門員実務研修	オンライン	和泉、沖
	14	多職種協同による自立支援と重度化対応・重度化予防研修	オンライン	谷、室橋、鈴木、和泉、藤川、大矢、森、大倉、松原、谷水、己上
	31	北海道介護支援専門員実務研修	オンライン	和泉、沖
				述べ 166 名

令和7年度 総務課事業報告

1. 総括

令和7年度は、基本方針である「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」のもと、重点目標に掲げた「心のこもった窓口対応」「DX 推進による生産性向上とサービスの質向上」「働きやすく働きがいのある職場づくり」「健全経営の推進」の実現に向け、計画的に取り組んだ。

接遇および施設環境の整備では、大ホールのレイアウト変更や観葉植物を取り入れた環境づくりを行い、来訪者にとって心地よい空間の創出に努めた。あわせて、ウェルカムボードの設置により来訪者への歓迎の意を可視化し、好評を得た。また、接遇研修を継続的に実施することで、職員の接遇意識の向上を図った。

業務の見える化と生産性向上においては、経理担当者によるネット購入の実施により業務の効率化を進めたほか、証憑書類の電子保存化に着手した。さらに、生成 AI の活用による事務作業の効率化、社用メールを活用した決裁・回覧文書の削減、社内サーバーの集約を実現するなど、DX の推進に一定の成果が見られた。一方で、日用品購入の一元化(対象施設の拡大)については、次年度への課題として継続対応とする。

職員全体研修として、パワーハラスメント研修およびストレスチェック結果に基づく研修を実施した。また、第4回全国老人福祉施設研究発表会(山口県)において、デイサービスセンターはびねすの谷課長の発表が優秀賞を受賞したことを記念し、サービス向上発表会(記念発表)を企画・開催した。

職員の資質向上に関しては、課内会議を継続的に開催し、接遇・言葉遣い・災害初動対応・モチベーション向上等の各種研修を実施した。また、外部研修への参加を通じて、チームおよび個々のスキル向上を図った。

経営分析と対策の検討では、月次の収支状況を定例会議で確認しながら、必要な対策の検討・実施を行った。加えて、補助金リストを整備し、活用可能な制度を把握のうえ随時活用した。

また、新年度事業計画策定に先立ち、全職員を対象に「よりよい施設づくり」「働きがいのある職場づくり」に関する意見・アイデアを募るアンケートを実施した。多くの意見が寄せられ、それらを集約し計画策定の参考とした。

災害対策および感染症対策については、各種災害訓練を計画どおり実施した。一方で、地域住民との連携体制の構築については実現に至らず、次年度の課題として引き継ぐ。

全体として、各取組は概ね計画どおり推進することができた。次年度においては、本年度の成果と課題を踏まえ、DX のさらなる推進、災害対策体制の強化、職員の働きがい向上に一層取り組む。

2. 展望（次年度に向けて）

(1) 心温まるおもてなしと快適な環境づくり

電話対応および接遇マニュアルの見直しと研修を継続的に実施し、職員一人ひとりの接遇力向上を図る。あわせて、5S 活動の徹底により業務効率と安全性を高めるとともに、特養さつき苑の正面玄関および大ホールにおいて、季節感を取り入れた質の高い環境づくりを継続し、来訪者および職員にとって快適な空間を提供する。

(2)DX 推進による生産性向上と質の高いサービス提供

TKC、ほのぼの、DocuWorks 等の既存システムのさらなる活用を図り、電子決裁や勤怠管理を含めた DX を推進する。そのため、先進施設の取り組みの視察やベンダーによる伴走支援サービスの活用を進める。あわせて、日用品購入の一元化の拡充、文書の電子保存や請求書・領収書の電子化など、ペーパーレス化を一層推進する。さらに、業務マニュアルの整備を進め、業務の標準化と円滑な引継ぎ体制の構築を図る。

(3)職員の資質向上とチームワークの醸成

外部研修や他施設見学への参加を積極的に推進するとともに、課内研修(業務の目的・目標共有、チームワーク向上、情報伝達等)を毎月実施し、組織力の向上を図る。また、花壇整備や交流イベント等を通じて、入居者との関わりの機会を積極的に創出する。

(4)健全な会計事務の推進

経理規程に基づく適正な事務処理を徹底するとともに、ネット購入やクレジットカード決済、利用料請求の電子化を進め、効率的かつ正確な会計事務の実現を図る。

(5)経営分析に基づいた対策と補助金の活用

月次の収支確認と経営分析を継続し、全事業所における事業活動収支差率 10%、経費比率 26%以下の達成に向けた取組を強化する。補助金リストの更新と計画的活用を推進するとともに、コストの見える化により職員のコスト意識向上を図る。

(6)安心・安全な事業運営のための災害・感染症対策

防災用品や備蓄品、災害対応機器の整備および定期点検を実施するとともに、各種災害訓練を年 2 回計画的に実施する。感染症対策についても、必要物品の確保・管理および適切な事務対応を継続する。

以上の取組を通じ、総務課職員一同が連携と協働を一層強化し、効率的かつ質の高い業務遂行を実現することで、法人の安定運営と持続的発展に貢献していく。

3. 運営状況

(1) 職員の状況

単位：人

役職・職種 区分		令和7年度 期 首	令和7年度 期 末	増 減
施設長		1	1	0
副施設長(施設長兼務)		(1)	(1)	0
地域密着型サービス事業部長		1	1	0
施設・在宅サービス事業部長		1	1	0
事務員	正 職 員	3	3	0
生活相談員	正 職 員	3	6	3
	パート職員	1	1	0
ケアマネジャー	正 職 員	7	6	▲1
出向ケアマネジャー	正 職 員	1	1	0
計画作成担当者	正 職 員	4	4	0
サービス提供責任者	正 職 員	3	3	0
介護員	正 職 員	52	48	▲4
	パート職員	22	22	0
ケアアシスタント	パート職員	6	9	3
ホームヘルパー	正 職 員	1	1	0
	パート職員	5	4	▲1
	登 録	1	1	1
看護職員	正 職 員	5	6	1
	嘱 託 職 員	1	0	▲1
	パート職員	5	4	▲1
理学療法士	正 職 員	2	2	0
管理栄養士	正 職 員	2	2	0
調理員	正 職 員	1	0	▲1
	パート職員	13	15	2
運転員	パート職員	2	2	0
用務員	正 職 員	1	1	0
夜間管理当直員	パート職員	7	7	0
嘱託医		1	1	0
合 計		153	153	0

注) 兼務職員については、主たる職務へカウントする。

(2) 賞与支給状況

時 期	支給月数
	正職員
6 月	1.0～1.8
12 月	1.5～2.2
計	2.5～4.0

(3) 寄付金関係

単位：円

区 分	件 数	総 額	摘 要
寄付金	8	280,000	法人・各事業所運営のため

(4) 環境整備・苑内修繕状況(10 万円以上)

単位：円

月	環 境 整 備 ・ 修 繕 名	整備・修繕先	費用	実施施設名
4	コレカラ券売機新紙幣対応作業	柴滝自動販売機	113,300	総合事業
	男子職員トイレウォッシュレット取替	齋藤工業所	107,800	さつき苑
5	植樹帯修繕	立山青野建設	200,000	ぬくもりの家えん
	2 階給油機取替工事	大洋設備	308,000	たかほ
6	誘導灯取替	五光トータル	220,000	なごみ
7	トイレウォッシュレット取替	大洋設備	143,000	ぬくもりの家えん
10	シャワートイレ取替	齋藤工業所	100,100	なごみ
	床暖・ボイラー用温度調節器取替	大洋設備	605,000	さつき苑
12	スプリンクラー整備	五光トータル	1,320,000	ぬくもりの家えん
2	2 階厨房給油機交換	東光設備	220,000	たかほ
3	ガレージ修理	盛永組	693,000	ぬくもりの家えん
合計			4,030,200	

(5) 苦情・意見に対する改善状況

部 署	受付月	苦情・意見の内容	改善状況
ショートステイ さつき苑	8 月	ケアの内容に関すること (異性の介護、職員の対応 への不満)	本人へサービス提供内容の詳細について事前確認・合意形成を丁寧に図る。
介護センター さつき苑	5 月	スタッフの対応について (サービスの調整に関する こと)	サービス計画作成にあたっては、本人の状態と計画内容を担当ケアマネと家族と共有する。また調整が困難である場合は、事業所内で情報共有し対応を検討する。
小規模 ぬくもりの家えん	4 月	スタッフの対応について (職員の声かけに関する こと)	状況を確認し本人の聴力・状態に合わせた対応をとるよう改善のため指導

(6) 総務課外部職員研修

開催年月日	講師	研修会名	参加職員数
11 月 19 日	社会保険労務士法人 ロームホーム 代表 及川 進氏	道北地区老施協事務職員研修会	3

(7) 総務課 課内会議・研修

毎月 1 回開催：業務確認等実施

開催年月日	議題	研修
4 月 24 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・その他	接遇研修①「伝わるコミュニケーション」
5 月 22 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・各会議から報告・その他	
6 月 19 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・その他	接遇研修②「きくコミュニケーション」
7 月 24 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・各会議から報告・収支状況の確認と経営分析、対策の検討	接遇研修③「3 つの承認コミュニケーション」
9 月 16 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・接遇マニュアルの改訂・生産性向上アンケート結果の共有	
10 月 16 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・各会議から報告・収支状況の確認と経営分析、対策の検討	改訂版接遇マニュアルによる接遇研修
11 月 18 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・各会議から報告・収支状況の確認と経営分析、対策の検討	

2 月 19 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・年間計画、活動計画確認・法人本部、総務課事業計画・サービス向上発表会準備について	
3 月 24 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・辞令交付式について・業務分掌について	

令和 7 年度 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑・ショートステイさつき苑 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和 7 年度は、新型コロナウイルスおよびノロウイルスによるクラスター発生はなく、安定して生活をしていただくことができた。入院者数は 14 名（前年度 26 名）、延べ入院日数は 245 日（前年度 314 日）と、約 25%減少した。入院は、尿路感染と肺炎が多く、風邪からの脱水や排尿障害が原因としてあった。入居者の平均年齢は 89.3 歳、平均要介護度は 3.9 と、ほぼ前年度と変わりなかった。退去者は 13 名（前年度 17 名）であり、そのうち 7 名（前年度 14 名）が施設内での看取りケアを受けた。通院件数は 204 件（前年度 205 件）で特に歯科、皮膚科、泌尿器科の専門科受診が多く、継続的な通院対応を要した。

事故件数については、昨年度より大幅に減少し 159 件（前年度 236 件）であった。事故の詳細については別添の事故件数報告を参照されたい。転倒、転落事故は 39 件（昨年 71 件）と大きく減少した。重度化の関係で動かないということもあるが、センサーベッドやリフト活用の影響もあったと考える。中でも、薬剤関連事故は 39 件（前年度 49 件）と減少した。重大事故としては昨年同様に骨折が 2 件あった。

食事は委託業者の新食事サービスを本格導入。タンパク質や食物繊維、エネルギー量の増量と少量でも栄養価の高いものが提供されるようになった。しかし、変化のある食事ができなくなっている点がある。食事形態については引き続き管理栄養士が全体のラウンドと食事介助を実施、多職種と連携して支援体制を強化した。

職場環境においては、リフレッシュ休暇を最大 10 連休まで拡大した。しかし、退職者や感染症による勤務制限の影響もあり、6 連休にとどまった。退職者は 7 名（前年度 6 名）で、その内訳は看護師 1 名、介護転職者 4 名、外国籍技能実習生の帰国 1 名、道外への転居 1 名、である。看護師と介護は業務の役割、やりがい、夜勤負担、重介護、行事の負担、人間関係などが離職理由となった。行事・レクリエーション・面会については、企画していた行事と新しくできたツルハへの買い物外出ができた。業務効率化の取り組みとしては、褥瘡予防と体位変換の負担軽減のためエアマット 9 台増加、移乗介護の腰痛軽減のためリフトの導入、皮膚の乾燥を防ぐ効果のあるウルトラファインバブル機の試用、居室の生体センサーとカメラの試用を実施しケアの質向上と職員の負担軽減を図った。

ショートステイ事業については、新規の方を積極的に受け入れ、家族介護負担の軽減や、一人暮らしで体調を崩した方の受け入れを行い、少しずつ自宅に戻れるように試みた。しかし、長期利用者が多く、入居への移行時に空床が発生することから、次の利用者の受け入れに時間を要した。

事業実績については、特養事業において目標稼働率 98.0%に対し、実績は 97.9%（前年度 96.2%）となり、目標の介護保険収入 232,404,000 円に対し、実績は 234,874,857 円であった。ショートステイ事業においては、目標稼働率 90%に対し、実績は 90.6%（昨年度 78.2%）と目標を達成することができた。介護保険収入は目標 32,415,000 円に対し、実績は 39,861,449 円であった。

2. 展望（次年度に向けて）

令和 8 年度も、「入居者および職員が楽しく過ごす時間をつくる」ことを目標とし、日常の中での楽しみを増やす取り組みを強化する。具体的には、レクリエーションや体操を行い家族との交流や行事、外出の機会を拡充し、入居者の生活の質向上を図る。

設備面では、大規模修繕・リノベーションに向けて細かな計画を作成するとともに、業務の効率化・負担軽減につながるインカム、カメラを導入とノーリフトを推進し資格取得を計画的に行う。また、

さらに、褥瘡予防と排泄ケアの向上を図り加算を取得していくとともに支出面においては、電気代や燃料費の高騰が引き続き見込まれるため、必要な節約を徹底し、経費の削減と業務の効率化・適正化に努めていく。

3. 運営状況

（1）事業収入（介護保険収入・介護予防事業委託費）

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	232,404千円	234,874千円	101.0%	226,230千円	103.8%
短期入所生活介護事業	32,415千円	39,861千円	122.9%	31,214千円	127.7%

（2）ベッド稼働率

事業名	目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	98.0%	97.9%	99.8%	96.2%	103.7%
短期入所生活介護事業	90.0%	90.6%	100.6%	78.2%	128.6%

（3）特養ホーム月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R7年度	97.9	97.9	99.1	99.8	100	98.9	100	97.8	97.0	91.9	97.5	99.0	98.1
R6年度	97.5	99.9	97.5	98.6	98.1	99.9	91.5	92.6	94.9	91.5	93.7	98.6	96.2

（4）短期入所月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R7年度	72.7	87.7	82.7	103.2	100.3	100.7	95.2	92.3	102.6	83.9	74.3	91.4	90.6
R6年度	77.3	81.7	81.3	72.3	71.6	82.3	65.5	89.3	85.5	73.9	73.9	83.2	78.2

(5) 延べ入居者人数

事業名	目標延べ 入居者数(A)	実際延べ 入居者数(B)	達成率 (B)/(A)×100	前年度実際延べ 入居者数(C)	伸長率 (B)/(C)×100
特別養護老人ホーム事業	17,885人	17,560人	98.2%	18,114人	96.9%
短期入所生活介護事業	3,468人	2,844人	82.0%	2,977人	95.5%

(6) 特養ホーム新規入居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	1	2	1	1	0	0	0	1	0	4	1	2	13
R6 年度	2	1	1	1	2	0	2	0	3	1	2	1	16

(7) 特養ホーム新規入居前居住先

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
他施設	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ショート	1	1	0	1	0	0	0	1	0	3	1	1	9

(8) 特養ホーム退居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	2	1	1	0	0	0	0	1	2	3	0	3	13
R6 年度	1	1	2	2	0	0	3	2	2	2	1	1	17

(9) 特養ホーム退居理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	7
施設内急逝	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
入院中死去	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2

(10) 短期新入所規利用者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	3	3	2	4	2	0	1	1	1	0	1	0	18
R6 年度	1	0	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	15

(11) 特養圏域別利用者数（1日現在）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
鷹栖	44	43	44	44	45	45	45	45	45	46	46	46	48.7
町外	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4.3

(12) 短期入所圏域別利用者数（月間）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
鷹栖	13	11	12	16	15	14	15	18	16	15	12	16	14.4
町外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(13) 面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者件数	48	53	47	45	71	48	52	52	54	64	27	70	631 昨年 577

※ホールでの面会を実施した。

(14) 行事

実施日	行事名	内容
5/1.2	お花見ドライブ	パレットヒルズに行き、気分転換を図る。
5/20	北野小学校交流会	4年生とゲームや歌で楽しむ。
7/13	さつき祭	家族との交流。キッチンカーや三味線の出し物で楽しむ。
8/1	焼き肉会	北海道のジンギスカン、焼き鳥を楽しむ。
8/10	御神輿観覧	熱夏フェスタの御神輿を観覧
8/12.19.26	花火大会	ユニットごとに夕涼み、花火をする
9/15	敬老の日 (長寿お祝い会)	米寿、長寿のお祝いの方と入居者その家族で実施。 祝膳とデザートを入居者全員に用意する。
10/12.19.26	出前会	それぞれのユニットで各自が食べたいものを楽しむ。
12/24	寿司会	地元のお寿司屋さんのお寿司を楽しむ。
1/1～3	書き初め 福笑い	各ユニットで書き初め、福笑いを実施する。
1/10	新年会	鍋を各ユニットに総務職員も協力し振る舞う。獅子舞と宝引きを各ユニット回り実施。
2/3	節分	職員が鬼になり各ユニットを回る。
3/3	ひな祭り	総務職員がひな人形をホールに飾る。各ユニットで雛人形を折り紙で作成し飾る。

(15) 諸会議

① リーダー会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1金曜日 16:00～17:30	・利用者の状態把握とケア方針の決定 ・業績の把握と対策 ・業務改善 ・スタッフマネジメント	施設長・部長 主任・各リーダー	11

②ユニット会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月各ユニット 1回 18:00～19:00	・利用者の状態把握とケア対応方針を決定 ・褥瘡ハイリスク者の把握とケア方針の決定 ・食事状況の把握と栄養マネジメント ・抑制廃止とその対策 ・本人、家族からの要望・苦情の把握と対策	部長、主任、栄養士、看護師、リーダー、ユニット職員	10

③ナース会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月1回 月又は木 14:00～15:00	・入退院状況・新規入居、退去者状況の把握 ・褥瘡及びハイリスク者の把握と対策 ・排便コントロール状況と対策 ・向精神薬、眠剤、認知症改善について ・ケース検討、業務改善	全ナース 部長・主任	6

(16) 委員会活動

① 生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1金曜日 16:00～17:30	・利用者の安全確保と介護サービスの質の向上 ・職員の負担軽減のための対策検討. ・介護機器の活用方法の見直しや、定期的な点検. ・職員に対する研修の企画・実施.	施設長・部長 主任・各リーダー	11

②安全対策委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1金曜日 16:00～17:30	・安全管理対策の構築 ・ヒヤリハット事例の分析 ・再発防止策の検討 ・事故防止に関する研修 ・リスクマネジメント 以上の推進	施設長・部長 主任・各リーダー	11

③身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1木曜日 16:00～17:30	・利用者の安全と人権擁護の観点からの支援実施 ・高齢者虐待の早期発見 ・職員の意識向上、職場環境の見直しと改善 ・虐待の防止と身体拘束防止	施設長・部長 主任・各リーダー	11

(17) 研修

月	会議・研修名	内容	担当
7月	食中毒研修	食中毒の原因、予防、冷蔵庫の掃除など	栄養士
8月	救急救命研修	転倒時の対応	主任
8月	PPE 研修	正しい感染予防衣の装着・物品確認	看護師
9月	ターミナルケア研修	看取りについて	看護師
10月	PPE 研修・感染症対策研修	インフルエンザ、ノロウイルス対応	看護師
11月	ターミナルケア研修	虐待の定義、マニュアルの確認他	相談員
1月	虐待・身体抑制廃止研修	虐待の定義、マニュアルの確認他	相談員
2月	救急救命研修	緊急時の対応	主任
3月	避難訓練（BCP）	避難訓練・避難時の職員対応	全員
8～1月	基礎介護研修	食事ケア、排泄ケア、入浴ケア、移乗ケア、医療、認知症ケア	法人全体

令和 7 年度特別養護老人ホーム現況報告書

(自：令和 7 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 8 年 3 月 31 日)

1. 入居者状況

(1) 利用（入退所）状況（過去5年）

年 度	定 員	新年度より 繰越人員			新規入所			死亡・退所人員						翌年度へ 繰越人員		
								死亡			退所					
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
R3	50	9	41	50	2	8	10	2	5	7	3	0	3	6	44	50
R4	50	6	44	50	1	10	11	0	8	8	1	3	4	6	44	50
R5	50	6	44	50	2	7	9	1	6	7	1	1	2	6	43	49
R6	50	6	46	49	6	11	17	1	15	16	1	0	1	10	39	49
R7	50	10	39	49	4	9	13	2	8	10	2	1	3	10	40	50

(2) 入居者住所地（令和8年3月31日現在）

	男性	女性	合計
鷹栖町	9	36	45
町外	1	4	5
合計	10	40	50

(3) 入居者待機者状況（令和8年3月31日現在）

	老健	病院	その他	GH	在宅	合計
計	3	11	6	0	9	29

(4) 在所期間一覧表（令和8年3月31日現在）

1年未満	11
1～4年未満	28
4～6年未満	1
6～8年未満	7
8～10年未満	0
10年以上	3
合 計	50

(5) 入居者年齢構成（令和 8 年 3 月 31 日現在）

	在 籍 者		
	男性	女性	計
65 才～74 才	1	0	1
75 才～79 才	0	4	4
80 才～84 才	1	5	6
85 才～89 才	3	9	12
90 才～94 才	3	13	16
95 才～99 才	2	7	9
100 才以上	0	2	2
計	10	40	50

(6) 介護度の状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
計	0	4	15	15	16	50
男性	0	0	5	2	3	10
女性	0	4	10	13	13	40

(7) 身体状況（障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定）

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
計	0	2	4	6	7	15	2	14	50
男 性	0	1	1	3	1	4	0	0	10
女 性	0	1	3	3	6	11	2	14	40

(8) 認知症の状況（認知症高齢者の日常生活自立度判定）

	正常	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	計
計	3	5	1	4	13	12	8	4	50
男 性	2	1	0	0	3	3	1	0	10
女 性	1	4	1	4	10	9	7	4	40

(9) 食事状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）

	自立	見守り	一部介助	全介助	経管栄養	合計
合計	7	15	13	10	4	49
男性	0	6	0	0	0	6
女性	7	9	13	10	4	43

(10) 移動状況 (令和8年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす		計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
合計	2	0	0	8	3	8	29	50
男性	1	0	0	3	1	1	4	10
女性	1	0	0	5	2	7	25	40

(11) 入浴状況 (令和8年3月31日現在)

	個浴	車いす浴	シャワー浴	合計
合計	16	33	1	50
男性	4	6	0	10
女性	12	27	1	40

(12) 排泄状況 (令和8年3月31日現在)

日中

	トイレ		ポータブル		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
計	10	23	0	0	17	(4)	50
男性	2	6	0	0	2	(1)	10
女性	8	17	0	0	15	(3)	40

夜間

	トイレ		ポータブル		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
計	9	7	0	0	34	(4)	50
男性	2	3	0	0	5	(1)	10
女性	7	4	0	0	29	(3)	40

(14) 入院状況

診療科目	症状・病名	日数
泌尿器	尿管ステント抜去・腎盂腎炎	16
消化器内科	急性胆嚢炎・胆嚢炎	39
呼吸器内科	肺炎	137
整形外科	骨折	39

2. 事故発生統計

(1) 事故の内容

内 容	特養	ショート	合計
転倒	12	12	24
転落	27	4	31
ぶつけた	10	0	10
誤飲(誤嚥)	1	0	1
誤投薬	8	2	10
投薬忘れ	30	4	34
異食	1	0	1
その他	14	1	15
圧迫	1	0	1
搔いた	0	0	0
不明	55	3	58
	159	26	185

(2) けがの程度

程 度	特養	ショート	合計
無傷	76	20	96
発赤（後に消失）	3	0	3
擦り傷	1	0	1
切り傷	4	0	4
内出血	48	5	53
やけど	0	0	0
腫れ	4	0	4
骨折	2	2	4
死亡	0	0	0
その他	6	1	7
打撲	0	0	0
表皮剥離	14	0	14
出血	1	0	1
	159	26	185

(3) 事故の種類

種 類	特養	ショート	合計
介助中	86	6	92
単独	38	20	58
自傷	0	0	0
不明	35	0	35
	159	26	185

(4) 事故の発生（発見）場所

場 所	特養	ショート	合計
リビング	38	6	101
浴室	13	0	9
トイレ	14	4	26
居室	38	6	69
廊下	2	5	11
食堂	0	0	0
その他屋内	2	0	5
屋外	0	1	2
不明（後に発見）	52	4	40
	159	26	185

3. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

日	申出者	内容	対応
8/11	本人	・異性からの排泄介助を受けたくない ・他利用者に対する職員の態度と言葉遣い。 ・管理者が職員の至らないところは目に見てほしいといったので何も言えない。	ケア方法の改善 職員のことばづかい、態度改善と教育 管理者の言葉の使い方の改善 その旨訪問は本人希望でせずに電話にてお詫びと改善策を伝える。

令和 7 年度 鷹栖町デイサービスセンターはびねす 事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和 7 年度は、前年度に強化した「安心して利用できるデイサービスづくり」「活動の質の向上」「機能訓練の充実」をさらに発展させ、特にレッドコードを活用した機能訓練の定着と効果の可視化に重点を置いて取り組んだ。

レッドコードによる運動プログラムは、利用者の身体状況に応じて柔軟に運動負荷を調整でき、継続的な参加を通じて身体機能の維持・向上を図ることができた。利用者自身が身体の変化を実感できる身体機能評価の場面も増え、その結果を担当者会議で利用者・家族・ケアマネジャーへ共有したところ、高い関心と喜びの声が得られた。評価の見える化は、利用者の運動意欲向上や自信の獲得にも結びついている。また、職員側においても個別機能訓練の視点がより深まり、日常支援全体に機能訓練の要素を取り入れる意識が高まるなど、支援の質向上を後押しした。

年間の利用実績では、安定した新規受け入れと既存利用者の継続利用により、年間平均利用者数は 33.5 名となり、前年度平均 29.9 名を大きく上回った。定員 34 名に対する稼働率も高い水準を維持し、安定した運営基盤の確立につながっている。介護保険収入は、令和 6 年度の 74,345,000 円に対し、令和 7 年度は 86,922,000 円となり、12,577,000 円の増収となった。利用者数の増加に加え、サービスの質向上による継続利用率の上昇が、収益面にも着実に反映された。

さらに今年度は、職員による運営改善の実践をまとめた研究発表「稼働率 100%を実現したデイサービス運営改善の軌跡」を、全道・全国の老施協研究発表大会で発表し、最優秀賞および優秀賞を受賞した。日々の実践が外部から高く評価されたことは、職員にとって大きな自信となり、サービスの質向上と組織力強化をさらに促進した。また、これらの成果を通じて、職員が自ら課題を見つけ改善につなげる意識が高まり、若手職員を含めた人材育成の推進にも結びついている。

2. 展望(次年度に向けて)

令和 8 年度は、今年度築いた高稼働・高品質な運営体制を基盤とし、34 名定員の安定稼働を目標として取り組む。

利用者数の維持だけでなく、レッドコードを中心とした機能訓練のさらなる質向上を図り、身体機能の維持改善に対する効果をより明確に示せる仕組みづくりを進める。また、利用者満足度の向上と継続利用率の維持に努め、安定した収益基盤を強化する。加えて、研究発表大会で得られた成果を一過性のものとせず、職員全体の実践力向上や業務改善の文化として定着させることで、地域からより一層信頼されるデイサービス運営を目指す。さらに、家族や関係機関との連携をより深め、在宅生活の継続を支える地域拠点としての役割を強化し、選ばれ続ける事業所づくりを推進する。

また、今年度確立した高稼働を維持するための運営改善手法や組織づくりの実践については、法人内の他事業へ積極的に横展開し、組織全体のサービス品質向上に寄与していく。あわせて、次世代を担う職員の育成に重点を置き、現場実践を通じたマネジメント力と課題解決力の向上を図ることで、持続可能で強い運営体制の構築につなげる。

3. 運営状況

(1) 業績

<事業収入>

目標介護保険収入 (上方補正後) (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) × 100
87,743千円	86,922千円	99.1%	74,345千円	116.9%

<1日の平均利用者数>

目標 平均利用者数(A)	実際 平均利用者数(B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 平均利用者数(C)	伸長率 (B) / (C) × 100
30.0名	33.5名	111.7%	29.9名	112.0%

(2) 月別登録者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7年度	146	148	151	151	153	150	150	149	150	151	149	149	1,797
R6年度	120	122	120	125	123	117	127	134	134	134	136	140	1,532

(3) 月別延べ利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7年度	808	872	843	932	909	906	954	847	822	787	799	890	10,369
R6年度	767	770	724	742	755	723	819	845	752	714	761	848	9,220

(4) 月別稼働率(目標30名として算出)

単位：%

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7年度	103.6	107.7	112.4	115.1	116.5	116.2	117.8	112.9	105.4	109.3	111.0	114.1	111.8
R6年度	98.3	95.1	96.5	91.6	93.2	96.4	101.1	108.3	100.3	99.2	105.7	108.7	99.5

(5) 1日平均利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7年度	31.1	32.3	33.7	34.5	35.0	34.8	35.3	33.9	31.6	32.8	33.3	34.2	33.5
R6年度	29.5	28.5	29.0	27.5	28.0	28.9	30.3	32.5	30.1	29.8	31.7	32.6	29.9

(6) 圏域別利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
鷹栖	102	104	109	106	109	107	111	113	105	108	105	107	107.1
旭川	34	34	34	37	37	35	36	34	35	32	35	36	34.9

(7) 新規利用者の紹介先(※直接包括からの利用のみ包括の数字とする)

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
町内居宅	5	6	6	6	2	0	6	6	1	1	3	6	48
町内包括	1	1	2	0	1	1	0	0	2	0	0	0	8
町外居宅	2	1	3	1	1	0	0	0	1	0	2	0	11
町外包括	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	4
合計	8	9	11	7	4	1	7	7	4	1	6	6	71

(8) 要介護度別利用者数

単位：人

介護度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	24	23	24	26	26	24	24	24	22	23	22	21	283
要支援2	36	37	33	31	34	36	40	39	35	34	35	33	423
要介護1	48	50	57	53	53	51	50	49	51	51	52	57	622
要介護2	17	18	20	23	22	19	20	23	22	23	21	22	250
要介護3	6	5	5	6	7	8	9	8	6	6	5	5	76
要介護4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	4	4	39
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	136	138	143	143	146	142	147	147	140	140	140	143	1,705

(9) 利用者年齢構成 (R8. 3. 31 現在)

単位：人

年齢	男性	女性	合計
60以下	0	0	0
61～64	0	0	0
65～69	1	3	4
70～74	6	2	8
75～79	6	16	22
80～84	11	22	33
85～89	9	30	39
90～94	4	23	27
95以上	3	12	15
合計	40	108	148
平均年齢	85歳	86歳	85.5歳
最低年齢	66歳	66歳	
最高年齢	103歳	99歳	

(10) 事故発生状況

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	4
転落	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
裂傷	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
異食・誤食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
原因不明の傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
爪切り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投薬管理ミス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
破損事故	1	3	3	4	0	0	5	1	4	3	1	6	31

衣服破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	0	1	1	2	2	1	4	0	1	4	0	43

(11) 職員研修

< 苑内研修参加状況 >

日時	研 修 内 容	参加人数
4月28日	虐待予防研修、生産性向上委員会	9名
5月26日	救命救急講習、記録の書き方研修	9名
6月23日	危険予知トレーニング、食中毒予防研修	9名
7月28日	介護課程の展開研修	6名
7月30日	次世代育成研修	4名
8月19日	次世代育成研修	4名
9月19日	次世代育成研修	4名
9月29日	虐待予防研修	9名
10月28日	感染予防研修	8名
11月26日	次世代育成研修	4名
2月19日	次世代育成研修	4名
3月2日	次世代育成研修	4名

< 外部研修参加状況 >

日時	研 修 名	参加者
6月29日	在宅チーム勉強会	谷・藤川・大矢・大河原
7月7日	安全運転管理者研修	谷
9月4.5日	全道老人福祉施設協議会研究発表大会	谷・岩井・成田
11月15日	多職種協同による自立支援と重度化対応研修	谷・藤川・大矢
11月9日	在宅チーム勉強会	谷・藤川・大矢・大河原
12月10日	全国老人福祉施設協議会研究発表大会	谷・古田
3月14日	多職種協同による自立支援と重度化対応研修	谷・藤川・大矢
12月20日	多職種協同による自立支援と重度化対応研修	谷・藤川・大矢

(12) デイサービスセンター会議実施状況

開催月	内 容	参加人数
4月28日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告・環境改善・事故報告・令和7年度行動計画について・生産性向上委員会	9名
5月26日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告・記録の書き方 環境改善・事故報告・活動計画評価・救命救急講習	9名
6月23日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・食中毒予防研修・感染予防研修・危険予知トレーニング	9名
7月28日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・活動計画評価・介護課程の展開について	9名
8月25日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
9月29日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・虐待予防研修	9名
10月27日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・感染予防研修	8名
11月25日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	8名
12月22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
1月26日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
2月16日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
3月23日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名

(13) ボランティア受け入れ状況

①ボランティア受入実績

(単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	1	1	1	1	2	2	2	1	2	1	1	1	16
延べ人数	4	4	4	4	5	5	5	4	3	2	2	3	45

②ボランティア協力団体

団体名	活動内容
学習療法サポーター	学習療法指導者
鷹栖町体操クラブ	ボッチャ指導

(14) 行事

※毎日イベント開催のため一部抜粋とする

日時	行事名	場所	担当者
4月4日	ハンドメイド	E型ホール	岩井
5月 3.5日	花見ツアー	パレットヒルズ	谷・古田
6月18日	上野ファームツアー	上野ファーム	岩井
7月24.25日	映画上映会	E型ホール	成田
8月21日	焼き鳥祭り (BBQ)	デイガーデン	古田
9月26日	ボッチャ体験会	デイホール	大矢
10月28日	出前寿司	デイホール	成田
11月22日	ツルハツアー	ツルハ鷹栖店	岩井
12月25日	クリスマスメイドカフェ	デイホール	大矢
1月5日	新春ゆず茶会	デイホール	岩井
2月2.3日	節分	デイホール	谷・古田
3月3日	ひな祭り (甘酒会)	デイホール	岩井

4. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

受付日	内容	原因	改善状況
なし			

令和 7 年度 鷹栖町介護センターさつき苑事業報告

1. 総括（今年度の取り組みと成果）

令和 7 年度は、利用者数の拡大と安定運営の両方を図りながら、地域包括支援センターや医療機関との連携強化に取り組んだ。介護保険収入は目標額に対して 91.9%と達成することができなかった。一方で前年度からは 104.3%と増収を確保しており、利用者数の増加としては良い傾向であり、利用者数は目標が平均 220 名に対し 221 名で達成することができた。

新規利用者数は 107 名、停止者数は 86 名であり、純増 21 名という結果であった。紹介先としては鷹栖町包括センターが 60 件と最も多く重要な基盤となっている他、前半は在宅ターミナルケアの実践により医療機関からの紹介が増加したことが要因となった。一方で解除理由としては死去 17 件、小規模多機能移行 13 件、町内入居 10 件であり先を見据えた提案や意思決定支援、医療連携、シームレスな対応が重要であり、迅速に丁寧な優先順位を考えながらのケアマネジメントが求められた。

要介護度分布では要支援 1.2 の増加が顕著であり予防的支援のニーズが高まっている。要介護 3 以上の割合は横ばいであり軽度者を中心とした構成となっている。サービス利用状況では通所介護が 128 名、福祉用具貸与が 131 名と利用が多く在宅生活を支える基盤のサービスであるといえる。

個々のスキルアップとしては課内、苑内外での研修やカンファレンスで学び知識をアップデートした。その他、社会貢献活動としては社会福祉士の実習受け入れ、認知症サポーター養成講座、介護の入門的研修の出前講座の実施など知識のアウトプットを行いながら活動した。9 月に 2 名の退職があったが大きな体制変更はなく法人のサポートやチームの協力もあり支障なく運営することができた。

2. 次年度にむけた展望

次年度は、利用者数の増加を維持しつつ、収益構造の改善とサービスの質の向上を両立することが求められる。まず収益面では、利用者数は増加しているものの目標達成率は 91.9%にとどまっており、単価や加算取得の最適化が課題である。特に中重度者の受け入れや、加算算定の徹底により収益の底上げを図る必要がある。

次に運営面では、要支援者の増加に対応した効率的なマネジメント体制の構築が重要となる。件数増加に伴う業務負担の増大に対し、業務の統一化や標準化 I C T 活用による効率化が不可欠である。

また、契約の大半を占める地域包括支援センターとの連携強化は引き続き重要であり、医療機関との関係性の深化も新規獲得の鍵となる。特に退院支援における連携強化が期待される。

さらに、解除理由から見える通り、在宅から施設・他サービスへの移行が一定数存在しているため、在宅継続支援力の強化も重要なテーマである。通所介護と併用し医療サービスや訪問介護、ショートステイ、小規模多機能の適切な活用提案により、在宅生活の維持期間を延ばす取り組みが求められる。

3. 運営状況

(1) 収益

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) ×100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) ×100
32,861,000 円	30,209,064 円	91.9%	28,937,950 円	104.3%

(2) 居宅サービス利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平 均
平成 30 年度	128	130	130	128	132	132	130	129	132	127	126	118	128
平成 31 年度	128	132	137	142	141	141	142	141	141	139	138	134	138
令和 2 年度	148	152	163	161	170	180	178	172	171	177	184	181	169
令和 3 年度	184	187	183	187	178	181	182	183	185	183	175	180	182
令和 4 年度	190	185	182	188	190	189	198	195	188	185	187	190	188
令和 5 年度	193	198	197	196	189	189	184	184	179	182	177	191	188
令和 6 年度	196	190	197	191	195	206	209	213	209	205	215	214	203
令和 7 年度	225	230	226	234	230	229	214	212	212	217	213	219	221

(3) 新規利用者数・停止者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規利用者	11	12	11	14	4	2	6	8	5	8	8	18	107
停止者	3	6	8	5	9	22	4	4	5	8	3	3	86

(4) 契約

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
町内地域包括	5	7	4	4	2	0	5	7	2	7	7	10	60
町外地域包括	2	1	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	9
病院地域連携室	2	1	3	4	1	0	1	0	1	1	0	1	15
本人・家族	0	1	2	1	1	1	0	0	1	0	0	0	7
居宅移行	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5	9
法人職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域住民	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再契約	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
老健施設	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
有料・共生会	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(5) 解除理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
長期入院	0	0	3	2	0	3	0	0	0	0	0	0	8
介護医療院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
町内入居	1	1	0	1	0	0	0	0	1	3	1	2	10
町外入居	0	0	0	0	4	0	1	1	0	0	0	2	8
老健入所	0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	5
死去	1	0	1	2	2	2	1	0	2	3	1	2	17
在宅ターミナル	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	1	7
包括移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅移行	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	13
自立	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	4
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小規模多機能	1	2	2	0	0	2	1	0	2	2	0	1	13

(6) 要介護度分布

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
要支援1	11	11	13	10	14	13	18	28	32	31	29	34	45
要支援2	11	9	9	11	15	18	19	27	34	28	32	42	50
要介護1	52	57	43	48	53	55	57	59	53	75	70	63	65
要介護2	23	22	32	32	25	22	22	32	32	24	24	30	33
要介護3	10	10	5	7	8	9	7	9	11	11	16	18	17
要介護4	9	7	6	8	7	5	6	8	13	13	9	11	7
要介護5	6	9	8	7	6	9	6	5	4	8	7	5	4
合計	122	125	116	123	128	131	135	168	179	190	187	203	221

※人数は、各年度の平均人数

(7) 圏域別利用者数（令和7年3月）

圏域	人数
春光・春光台	8
末広・東鷹栖	12
合計	20

(8) サービス種類別利用者人数（令和7年3月）

利用サービス	人数
訪問介護 介護 38 支援 14	52
訪問看護 介護 17 支援 4	21
通所介護 介護 74 支援 54	128
通所リハビリ 介護 11 支援 4	15
福祉用具貸与 介護 80 支援 51	131
訪問リハビリ 介護 19 支援 11	30
短期入所者生活介護 介護 15 支援 0	15
訪問入浴 介護 3	3
合計	395

(9) 苑内・苑外研修参加状況

① 苑内研修

月 日	研 修 内 容	参加者
5 月 14 日	ケアプランデータ連携研修	7
6 月 29 日	在宅ケアチーム勉強会	6
7 月 30 日	次世代育成研修	1
8 月 19 日	次世代育成研修	1
9 月 19 日	次世代育成研修	1
10 月 24. 31 日	パワハラ研修	3
10 月 28 日	感染予防研修	4
11 月 9 日	在宅ケアチーム勉強会	3
11 月 26 日	次世代育成研修	1
2 月 19 日	次世代育成研修	1
3 月 2 日	次世代育成研修	
3 月 5. 12 日	基礎介護力研修初級（トランスファー）	3

② 苑外研修

月 日	研 修 内 容	参加者
5 月 14 日	ケアプランデータ連携研修	7
6 月 20 日	居宅合同研修	7
6 月 27 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	5
7 月 4 日	認知症サポーターキャラバンメイト	1
9 月 11 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	3
10 月 16 日	マルベリー福祉用具展示会	6
12 月 6 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	5
1 月 8 日	主任介護支援専門員研修	1
1 月 24 日	訪問看護と在宅看取りの実際	3
2 月 12 日	旭川居宅連協研修・行政説明	3
3 月 11 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	2

(10) ケアマネ会議内容

月 日	内 容
4 月 1 日	活動計画確認 情報共有
4 月 8 日	情報共有 ハラスメント研修
4 月 15 日	事例検討
4 月 22 日	ミーティング会議
4 月 30 日	情報共有
5 月 6 日	活動計画確認
5 月 13 日	情報共有
5 月 20 日	情報共有 苦情 ケアプランデータ連携
5 月 27 日	小規模なごみとの連携 ミーティング会議
6 月 3 日	活動計画 活動計画
6 月 10 日	ケアプラン研修 スワローケアクリニック 記念講演報告
6 月 17 日	事例検討
6 月 24 日	情報共有
7 月 22 日	ケアプランデータ連携システムに関する検討
7 月 22 日	生活困窮の実態とセーフティネット研修

月 日	内 容
7 月 29 日	情報共有 ケアプランデータ連携の検討
7 月 30 日	ケアマネジメントに関する研修
8 月 5 日	ごみ収集事業周知 民生委員、役場職員より 介護カフェ協賛事業内容
8 月 12 日	介護者カフェ 社協様協賛 検討
8 月 19 日	身体拘束・虐待研修
8 月 26 日	生産性向上研修
9 月 9 日	情報共有 認知症研修
9 月 16 日	介護者カフェ打ち合わせ
9 月 30 日	ゴミ収集事業 申請書の説明 役場職員より説明
10 月 14 日	AMED 共有
10 月 21 日	事例検討
10 月 28 日	情報共有
11 月 4 日	生産性向上 PC 入力見直し
11 月 11 日	情報共有 PPE 研修
11 月 25 日	情報共有
12 月 2 日	活動計画確認 情報共有
12 月 9 日	情報共有
12 月 16 日	事例検討
12 月 23 日	ミーティング 情報共有
1 月 7 日	活動計画確認 情報共有
1 月 13 日	情報共有 災害対策研修
1 月 20 日	新規相談者共有
1 月 27 日	入退院者共有
2 月 3 日	活動計画、情報共有
2 月 10 日	情報共有
2 月 17 日	事例検討
2 月 25 日	情報共有
3 月 5 日	活動計画確認 情報共有
3 月 10 日	情報共有
3 月 17 日	事例検討
3 月 25 日	情報共有

(11) 出前講座

月 日	内 容	講 師
6 月 24 日	認知症サポーター養成講座 鷹栖高校	河田
11 月 21 日	認知症サポーター養成講座 地域住民	林崎
3 月 12 日	介護の入門的研修 鷹栖高校	佐藤

(12) 社会福祉士実習生受け入れ

月 日	内 容	担当
8/18～9/17	旭川市立大学コミュニティ福祉学科実習Ⅱ 2 名	佐々木

令和7年度 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和7年度は、以下の4つを重点目標として事業を推進した。①知識・技術の専門性を高め、安全で根拠に基づく介護サービスの提供 ②主体性を持って介護過程を展開し、利用者の満足度を高める ③職員のチームワークを高め、やりがいと働きがいのある職場づくり ④業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する。

(1) 知識・技術の専門性を高め、安全で根拠に基づく介護サービスの提供

ケアの質向上に向け、毎週ダブルチェックを継続、困難ケースについては随時カンファレンスを行い、状態悪化の予防に努めた。事故件数は分析と再発防止策を強化したが、前年比で3件増。転倒・転落事故は依然として課題が残った。食事面では、食事ケアチェックや個別の食形態調整を適宜実施し、経口摂取の維持に繋げた。食事量低下者には速やかに栄養改善を図り、低栄養の回避に努めた。疾病管理では、体調不良者の分析や健康診断結果の比較を行い、早期発見・重症化予防に努めた。誤嚥性肺炎による入院者は0名。入院延べ日数も29日と目標を達成した。感染症対策では、防護服着脱訓練や感染症研修を計画的に実施し、職員のコロナ罹患者は出たものの集団感染はゼロであった。また、非常災害訓練は年2回実施し、入浴介助中などのケア場面を想定した訓練を行った。

(2) 主体性を持って介護過程を展開し、利用者の満足度を高める

介護過程(アセスメント→計画→実施→評価)の展開を継続し、全常勤職員が担当利用者のADL・QOL向上を目指した取り組みを実施した。アクティビティについては年間計画の周知が遅れたものの、定期的に実施し、利用者の楽しみや生活の潤いに繋がった。

(3) 職員のチームワークを高め、やりがいと働きがいのある職場づくり

職員面談を実施し、不安や悩みの軽減に努めたが退職者1名。有給休暇は全員が5日以上取得し、連続休暇(8日間)についてもほぼ全員(1名未取得)が取得した。ICT・IOT(見守りセンサー、介護ロボット、ほのぼのNEXT)を活用し、業務負担軽減とケアの質向上を図った。また、夜勤を含めユニット固定勤務を解消し、互いのユニットを補い合う体制を整え、チームワークの強化に繋がった。

(4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する

業務整理やマニュアルの見直しを進め、業務分担の明確化と効率化を図った。ただし、従来マニュアルの整理は十分に進まず、次年度の課題となった。適正利益の確保では、入院延べ日数29日と目標を達成し、平均稼働率は99.5%と高水準を維持した。介護保険事業収入は95,197,389円と目標を上回った。

2. 次年度に向けての展望

令和8年度も引き続き、以下の重点目標を掲げて取り組む。①専門的知識・技術を活かし、安

全で根拠に基づく介護サービスの提供 ②自主性をもって介護過程を展開し、利用者の満足度を高める ③職員のチームワークを向上させ、やりがいと働きがいのある職場づくり ④業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する。

ケアについては、ダブルチェックとカンファレンスを軸に重度化への対応力を強化する。ICT・IOTの活用をさらに推進し、従来マニュアルの整理を行い業務効率化とケアの質向上を両立させる。

介護過程の展開では、ADL維持・QOL向上を目指し、外出機会や家族交流の機会を積極的に取り入れる。

安定した継続的なケアを提供するため、サービス提供体制を一部変更(日中帯を1ユニットでケア)することにより従来以上に職員間の連携・協力を図り、より質の高い、きめ細やかなケアの提供を目指す。「自ら学び・自ら考え・自ら動く」を全職員が実践する職場づくりを更に進め働きがいのある良き職場風土を築く。

空床期間を7日以内、目標入院延べ日数を30日以内とし、目標稼働率98%(介護保険収入92,195,000円)を達成し、適正利益の確保を目指す。

3. 業績報告

(1) 事業収入(介護保険収入)

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)/(C)×100
グループホーム事業	89,456千円	95,197千円	106.4%	89,030千円	106.9%

(2) ベッド稼働率

事業名	目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)/(C)×100
グループホーム事業	98.0%	99.5%	101.5%	95.5%	104.1%

(3) 月別稼働率

単位: %

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R7 年度	100	100	100	100	99.1	100	100	99.4	100	98.2	97.2	100	99.5
R6 年度	100	95.3	92.0	93.4	85.3	86.1	93.9	100	99.8	99.8	100	100	95.5

(4) 延べ入居者人数

事業名	目標延べ 入居者数(A)	実際延べ 入居者数(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度実際延べ 入居者数(C)	伸長率 (B)/(C)×100
グループホーム事業	6,570人	6,538人	99.5%	6,271人	104.2%

(5) 新規入居者数

単位: 人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
R6 年度	0	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	7

(6) 新規入居前居住先

単位: 人

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(7)退居者数

単位:人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
R6 年度	1	1	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	7

(8)退居理由

単位:人

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
入院中死去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 運営状況

(1)面会状況

単位:人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実件数	22	22	23	18	19	21	21	20	16	19	17	24	242
延べ人数	24	29	29	20	26	29	25	23	20	25	19	31	300

(2)諸会議

①リーダー会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1木曜日 10:00～12:00	1)サービスの質の向上 2)課題解決と業務改善 3)業績と運営状況 4)リーダーの育成・連携強化 5)情報共有	施設長 部長 課長 主任 リーダー	12 回

②グループホーム会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 17:30～19:00	1)サービスの質の向上 2)業務の質向上と効率化 3)組織方針・理念の共有と浸透 4)情報の共有と透明性の確保 5)円滑な意思決定の推進 6)職員の声を反映する場の提供	課長 主任 リーダー 介護職員	12 回

(3)委員会活動

①身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 会議内にて実施	1)身体拘束および虐待の防止 2)職員の倫理意識と専門性の向上 3)具体的事例の検討と助言 4)利用者・家族の声を尊重する体制づくり 5)外部機関との連携強化	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

②生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 会議内にて実施	1)限られた人材と資源の活用 2)業務の「ムリ・ムダ・ムラ」の削減 3)ICT・介護ロボットの導入と定着支援 4)職員の意識改革・主体性の向上 5)利用者満足度とサービスの質の向上	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(4)環境整備他

日 時	内 容	ユニット	業 者
4月上旬	小型洗濯機	和・洋兼用	(株)ヤマダデンキ
4月上旬	マジックブレード	和	(株)ヤマダデンキ
4月中旬	充電式スティッククリーナー	和・洋	(株)ヤマダデンキ
4月中旬	自走式車椅子	和	合同会社セカンドライフ
4月中旬	介護椅子用クッション	和	合同会社セカンドライフ
5月上旬	介護椅子用クッション	洋	合同会社セカンドライフ
5月中旬	衣類乾燥機	和	(株)ヤマダデンキ
5月下旬	自動火災報知設備、誘導灯器具取替	全体	五光トータル防災
5月下旬	クッションフロア	和・洋	DCM
5月下旬	業務用冷凍冷蔵庫	全体	ホシザキ北海道(株)
6月中旬	便器リモコン洗浄取替	和	(株)齋藤工業所
7月中旬	機械浴定量止水付水栓取替	和・洋兼用	(株)齋藤工業所
7月中旬	透明ビニールカーテン取付	和・洋	(株)インテリアサンワ
8月中旬	コーヒーマーカー	和・洋	(株)ヤマダデンキ
9月下旬	非常用電池取替	和・洋	五光トータル防災
10月上旬	シャワートイレ取替	洋	(株)齋藤工業所
11月上旬	加湿器	和・洋	(株)ヤマダデンキ

11月上旬	清掃床ワックス塗布	和・洋和	旭川ヒューマンサービスセンター
12月上旬	移乗サポートロボット Hug 部品交換	和	(株)マルベリー
1月中旬	移乗サポートロボット Hug 充電器	和	(株)マルベリー
2月中旬	自走式車椅子	和	介護ショップ元気サポート
3月上旬	洗濯機	洋	(株)ヤマダデンキ

(5) ボランティア状況

6月 鷹栖高校2名

(6) 行事活動状況

日 時	行 事 名	場 所
5月2日	花見ドライブ	花咲総合体育館ほか
5月3～5日	菖蒲湯	なごみの家
6月23～25日	動物園見学	旭山動物園
7月13日	さつき祭	さつき苑
8月13日	夏祭り	なごみの家
9月10日	なごみの家運動会	なごみの家
9月15日	なごみの家長生き感謝祭	なごみの家
10月13日	風船バレー大会	なごみの家
10月15日	紅葉ドライブ	常磐公園
12月25日	クリスマス会	なごみの家
12月27日	なごみの家忘年会	なごみの家
2月3日	節分	なごみの家
3月3日	ひな祭り	なごみの家

令和 7 年度
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

(自：令和 7 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 8 年 3 月 3 1 日)

1. 入退所状況

単位:人

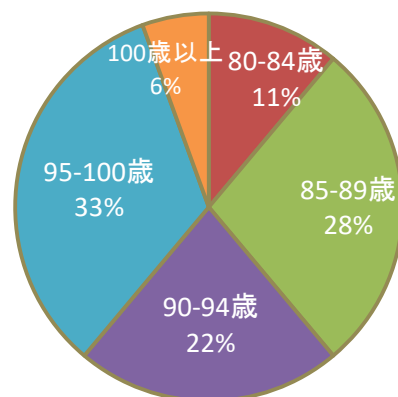
入所者数	退所者数	退所理由	在籍者数	男 性	女 性
2	2	老衰のためご逝去(1名) 長期入院のため退所(1名)	18	6	12

2. 年齢別

単位:人

	男 性	女 性	合計
75-79歳	0	0	0
80-84歳	0	2	2
85-89歳	3	2	5
90-94歳	2	2	4
95-100歳	1	5	6
100歳以上	0	1	1
合 計	6	12	18

年齢構成



単位:歳

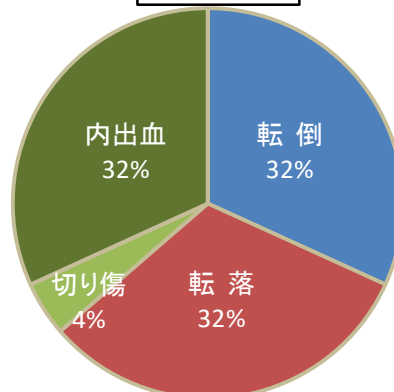
平均年齢	89.8	91.6	90.7
最高年齢	95	102	
最低年齢	81	85	

3. 事故状況

単位:件

	洋	和	合計
転 倒	4	3	7
転 落	6	1	7
切り傷	0	1	1
擦傷	0	0	0
未服薬	0	0	0
皮むけ	0	0	0
打撲	0	0	0
誤投薬	0	0	0
内出血	4	3	7
外 出	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	14	8	22

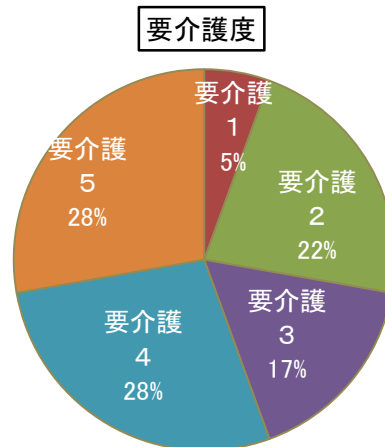
事故状況



4. 要介護度別

単位:人

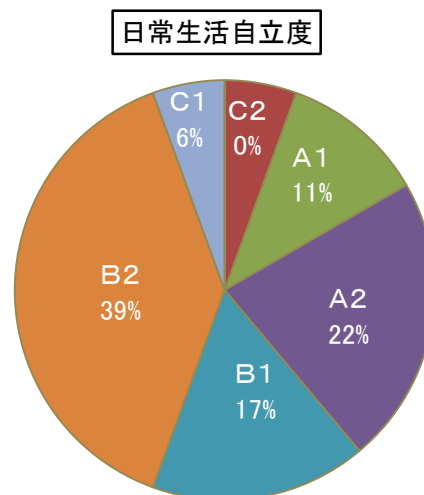
	男性	女性	合計	構成比
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	0	1	1	6%
要介護2	2	2	4	22%
要介護3	0	3	3	17%
要介護4	2	3	5	28%
要介護5	2	3	5	28%
合 計	6	12	18	100%



5. 日常生活自立度

単位:人

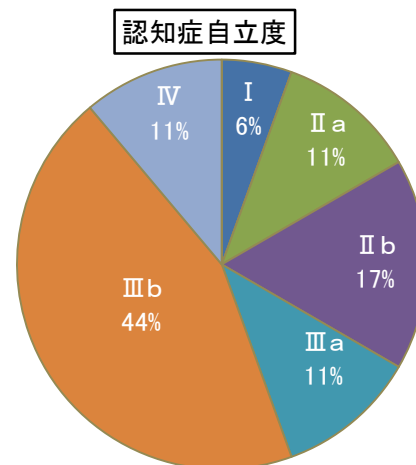
	洋	和	合計	構成比
J1	0	0	0	0%
J2	0	1	1	6%
A1	1	1	2	11%
A2	2	2	4	22%
B1	1	2	3	17%
B2	5	2	7	39%
C1	0	1	1	6%
C2	0	0	0	0%



6. 認知症自立度

単位:人

	洋	和	合計	構成比
I	0	1	1	6%
II	0	0	0	0%
II a	2	0	2	11%
II b	0	3	3	17%
III a	1	1	2	12%
III b	5	3	8	47%
IV	1	1	2	12%
M	0	0	0	0%



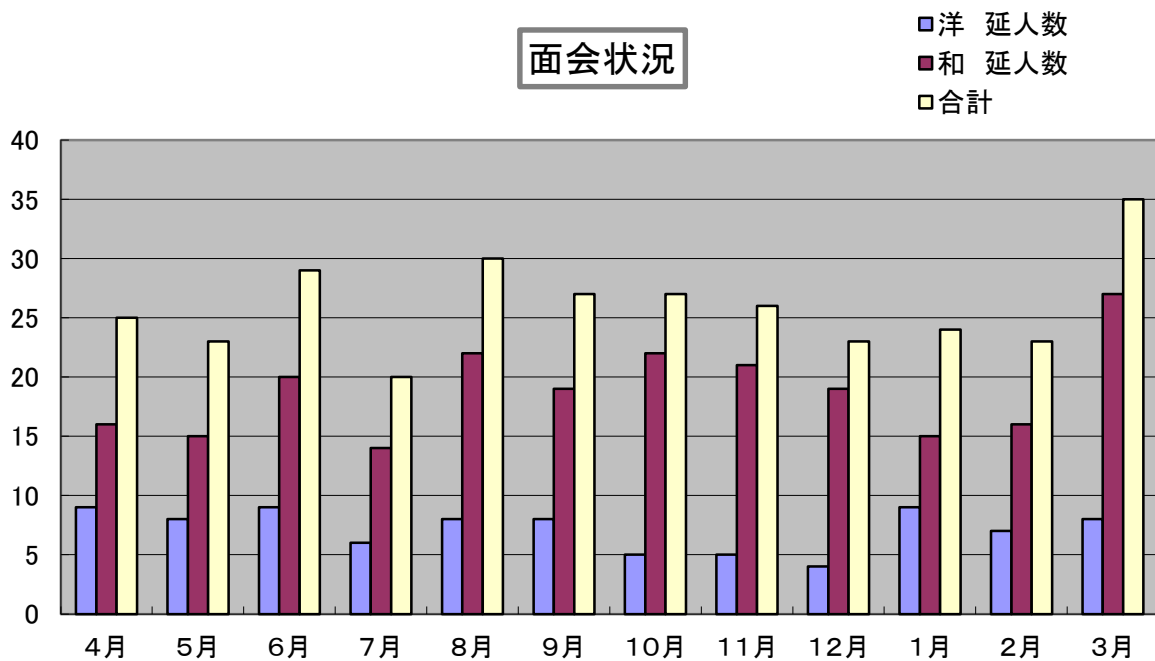
7. 入院状況

	実人数(人)	延日数(日)
整形外科系	0	0
精神科系	0	0
内科系	2	29
消化器系	0	0
脳神経系	0	0
合計	2	29

8. 面会状況

単位:人

	洋 延人数	和 延人数	合計
4月	9	16	25
5月	8	15	23
6月	9	20	29
7月	6	14	20
8月	8	22	30
9月	8	19	27
10月	5	22	27
11月	5	21	26
12月	4	19	23
1月	9	15	24
2月	7	16	23
3月	8	27	35
合計	43	226	312



令和7年度 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和7年度は、以下の4つを重点目標として事業を推進した。①知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供、②主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める、③職員のチームワークが向上し、やりがいと働きがいのある職場をつくる、④業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する。

(1) 知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づくサービスの提供

アセスメントシートの整理や定期更新は不十分であったが、会議や在宅勉強会においてカンファレンスを実施し、ケアの見直しと改善を図り状態悪化に努めた。また、統一したケアを実践するため、職員間の情報共有を密にし、家族への報告・助言・協力依頼にも努めた。事故件数は前年比7件増。再発防止策の徹底や分析が十分できていなかった結果であると考え次年度の課題となった。身体拘束・虐待防止については、計画通り年2回の研修を実施し、身体拘束・虐待ゼロを達成した。入院時の退院支援や在宅復帰支援は、入院延べ日数が52日、目標の30日には至らず。医療機関との連携は行っていたが、在宅復帰に向けた支援体制が十分に機能しなかった困難ケースもあった。食事面では、お茶会や出前、行事時食など季節感ある食事の提供に努め食事満足度調査では料金に関しての項目以外は高い評価であった。感染症対策では、新型コロナの罹患者は出たものの、集団感染には至らず。手洗い・うがいの徹底、室温・湿度管理、換気、消毒の励行、利用者や家族の協力を得たうえで、送迎時の健康観察記録や車両・物品の消毒を継続し強化した。疾病管理においては、健康状態の把握や医療機関との連携に努め、長期入院による登録終了者は1名。

(2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

利用者のADLやQOLの向上に向けた介護過程の展開においては、アセスメント→計画→実施→評価まで取り組んだものの、全職員の取り組みには至らず。学習療法は前年より2名増え目標の7名を達成。学習療法サポーターの再開もあり安定して取り組む事ができた。アクティビティでは、ドライブや変わり湯などは実施できたが、作品づくりや先進施設見学などは計画通りに進まず課題として残った。

(3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

職員面談を継続し不安や悩みの軽減に努めたが退職者5名。面談による不安軽減の効果はあったものの、離職防止にはつながらなかった。有給休暇は全員が5日以上取得し、連続休暇(8日間)についてもほぼ全員(1名未取得)が取得した。ICT・IOT(見守りセンサー、ほのぼのNEXT)を活用し、業務負担軽減とケアの質向上を図った。

(4) 「業務の標準化・見える化・効率化を図り適正利益を確保する」

適宜オペレーションシートの見直しを行い業務の標準化に努めた。平均登録者数が

22.2 名と目標の 24 名に届かず。新規利用者（10 名）は確保できたものの、長期入院（1 名）や施設入居（9 名）による登録終了者計 10 名。結果として収入にも影響し介護保険事業収入は 60,439,599 円と大きく目標を下回った。

2. 次年度に向けての展望

本年度は、計画を立てても実施が不十分となる項目が多く、事故防止、アセスメント更新、登録者数の維持、退職者数と課題が明確となった。次年度は、明確になった課題を一つずつ解決し「自ら学び・自ら考え・自ら動く」の職場目標を、職員一人ひとりが意識し働きがいのある良き職場を築き上げる。また、在宅生活の継続を支えるため、生活状況・身体状況の把握、介護者支援、医療連携を強化し、登録終了者の減少を目指す。平均登録者数 24 名の達成と適正利益の確保を目標とし、地域に必要とされる小規模多機能としての役割を果たしていく。

3. 運営状況

(1) 事業収入

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 (B)／(C)×100
66,652 千円	60,440 千円	90.7%	60,948 千円	99.1%

(2) 平均登録者数

目標 平均登録者数(A)	実際 平均登録者数(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度 平均登録者数(C)	伸長率 (B)／(C)×100
24 名	22.2 名	92.5%	19.8 名	112.1%

(3) 月別登録者数

単位:人

年度/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
R7 年度	20	22	23	24	22	22	21	22	24	23	23	20	22.2
R6 年度	21	21	20	21	20	19	20	17	18	20	20	20	19.8

(4) 新規利用者の紹介先(※直接包括からの利用のみ包括の数字とする)

単位:人

年度/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
町内居宅	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	5
町内包括	0	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	5
町外医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	3	1	1	0	0	1	1	3	0	0	0	10

(5)停止者数

単位:人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	1	0	0	2	0	2	0	1	1	0	3	0	10
R6 年度	0	1	1	0	1	2	0	3	1	0	1	0	10

(6)停止理由

単位:人

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅看取り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護施設入居	1	0	0	1	0	2	0	1	0	0	3	0	8
有料入居	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
長期入院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入院中死去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(7)要介護度別利用者数

単位:人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護1	11	12	12	13	12	12	13	13	13	14	14	13	12.7
要介護2	5	5	6	6	7	7	7	6	6	5	5	5	5.8
要介護3	3	3	4	5	3	3	1	2	1	2	2	1	2.5
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.2
要介護5	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.4
合計	20	20	22	24	22	22	21	21	21	23	23	20	21.6

(8)諸会議

①リーダー会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1木曜日 10:00~12:00	1) サービスの質の向上 2) 課題解決と業務改善 3) 業績と運営状況 4) リーダーの育成・連携強化 5) 情報共有	施設長 部長 課長 主任 リーダー	12回

②小規模会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3水曜日 17:30~19:30	1) サービスの質の向上 2) 業務の質向上と効率化 3) 組織方針・理念の共有と浸透 4) 情報の共有と透明性の確保 5) 円滑な意思決定の推進 6) 職員の声を反映する場の提供	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(9)委員会活動

① 生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3水曜日 会議内にて	1) 限られた人材と資源の確保 2) 業務の「ムリ・ムダ・ムラ」の削減 3) ICT・介護ロボットの導入と定着支援 4) 職員の意識改革・主体性の向上 5) ご利用者満足度とサービスの質の向上	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

②身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3水曜日 会議内にて	1) 身体拘束および虐待の防止 2) 職員の倫理意識と専門性の向上 3) 具体的事例の検討と助言 4) 利用者・家族の声を尊重する体制づくり 5) 外部機関との連携強化	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(10)行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
4月18日	ドライブ	旭川市内
4月21日～4月27日	桜湯	なごみの家
4月22日	ドライブ	春光台、花咲、町内
4月23日	ドライブ	男山自然公園
4月29日	ドライブ	旭川市内
4月30日	ドライブ	男山自然公園
5月1日	ドライブ	北野地区 花咲スポーツ公園
5月3日	花見・ドライブ	護国神社 花咲スポーツ公園
5月4日～6日	菖蒲湯	なごみの家
5月5日	花見・ドライブ	旭川市内
5月6日	花見・ドライブ	花咲スポーツ公園
5月7日	花見・ドライブ	護国神社
5月8日	花見・ドライブ	パレットヒルズ
5月11日	母の日（外注おやつ）	なごみの家
5/12・5/16	スクラッチアート	なごみの家
5月19日	手作りおやつ（どら焼き）	なごみの家
6月9日～13日	バラ湯	なごみの家
6月24日～27日	テラリウム	なごみの家
6月30日	ドライブ	当麻 道の駅
7月7日～11日	ラベンダー湯	なごみの家

7月22日～25日	桃湯	なごみの家
8月6日	熱夏フェスタ（御神輿見学）	なごみの家
8月21日～24日	ミント湯	なごみの家
9月8日～11日	すだち湯	なごみの家
9月14日	おやつつかみ取り	なごみの家
9月15日	出前	なごみの家
9月15日	外注おやつ	なごみの家
9月16日～17日	おやつつかみ取り	なごみの家
9月22日～25日	マスカット湯	なごみの家
10月17日	ドライブ	鷹栖町内
10月21日～24日	りんご湯	なごみの家
10月21日	ドライブ	鷹栖町内
10月23日	ドライブ	鷹栖町内
11月19日～22日	みかん湯	なごみの家
12月21日～24日	柚子湯	なごみの家
12月23日～25日	クリスマス（ケーキ）	なごみの家
12月27日	忘年会	なごみの家
12月28日～31日	ご当地温泉の湯	なごみの家
1月27日～31日	ミルク湯	なごみの家
2月3日	節分 豆まき	なごみの家
2月15日～21日	生姜湯	なごみの家
2月23日	北野サロン作品見学	ダ・マルシェ内北野サロン
2月24日	北野サロン作品見学	ダ・マルシェ内北野サロン
3月1日～4日	桃湯	なごみの家
3月22日～25日	バラ湯	なごみの家

令和 7 年度
小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

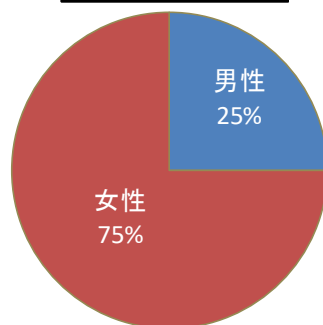
（自：令和 7 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 8 年 3 月 3 1 日）

1. 利用登録者（令和8年3月31日現在）

単位:人

男性	女性	合計
5	15	20

利用登録男女構成



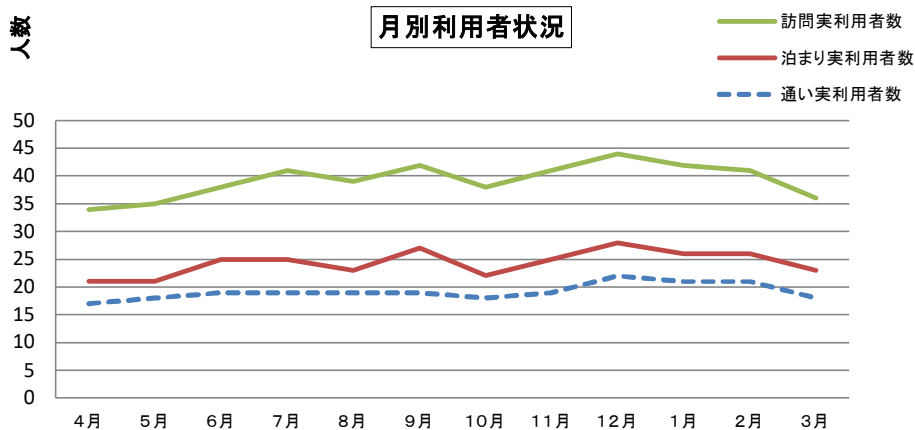
2. 月別利用者状況

単位:人

月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	停止者	月初登録者数
4月	17	4	13	0	1	20
5月	18	3	14	1	0	20
6月	19	6	13	0	0	22
7月	19	6	16	1	2	24
8月	19	4	16	0	0	22
9月	19	8	15	0	2	22
10月	18	4	16	0	0	21
11月	19	6	16	0	1	21
12月	22	6	16	0	1	21
1月	21	5	16	0	0	23
2月	21	5	15	1	3	23
3月	18	5	13	1	0	20
平均	19.2	5.2	14.9	0.3	0.8	21.6

人

月別利用者状況



3. 年齢

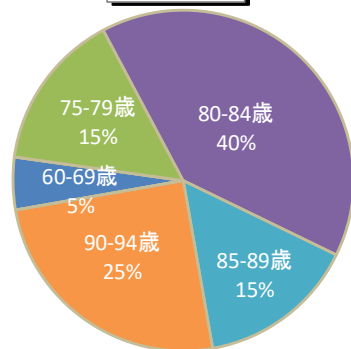
単位:人

年齢	男性	女性	合計
60-69歳	1	0	1
70-74歳	0	0	0
75-79歳	1	2	3
80-84歳	1	7	8
85-89歳	1	2	3
90-94歳	1	4	5
95歳以上	0	0	0
合計	5	15	20

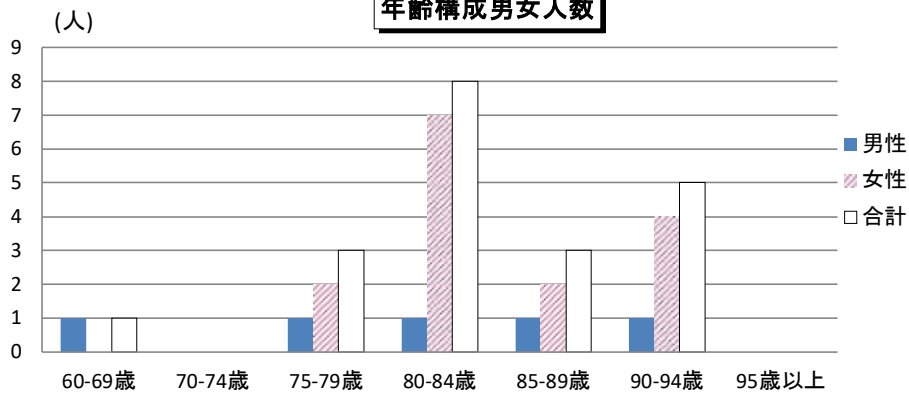
単位:歳

平均年齢	84.8	84.1	84.2
最高年齢	90	92	92
最低年齢	66	79	66

年齢構成



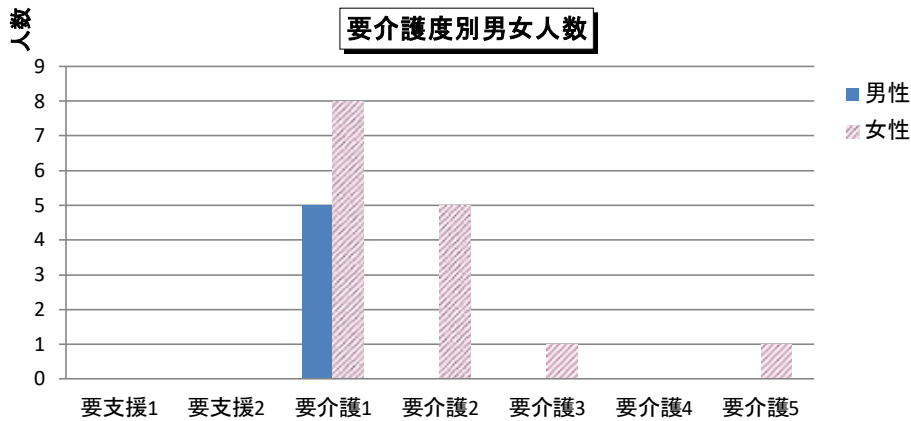
年齢構成男女人数



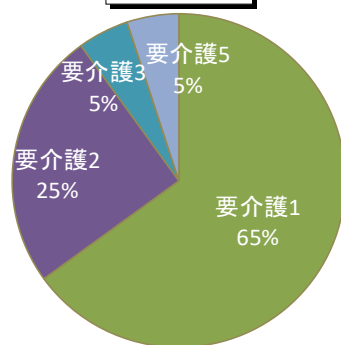
4. 要介護度別

単位:人

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	0	0	0%
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	5	8	13	50%
要介護2	0	5	5	30%
要介護3	0	1	1	15%
要介護4	0	0	0	0%
要介護5	0	1	1	5%
合計	5	15	20	100%



介護度構成

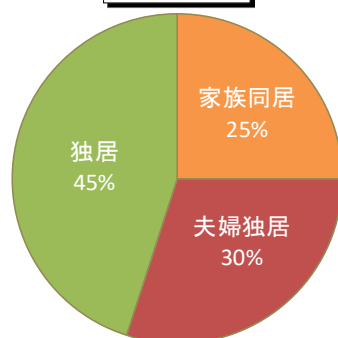


5. 世帯構成

単位:世帯

家族同居	夫婦独居	独居	合計
5	6	9	20

世帯構成比



6. ADL(日常生活動作)状況

単位:人

分類	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	18	1	1	20
排泄	15	4	1	20
入浴	7	12	1	20
衣類の着脱	16	3	1	20
食事	19	1	0	20

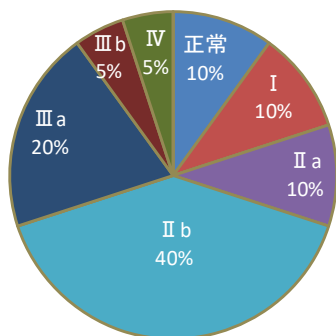
7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	2
I	2
II	0
II a	2
II b	8
III	0
III a	4
III b	1
IV	1
M	0
合計	20

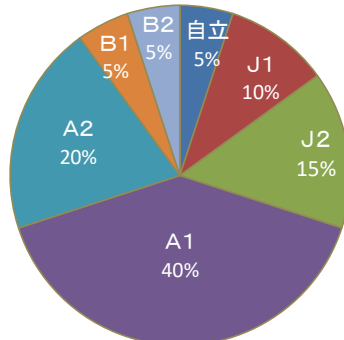
8. 障害老人の日常生活自立度状況

自立度	人数
自立	1
J1	2
J2	3
A1	8
A2	4
B1	1
B2	1
C1	0
C2	0
合計	20

認知症高齢者の日常生活自立度



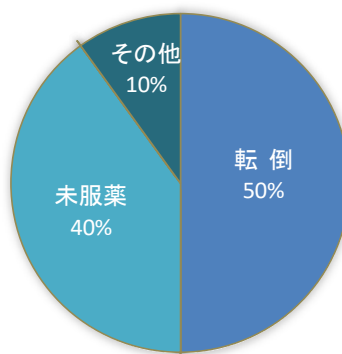
障害老人の日常生活自立度



9. 事故状況

内容	件数
転倒	5
転落	0
切り傷	0
表皮剥離	0
未服薬	4
誤飲	0
投薬忘れ	0
誤投薬	0
打撲	0
外出	0
その他	1
合計	10

事故状況



令和 7 年度 地域密着型特別養護老人ホーム めくもりの家えん 事業報告

1、総括（今年度の取り組みの成果）

令和 7 年度は、昨年同様に「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針とし、日々の支援や情報共有を丁寧に重ねながら、入居者の暮らしを安定して支える体制を整えてきた。

感染症・災害に備えた安全対策の強化では、年間を通して集団感染は発生せず、日常的な予防行動の徹底と普段の観察を継続したことで、安定した生活環境を維持することができた。

医療連携の面では、入院延べ日数を 50 日以内とする目標に対し、今年度は 53 日となり、目標を 3 日上回る結果となった。日頃から体調変化を早期に把握し、必要に応じて速やかに受診につなげる対応を継続したことで、重症化を防ぎ、適切な医療を受けられる体制は確保できていた。一方で、入院期間が想定より長くなった事例もあり、退院調整のタイミングや受け入れ準備の進め方について、より早期に連携を図る必要性が明らかとなった。今後は、医療機関との情報共有を一層強化し、入院期間の短縮につながる体制づくりを進めていく。

入居者の主体性を大切にした介護過程の実践として、食事の面では、常食のおいしさできるだけ保てるよう、状態に合わせて調理員と調整を行い、食べやすい形態への工夫を重ね、安全性に配慮しつつ、食事の満足度向上に取り組んだ。このことにより、入居者が日々の食事を安心して楽しめる環境を維持することができた。

適正な収益の確保では、退去から新規入居までの期間を 10 日以内とする目標を掲げ、今年度の新規入居 4 名はいずれも 10 日以内に受け入れることができた。その結果、年間のベッド稼働率は目標 98%（目標介護保険収入 108,151,000 円）に対し稼働率 98.8%（114,785,762 円）となり、安定した稼働を維持することができた。

2、展望（次年度に向けて）

令和 8 年度は、引き続き同様の重点目標をかかげ、確実に実施できるよう具体的な計画を立て取り組む。

ケアについては基本のダブルチェックを継続するとともに、体調不良時は 7 日以内に多職種でカンファレンスを実施。早期対応の徹底を図り、医療機関との連携を深めることで入院期間の短縮を図る。

平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくりとして、施設内での活動に加え、入居者が四季を感じ、地域とつながる機会を持てるよう外出行事を積極的に計画、実施していく。

働きやすい職場づくりとして、ICT、IOT 化の活用を継続し、ケアの質の向上と職員の業務負担の軽減、生産性の向上を進めていく。また、職員同士が互いに支え合い、一人で悩みを抱えず、チームで協力しながら、働きやすさとやりがいの向上を目指していく。

適正収益の確保では、退居から新規入居までを 7 日以内とし、目標稼働率 98%（目標介護保険収入 112,393,590 円）の維持を図る。

また、未然に防げる事故を減少させ、再発リスクの高い疾患のある入居者への予防的ケアの実践により目標入院延べ日数 50 日以内とする。

3、業績報告

（１）事業収入（介護保険収入）

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)／(C)×100
特別養護老人ホーム事業	108,151千円	114,786千円	106.1%	107,332千円	106.9%

（２）ベッド稼働率

事業名	目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)／(C)×100
特別養護老人ホーム事業	98.0%	98.8%	100.8%	96.0%	102.9%

（３）月別稼働率

単位:%

年度/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
R7 年度	98.3	100	100	100	97.7	93.9	100	100	99	98.5	98.2	99.5	98.8
R6 年度	100	98.9	95.7	96.3	98.4	95.0	91.9	93.7	94.7	95.0	97.0	96.1	96.0

（４）延べ入居者人数

事業名	目標延べ 入居者数(A)	実際延べ 入居者数(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度実際延べ 入居者数(C)	伸長率 (B)／(C)×100
特別養護老人ホーム事業	7,154人	7,230人	101.1%	6,981人	103.6%

（５）新規入居者数

単位:人

年度/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R7 年度	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4
R6 年度	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	5

（６）新規入居前居住先

単位:人

理由/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
在宅	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（７）退居者数

単位:人

年度/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R7 年度	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4
R6 年度	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	0	5

(8) 退居理由

単位:人

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
長期入院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
入院中死去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4、運営状況

(1) 面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者件数	60	52	46	68	69	81	48	92	70	75	66	87	814
面会者延べ 人数(名)	93	88	59	103	109	112	79	145	111	120	104	49	1064

(2) 外出・外泊状況

年月	外出回数(回)	外泊回数(回)
令和7年4月	0	0
5月	0	0
6月	0	0
7月	1	0
8月	0	0
9月	1	0
10月	1	0
11月	0	0
12月	0	0
令和8年1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	3	0

(3) ボランティアの受け入れ

①ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	7
延人数	0	17	11	0	0	5	5	0	4	4	4	0	50

②ボランティア協力団体一覧

団体名	活動・協力内容
ぬくもり友の会	・花壇整備 ・コーヒー茶ろんでく ・朝市 ・除雪
絵画サークル虹の会	・絵画展示

(4) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和7年5月1日	えん開設記念日	そら・はなリビング
令和7年5月11日	母の日	そら・はなリビング
令和7年6月14日	円山幼稚園運動会見学	円山幼稚園グラウンド
令和7年6月8日	花壇整備	えん庭
令和7年6月15日	父の日	そら・はなリビング
令和7年7月15日	焼肉際	そら・はなリビング
令和7年8月4日	北野神社祭	えん駐車場
令和7年8月2日	夕涼み会	えん駐車場
令和7年9月15日	敬老の日	そらリビング
令和7年10月24日	収穫祭	そら・はなリビング
令和7年11月21日	秋の運動会	そらリビング
令和7年11月26日	買い物ツアー	鷹栖町ツルハドラッグ
令和7年12月27日	忘年会	そら・はなリビング

令和7年12月18日～20日	ゆず湯	浴室
令和7年12月24日	クリスマス会	そら・はなりビング
令和8年1月1日～2日	書初め. ネイルを楽しもう	そら・はなりビング
令和8年2月3日	豆まき	そら・はなりビング
令和8年3月3日	ひな祭り	廊下・リビング

(5) リーダー会議 (計12回)

月日	議題内容	参加人数
令和7年4月25日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(なし)・スタッフマネジメント	9名
令和7年5月29日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	8名
令和7年6月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント ※7月～出倉スタッフ SH 兼務発令。佐久間リーダーの兼務はそのまま。	7名
令和7年7月25日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(互助会について ぬくもりの家えん、特養:佐久間 小規模:サムプログ・広報について再度、入居者様がのせてよいか家族に電話連絡にて確認。8月特養会議にて周知	9名
令和7年8月21日	書面にて周知。	0名
令和7年9月25日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	7名
令和7年10月23日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	8名
令和7年11月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	8名

令和7年12月18日	・令和8年度事業計画策定会議	8名
令和8年1月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント*生産性向上委員会：委員長谷水主任に決定	9名
令和8年2月19日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント・生産性向上委員会 *ケア記録記載ルールについて周知	9名
令和8年3月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	5名

(6) 特養会議 (計12回)

月 日	議題内容	参加人数
令和7年4月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(接遇研修、美浴入浴方法説明)	11名
令和7年5月12日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(接遇マナー研修、キックオフミーティング、体温測定について)	10名
令和7年6月9日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(入居者担当について)	11名
令和7年7月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(虐待予防研修、見守りセンサーについて)	10名
令和7年8月4日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(ターミナルケア研修、広報・ブログについて)	10名
令和7年9月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(手指消毒について、入居者個人	10名

	の買い物について、腎臓病について)	
令和7年10月17日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（感染予防研修、業務中のコミュニケーションについて）	9名
令和7年11月12日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（PPE着用練習、事業アンケートについて、オンコールについて）	10名
令和7年12月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（PPE着用練習、AIの活用について）	9名
令和8年1月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（PPE着用練習、虐待予防研修、服薬確認について）	8名
令和8年2月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（パット形態の更新について、志知課長療養について）	8名
令和8年3月9日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（物品の発注業務について、記録記載について）	6名

(7) 給食会議 (計 12 回)

月 日	議 題 内 容	参加人数
令和7年4月17日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（小規模の食器下膳の時間について）	3名
令和7年5月15日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（小規模の食器下膳の	6名

	時間について・小規模の食数変更の連絡について、生ゴミバケツについて、調味料の補充について、ペットボトルと缶のゴミ袋の片付けについて)	
令和7年6月19日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(クックデリの食材の異物混入の件、ソフティアSの発注連絡について)	7名
令和7年7月17日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(クックデリ導入より3ヶ月経過後の評価、クックデリの食材の異物混入の件)	7名
令和7年8月28日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(スタッフへのお願い・清掃の予定表について)	5名
令和7年9月18日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(スタッフへのお願い・清掃の予定表について)	名
令和7年10月16日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(栄養士・スタッフとの共有事項)	5名
令和7年11月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(大掃除の必要な項目の確認)	5名
令和7年12月18日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(スタッフへのお願い、次年度購入物品予定、調理業務に関するアンケート)	6名
令和8年1月29日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(大掃除の必要な項目の確認、スタッフへのお願い、次年度購入物品予定)	8名
令和8年2月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(なし)	7名
令和8年3月6日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(調理方法の見直しについて、配送業者変更について)	8名

(8) 入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
大雪 HP	脳外科	脳梗塞	8 月 13 日	8 月 28 日	14
旭川赤十字 HP	ICU	呼吸不全・誤嚥性肺炎	9 月 7 日	9 月 9 日	2
旭川記念 HP	内科	誤嚥性肺炎	9 月 9 日	9 月 23 日	13
厚生 HP	整形外科	左大腿骨頸部骨折	12 月 26 日	1 月 8 日	12
旭川赤十字 HP	口腔外科	左頬部膿瘍・左下顎骨骨髓炎	1 月 29 日	2 月 11 日	12

(9) 通院状況

病院名	診療科目	計 (人)	病院名	診療科目	計 (人)
旭川赤十字病院	口腔外科	2	森山メモリアル病院	整形外科	10
森山病院	整形外科	21	高桑整形外科永山 CL	整形外科	2
	眼科	2	相木整形外科医院	整形外科	2
	血管外科	5	たかはし整形外科 CL	整形外科	5
	脳外科	3	梅藤整形外科 CL	整形外科	3
旭川医療センター	神経内科	4	いずみ眼科	眼科	5
	消化器内科	2	永山腎泌尿器科 CL	泌尿器科	4
	呼吸器内科	2	いまだ耳鼻科	耳鼻科	2
	泌尿器科	2	なかの呼吸器内科 CL	呼吸器内科	6
圭泉会病院	精神科	14	大雪病院	脳外科	3
厚生病院	整形外科	1	大西病院	脳外科	1
	救急外来	1	林歯科	歯科	34
浅井医院	内科	1			

令和 7 年度 地域密着型特別養護老人ホーム

ぬくもりの家えん

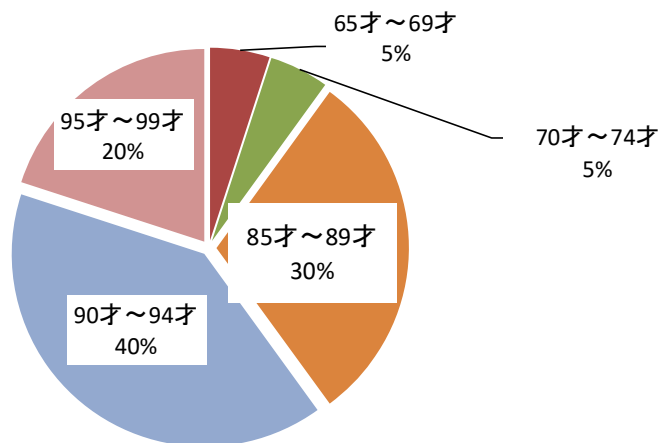
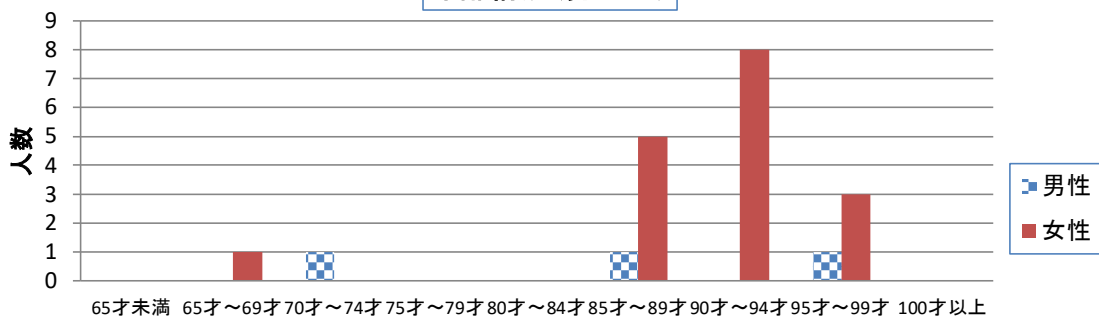
現況報告書

(自：令和 7 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 8 年 3 月 31 日)

1.入居者年齢構成(令和8年3月31日現在)

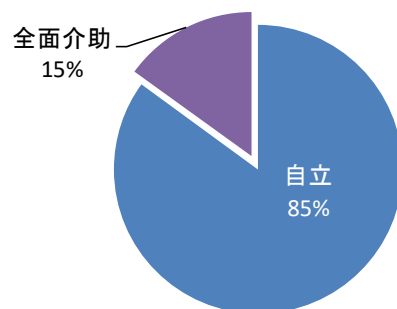
	在 籍 者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	【最高年齢】 男性 93歳 女性 99歳 【最低年齢】 男性 70歳 女性 69歳 【平均年齢】 男性 83.8歳 女性 90.9歳 全体 89.8歳
65才～69才	0	1	1	
70才～74才	1	0	1	
75才～79才	0	0	0	
80才～84才	0	0	0	
85才～89才	1	5	6	
90才～94才	0	8	8	
95才～99才	1	3	4	
100才以上	0	0	0	
計	3	17	20	

年齢構成(男女比)



2.食事状況(令和8年3月31日現在)

	自立	見守り	一部介助	全面介助	経管栄養	合計
男性	2	0	0	1	0	3
女性	15	0	0	2	0	17
合計	17	0	0	3	0	20



3.移動状況(令和8年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性	0	1	0	0	1	0	1	3
女性	0	1	0	0	3	1	12	17
合計	0	2	0	0	4	1	14	20

4.入浴状況(令和8年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	0	0	3	3
女性	0	7	10	17
合計	0	7	13	20

5.排泄状況(令和8年3月31日現在)

日中

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	2	0	0	1	0	3
女性	1	13	0	0	3	0	17
計	1	15	0	0	4	0	20

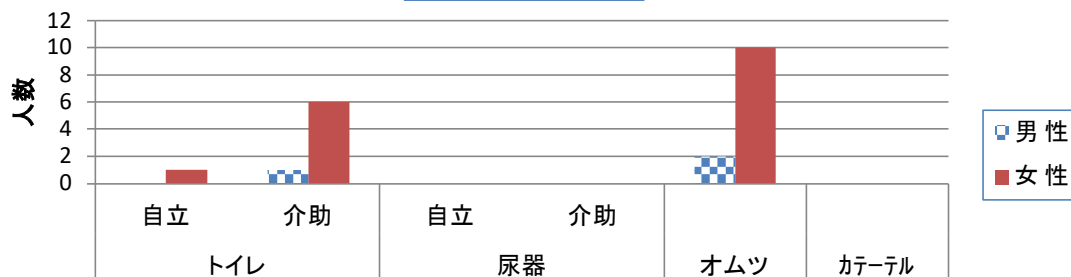
排泄状況男女比(日中)



夜間

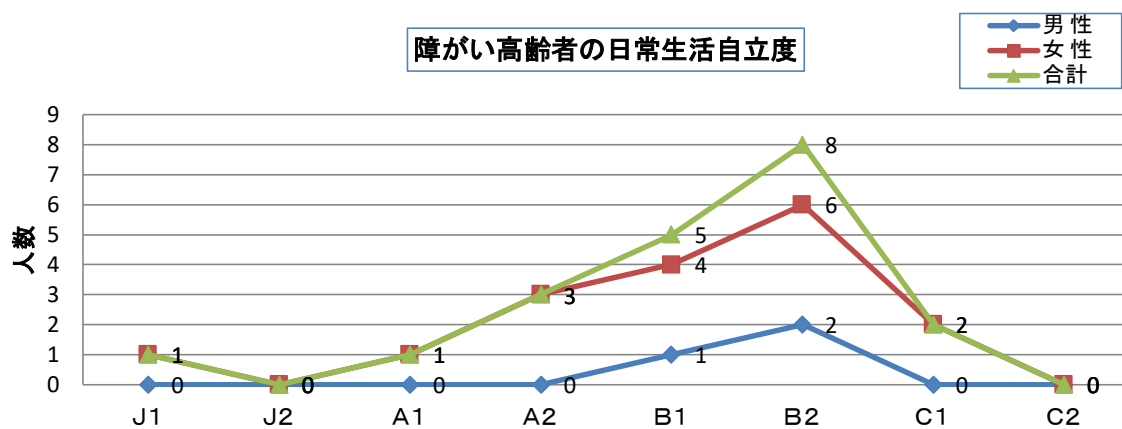
	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	1	0	0	2	0	3
女性	1	6	0	0	10	0	17
計	1	7	0	0	12	0	20

排泄状況男女比(夜間)



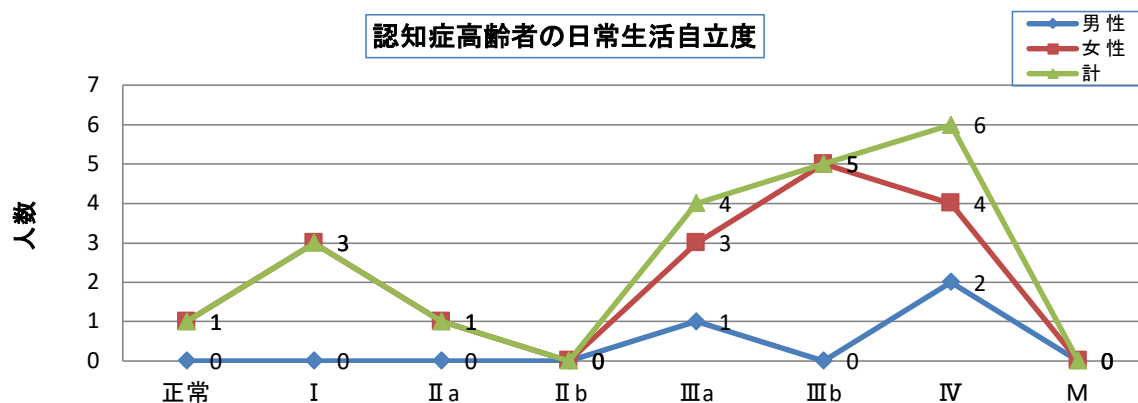
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男 性	0	0	0	0	1	2	0	0	3
女 性	1	0	1	3	4	6	2	0	17
合計	1	0	1	3	5	8	2	0	20



7.認知症状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

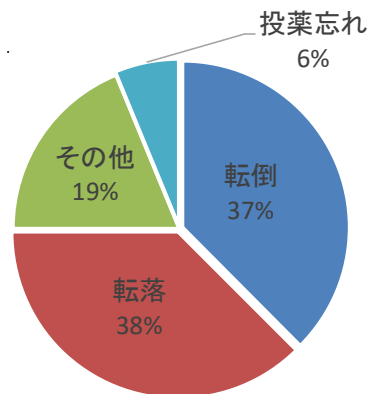
	正常	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	計
男 性	0	0	0	0	1	0	2	0	3
女 性	1	3	1	0	3	5	4	0	17
計	1	3	1	0	4	5	6	0	20



8.事故の状況

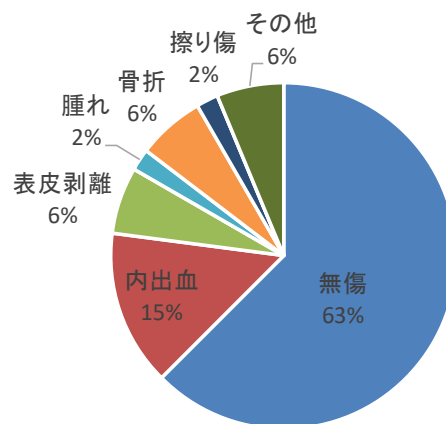
(1)内容

内 容	件数
転倒	18
転落	18
その他	9
ぶつけた	0
投薬忘れ	3
誤投薬	0
圧迫	0
搔いた	0
喉つまり	0
誤飲（誤嚥）	0
異食	0
	48



(2)程度

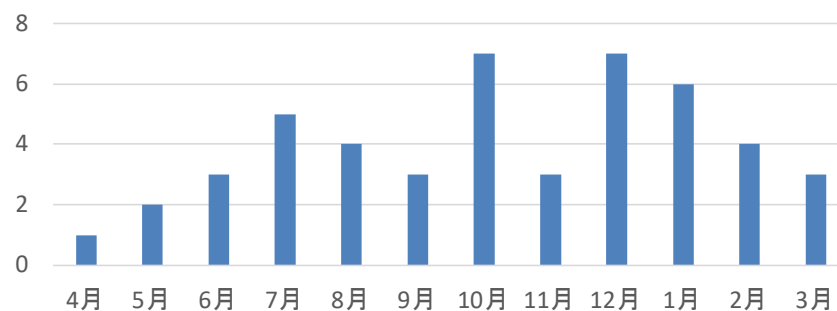
内 容	件数
無傷	30
内出血	7
表皮剥離	3
切り傷	0
腫れ	1
骨折	3
擦り傷	1
打撲	0
その他	3
	48



(3)月別発生件数

発生月	件数
4月	1
5月	2
6月	3
7月	5
8月	4
9月	3
10月	7
11月	3
12月	7
1月	6
2月	4
3月	3
	48

月別事故件数



令和7年度 小規模多機能ホームぬくもりの家えん事業報告

1. 総括

昨年度に引き続き『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』を基本方針とし、①健康で豊かな生活を支えられるよう、多職種協働でケアを提供する②感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める③利用者の地域での暮らしを支えるために、家族・地域住民とのつながりを強め、活かす④知識・技術の専門性を持ち、自主性・主体性を持って介護課程を展開し、利用者の満足度を高め、自ら働きがいのある職場をつくる⑤チームワークの向上と ICT 活用を通じて、ケアの質の向上と職場環境の改善を目指す⑥適正利益の確保の6つを重点目標として取り組んだ。

感染症予防については、日ごろの手洗い・手指消毒の励行、施設内や送迎車内の定期的な消毒の継続、1時間毎の換気の徹底により集団感染はなし。利用者の体調管理に加え、職員一人ひとりが自身の体調を適切に管理していることが、事故やトラブルの予防につながっている。

介護過程の展開については計画通りに実施できた。利用者理解が深まる中で、考察と実践を重ねることで利用者の変化を的確に捉え、次の支援へつなげる流れを確立できた。こうした取り組みは、職員が「自分の関わりが利用者の生活に影響を与えている」という実感を得る機会となり、仕事へのやりがいの向上にも寄与した。

ICT の導入により医療連携や他サービス事業所への情報提供を正確かつ速やかに行うことができ、業務の効率化につながっている。ただし、記録の漏れが目立つこともあり、システムの利便性だけに頼らない基本的な考え方については随時スタッフ間で共有していく必要がある。

事故に関しては「事故件数 20%減」および「薬に関する事故 30%減」を目標として事故防止に取り組んだ。しかし、事故件数は前年度の 16 件から 18 件へと増加した。薬に関する事故も 3 件から 7 件に増えており、主な要因は服薬動作の確認不足による落薬であった。これらの結果から、事故防止に対する意識の低下が事故増加につながっていることが明らかとなった。今後は、職員一人ひとりの意識向上を図るため、より一層の啓発活動を強化していく必要がある。

転倒（骨折）による入院ゼロを目標に掲げていたが、自宅での転倒・骨折による入院が 2 件発生してしまった（R6 年度 3 件）。自宅環境の見直しと多職種での情報共有を強化し、転倒リスクの早期把握と予防指導を徹底する。

適正利益の確保では平均登録者数 23.5 名を目標としたが、実績は 18.4 名と前年をさらに下回る結果となった。登録者数 20 名を超えた月がひと月のみ、介護保険事業収入は 60,139,717 円（前年比 95.4%）と登録者数減少の与える影響は強く、課題として残る。登録者数の増加に向けて、定期的なブログ更新による情報発信を継続するとともに、新たに営業用のチラシを作成し、事業所の魅力や強みを積極的にアピールする取り組みを開始

した。利用者獲得につながる基盤づくりとして次年度も引き続き取り組む。

新規登録者は9名で、全て法人の居宅介護事業所および地域包括支援センターからの紹介だった。今年度は継続泊まりの利用が増加し、一時的に泊まりを必要とする新規相談の受け入れが困難となる状況が生じた。居宅介護事業所と泊まりの空き状況をリアルタイムで共有できるツールを作成・活用し、空き状況の把握を迅速化することで、泊まりを理由に新規相談を受けられない事態の防止につながった。

停止者12名中、併設の地域密着型特養へ入居した方は2名。法人内の特別養護老人ホームへの入居前提で居宅へ移行した方を合わせても3名にとどまった。今年度は入院者が多く、入院からの在宅復帰困難もしくは入院中に逝去となったケースが目立った。今後は利用者の状態変化を早期に捉え、適切な支援につなげるために、チーム内での多職種協働をより一層強化していく必要がある。

働きやすい職場づくりでは、前年度同様リフレッシュ休暇（8日間）と3連休の取得を計画的に実施できた。これらの取り組みは職員が心身を整え、仕事への意欲ややりがいを持続するための重要な支えとなっており、引き続きすすめていく。

2. 次年度に向けて

令和8年度は、多職種が連携して利用者の体調管理と健康維持を包括的に支える体制の強化を図る。日々の小さな変化をチームで共有し、早期発見・早期対応につなげることで、入院や重度化を未然に防ぐ“気づきの力”を育む。

その実現に向けて、引き続きICTを活用した職場環境の改善を推進する。生産性向上委員会を継続開催し、現場の声を反映した改善を進めることで、職員が主体的に職場づくりに関わり、仕事への誇りややりがいを実感できるチームを目指す。

また、適正利益の確保に向けて、平均登録者数23.5名を目標とし、登録者数25名の達成・維持を目指す。ブログ更新や営業用チラシによる情報発信を継続し、事業所の魅力を積極的に発信することで利用者獲得につなげるとともに、地域から信頼される事業所づくりを推進する。

3. 運営状況

（1）事業収入

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 $(B) \div (A) \times 100$	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 $(B) \div (C) \times 100$
66,494,000 円	60,139,717 円	90.4%	63,058,556 円	95.4%

（2）平均登録者数

目標 平均登録者数(A)	実際 平均登録者数(B)	達成率 $(B) \div (A) \times 100$	前年度 平均登録者数(C)	伸長率 $(B) \div (C) \times 100$
24.0 名	18.4 名	76.7%	21.7 名	84.8%

(3) 月別登録者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R7年度	20	19	18	19	19	17	19	19	18	18	18	17	18.4
R6年度	23	23	23	24	24	20	21	21	21	20	20	20	21.7

(4) 新規利用者の紹介先（※直接包括からの利用のみ包括の数字とする）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
町内居宅	1	0	2	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0.8
町内包括	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0.2
町外医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1	0	2	2	0	2	1	0	0	1	1	1	0.9

(5) 停止者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7年度	2	2	0	0	2	0	1	1	0	2	1	1	12
R6年度	1	1	0	1	4	1	1	0	1	0	2	0	12

(6) 停止理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅死去	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
介護施設入居	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
有料入居	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長期入院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3
入院中死去	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
その他	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2

(7) 要介護度別利用者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1.1
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護1	9	6	6	6	6	6	7	7	7	7	8	7	6.8
要介護2	4	3	4	4	3	3	2	3	3	2	3	3	3.1
要介護3	3	5	3	3	3	2	2	2	1	2	2	2	2.5
要介護4	2	3	3	4	5	4	4	4	4	4	3	3	3.6
要介護5	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0.3
合計	20	19	18	19	19	17	19	19	18	18	18	17	18.4

(8) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月10日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・利用者家族からの苦情・月間目標について・各委員会の報告・医療関係・マナーモラル・利用者の疾病について	6名
5月14日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・キックオフミーティング・ブログについて	7名
6月11日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・薬のヒヤリ・介護過程の展開・勤務時間について 研修：食中毒予防	7名
7月9日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・利用者家族からの要望・脱水・エアコンの使用方法・介護過程の展開・行事について	7名
8月13日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・行事、外出ツアー・介護過程の展開・生産性向上アンケートについて	6名
9月10日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・介護過程の展開・脱水・熱中症・新規利用者相談経過・学習療法について	5名
10月8日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・換気方法・室内の乾燥対策・インフルエンザ予防接種について	6名
11月5日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・新規採用予定者のお試し就労・ハカルトによるタイムスタディについて	6名
12月10日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・介護過程の展開・PPE着用練習・chatGPTの活用について	6名
1月14日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・キックオフミーティングについて 研修：虐待予防研修	8名

2月12日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者確認・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・事故の検討・新規利用者の担当・感染症予防・PPE着用練習・感染症予防について	6名
3月11日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・行事・新規利用者について	7名

(9) 委員会活動

①生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1水曜日 18:00 ～ 18:15	ICTを活用し、スタッフがより働きやすい環境の実現を目指すとともに、利用者の満足度向上につなげる。生産性向上の取り組みを通じて、スタッフの知識や技術・モチベーションの向上を促す。	7名	12回

②安全対策委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1水曜日 17:45 ～ 18:00	自宅内及び施設内におけるヒヤリハットをピックアップし、事故につながる環境を見直すことで事故を未然に防ぐ。 事故原因の究明を行い、対策の周知徹底を促す。	4名	12回

③身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1水曜日 18:00 ～ 18:15	利用者の尊厳を守り、その人らしい生活を支援する。身体拘束・虐待予防についての研修を定期的を実施し、利用者本位のケアを提供するための意識を高める。	7名	12回

(10) 小規模多機能ホーム行事活動報告

月 日	行 事 名	場 所
4月28～30日	花見	北海道療育園
5月1日	開設記念日	小規模リビング
6月7日	花壇整備	えん花壇
6月14日	円山幼稚園運動会応援	円山幼稚園グラウンド
7月13日	さつき祭	さつき苑前庭
7月22日	味覚祭	てくてく
8月4日	北野神社祭、獅子舞見学	えん駐車場
8月27～29日	えんまつり	てくてく
9月17～19日	外出ツアー	北彩都ガーデン、花菜里ランド他
10月24日	収穫祭	小規模リビング
10月27～29日	りんご湯	小規模浴室

12月18～20、22日	ゆず湯	小規模浴室
12月24日	クリスマス会	てくてく
12月27日	忘年会	てくてく
1月5～7日	初詣	鷹栖神社
2月3日	節分	小規模リビング
3月2～4日	ひなまつり	小規模リビング
3月18～20日	さくら湯	小規模浴室

令和 7 年度 小規模多機能ホーム

ぬく もりの家えん

現況報告書

(自：令和 7 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 8 年 3 月 31 日)

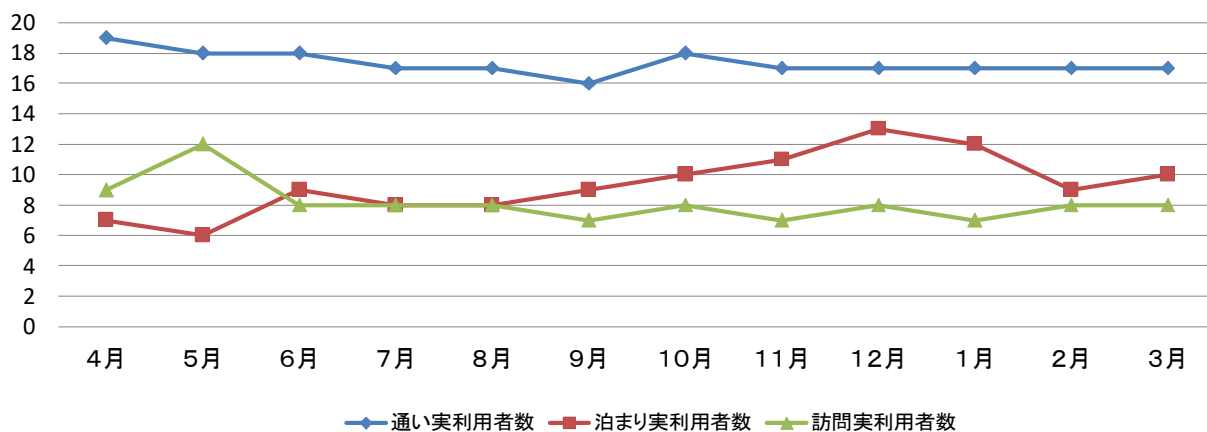
1. 利用登録者（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

男性	女性	合計
9	20	29

2. 月別利用者状況

月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	休止者	停止者
4月	19	7	9	3	0	2
5月	18	6	12	3	0	2
6月	18	9	8	2	0	0
7月	17	8	8	2	1	0
8月	17	8	8	1	1	2
9月	16	9	7	1	0	0
10月	18	10	8	1	0	1
11月	17	11	7	1	0	1
12月	17	13	8	1	0	0
1月	17	12	7	1	0	2
2月	17	9	8	1	0	0
3月	17	10	8	1	0	1
平均	17	9	8	2	0	1

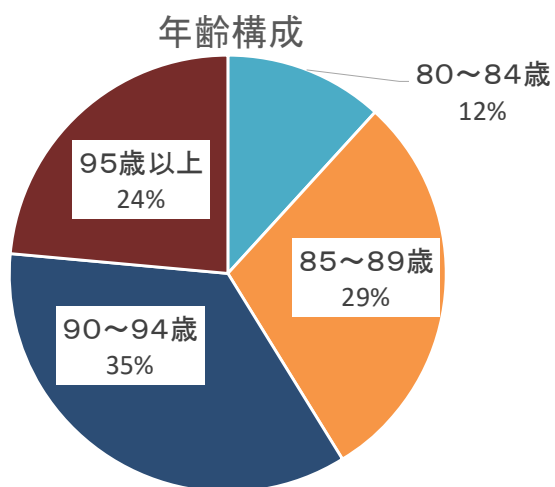
月別利用者状況表



3. 年齢

(令和8年3月31日 現在)

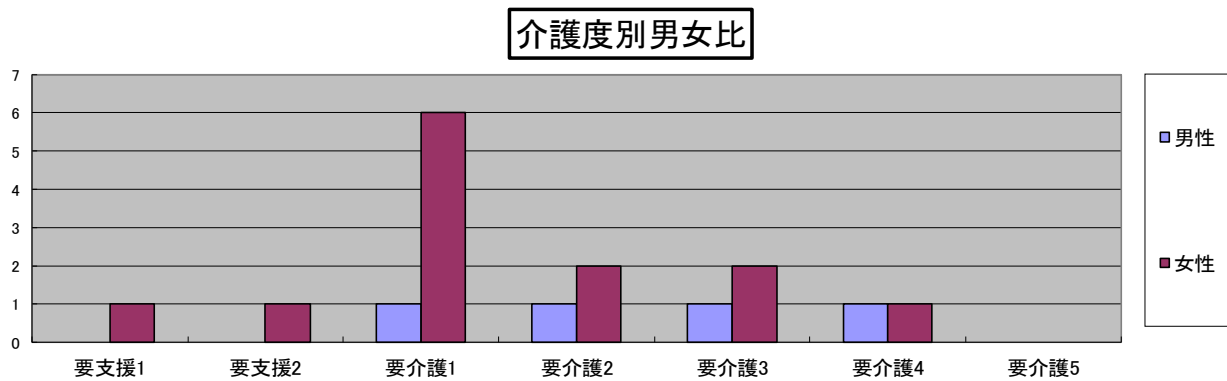
	男性 (人)	女性 (人)	合計 (人)
65歳未満	0	0	0
65～69歳	0	0	0
70～74歳	0	0	0
75～79歳	0	0	0
80～84歳	1	1	2
85～89歳	2	3	5
90～94歳	0	6	6
95歳以上	1	3	4
合計	4	13	17
平均年齢	88.8歳	91.2歳	90歳
最高年齢	95歳	99歳	
最低年齢	84歳	84歳	



4. 要介護度別

(令和8年3月31日 現在)

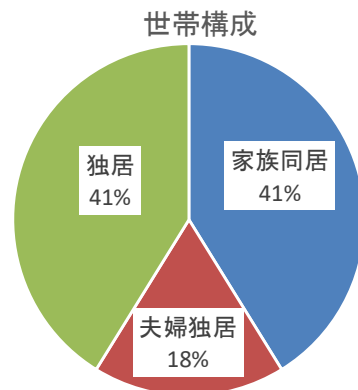
	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	6%
要支援2	0	1	1	6%
要介護1	1	6	7	41%
要介護2	1	2	3	18%
要介護3	1	2	3	18%
要介護4	1	1	2	12%
要介護5	0	0	0	0%
合計	4	13	17	100%



5. 世帯構成

(令和8年3月31日 現在)

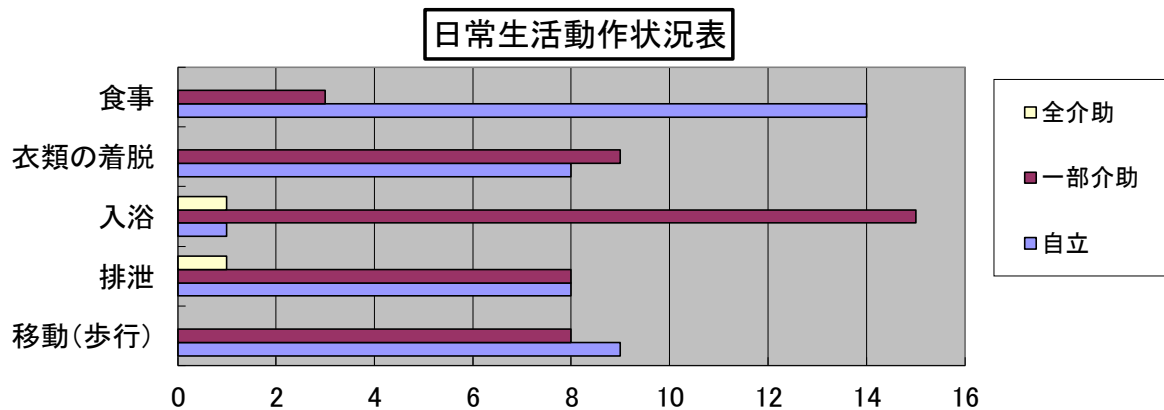
家族同居	夫婦独居	独居	合計
7	3	7	17



6. ADL(日常生活動作)状況

(令和8年3月31日 現在)

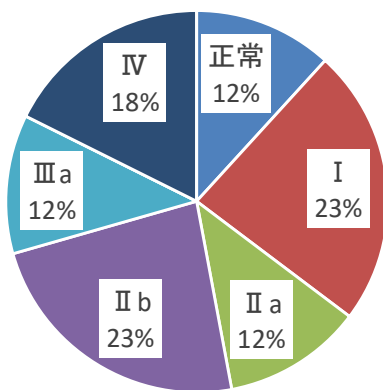
	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	9	8	0	17
排泄	8	8	1	17
入浴	1	15	1	17
衣類の着脱	8	9	0	17
食事	14	3	0	17



7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

(令和8年3月31日 現在)

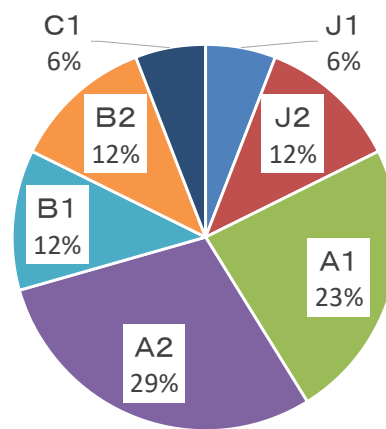
認知度	人数
正常	2
I	4
Ⅱ a	2
Ⅱ b	4
Ⅲ a	2
Ⅲ b	0
Ⅳ	3
V	0
合計	17



8. 障害老人の日常生活自立度

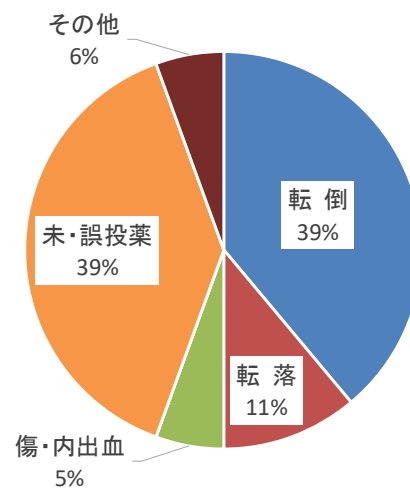
(令和8年3月31日 現在)

自立度	人数
J1	1
J2	2
A1	4
A2	5
B1	2
B2	2
C1	1
C2	0
合計	17



8. 事故状況 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

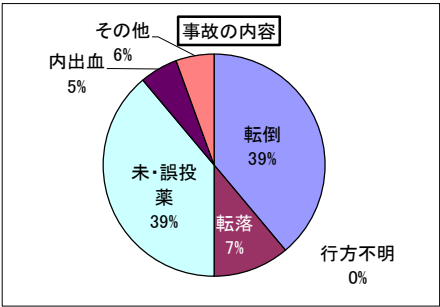
内容	件数
転 倒	7
転 落	2
傷・内出血	1
かき傷	0
裂 傷	0
未・誤投薬	7
行方不明	0
その他	1
合 計	18



令和7年度 事故発生状況

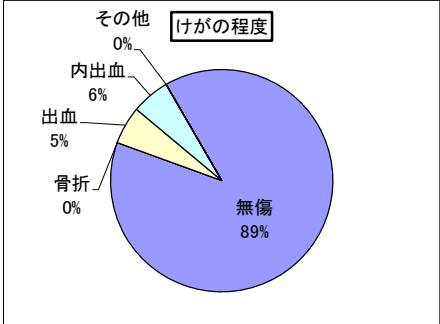
【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	7		1		4				1			1	
転落	2	1			1								
行方不明	0												
未・誤投薬	7		2				1		1	1		1	1
内出血	1									1			
その他	1					1							
合計	18	1	3	0	5	1	1	0	2	2	0	2	1



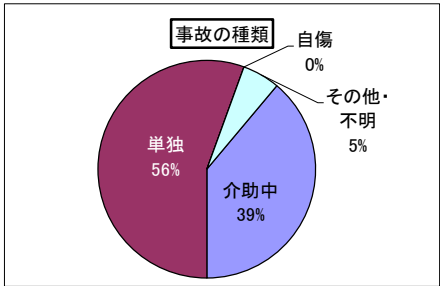
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	16	1	3		5		1		2	1		2	1
骨折	0												
出血	1					1							
内出血	1									1			
やけど	0												
腫れた	0												
死亡	0												
その他	0												
合計	18	1	3	0	5	1	1	0	2	2	0	2	1



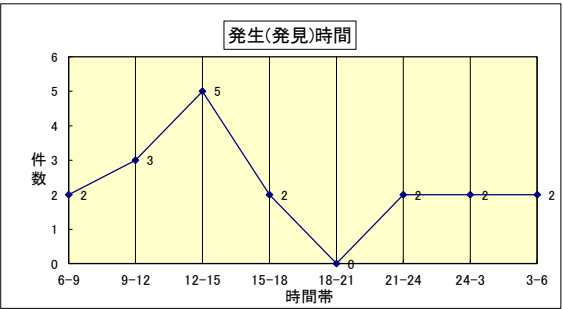
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	7		1			1			1	2		1	1
単独	10	1	2		5				1			1	
自傷	0												
その他または不明	1						1						
合計	18	1	3	0	5	1	1	0	2	2	0	2	1



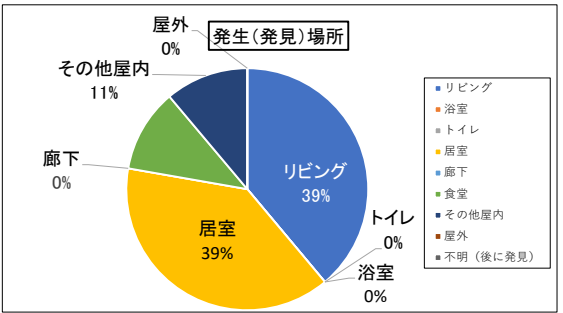
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	2		1							1			
9-12	3		1							1		1	
12-15	5	1	1						2				1
15-18	2				1	1							
18-21	0												
21-24	2				1		1						
24-3	2				1						1		
3-6	2				2								
合計	18	1	3	0	5	1	1	0	2	2	0	2	1



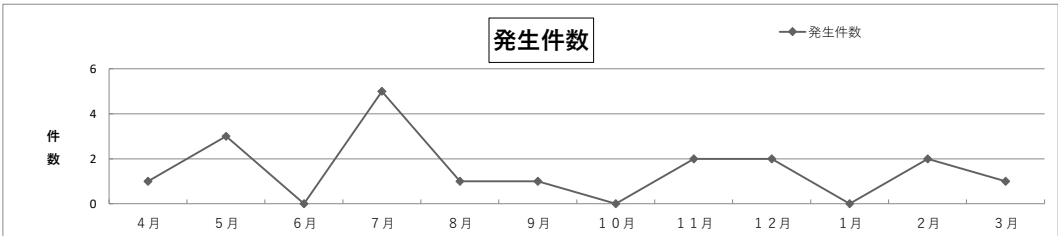
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リビング	7				2	1			2	2			
浴室	0												
トイレ	0												
居室	7	1	1		3		1				1		
廊下	0												
食堂	2		1								1		
その他屋内	2		1										1
屋外	0												
不明(後に発見)	0												
合計	18	1	3	0	5	1	1	0	2	2	0	2	1



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	18	1	3	0	5	1	1	0	2	2	0	2	1
(受診をした件数)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0



令和7年度 サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和7年度は、入居者のADLおよびQOL向上に向けた取組として、併設フィットネス倶楽部を継続利用が入居者の67%(昨年度61%)と増加し、運動習慣の定着が進んだ。

事故件数は昨年度の12件から4件へと67%減少したものの、骨折事故が1件発生し、室内環境や動線の見直しの重要性を再認識した。今後は法人内の理学療法士等の専門職と連携し、未然防止強化を図る。

退去者数は3名（昨年度6名）で、主な理由は基礎疾患の治療および施設入所であった。引き続き体調管理や医療連携を強化し、在宅生活の継続支援に努める。

生活面では、創作活動や地域行事を継続し、「ぬくもりの家えん」の朝市での3回の作品販売を通じて入居者の意欲向上に繋がった。また、今年は花火大会や北野サロン主催の「ほろ酔いマルシェ出張版」での夕食会の実施により、地域および他事業所スタッフとの関係構築が進んだ。

認知症総合支援事業として「認知症カフェ（デコぽん茶屋）」を毎月開催。地域住民の得意なことを生かした創作活動を通じて、年6回（昨年度3回）役割の創出や自己表現の機会を提供した。また、参加者数は237名（昨年度188名）と増加し、家族支援や地域交流の場としての役割を強化した。

地域貢献として、昼食弁当を週3回・1日5食限定で提供しているが、今年度は、フィットネス倶楽部コレカラで開催したフレイル予防研修にてPRし、新たに8家族が定期的に利用しフレイル予防に寄与した。

認知症予防として実施した学習療法は、入居者9名に対し延べ458回実施され、地域の学習療法サポーターも新たに2名のサポーターが研修を修了し9名体制となった。双方にとって有意義な活動となった。

経営面では稼働率98.6%（昨年度95.4%）と目標を達成し安定した運営を維持した。今後も、近隣地域包括支援センターへのPR活動を継続する。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度は、入居者の自立生活の継続を目指し、ADL・IADL・QOLの維持向上に努めるとともに、必要なサービスの見極めと迅速な対応により安心して暮らせる環境を整える。地域と連携した活動機会の充実により「楽しみ」と「役割」のある生活を支援し、ライフリズムナビ（生体・眠りセンサー）の活用による健康管理と他職種連携を強化する。

事故対策では、骨折事故ゼロを目標に、身体機能維持に向けた運動機会の確保や他職種と連携した生活環境の見直しを進める。

昼食弁当事業の利用促進により地域貢献を継続し、ICT活用により業務効率化を図る。併せて、待機者確保と迅速な入居調整により空室期間の短縮を図り、年間18名の入居維持（稼働率97%）を目標とする。

3. 運営状況

(1) 事業収入（介護保険収入）

目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)÷(C)×100
27,003,000円	27,531,655円	102.0%	25,310,730円	108.8%

(2) ベッド稼働率

目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
94.0%	98.6%	104.9%	95.4%	103.4%

(3) 月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R7 年度	88.9	94.4	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	98.6
R6 年度	100	100	100	100	100	88.9	88.9	94.4	94.4	94.4	94.4	88.9	95.4

(4) 新規入居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
R6 年度	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	4

(5) 新規入居前居住先

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(6) 退居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7 年度	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
R6 年度	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	1	6

(7) 退居理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護施設入居	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
他有料入居	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院中死去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

(8) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和 7 年 4 月 20 日	北野東町内会クリーン作戦と花壇整地作業	町内会花壇
令和 7 年 5 月 25 日	町内会花植え	町内会花壇
令和 7 年 6 月 7 日	家族懇親会&窓拭き清掃・花壇整備	食堂&館内・たかほ花壇
令和 7 年 7 月 4 日	北都プロレス慰問	あえーる
令和 7 年 7 月 13 日	さつき祭観覧	鷹栖さつき苑
令和 7 年 8 月 4 日	きたの de 縁日観覧	Da マルシェ駐車場
令和 7 年 8 月 6 日	七夕&花火の会	たかほ駐車場
令和 7 年 8 月 7 日	ろうそくだせ	あえーる・たかほ駐車場
令和 7 年 8 月 9 日	朝市で販売「たかほマルシェ」	えん駐車場
令和 7 年 8 月 30 日	ほろ酔いマルシェ出張版	あえーる
令和 7 年 9 月 6 日	朝市で販売「たかほマルシェ」	えん駐車場
令和 7 年 9 月 15 日	敬老のお祝い	食堂
令和 7 年 9 月 17 日	焼き肉の会	あえーる
令和 7 年 10 月 11 日	朝市で販売「たかほマルシェ」	えん駐車場
令和 7 年 10 月 10 日	たかほリンピック	食堂
令和 7 年 11 月 7 日	電動車椅子体験会	たかほ駐車場
令和 7 年 12 月 24 日	クリスマス会	食堂
令和 8 年 2 月 25 日	サロン展示物 鞆・毛糸でハリネズミ創作	食堂
令和 8 年 2 月 2 日	踊り観覧	食堂
令和 8 年 2 月 3 日	豆まき	各居室・館内

令和 8 年 3 月 1 日	サロン展示	北野サロン
令和 8 年 3 月 3 日	ひな祭りお茶会	食堂

(9) ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	26
延人数	15	27	23	24	14	20	23	25	29	32	37	32	301

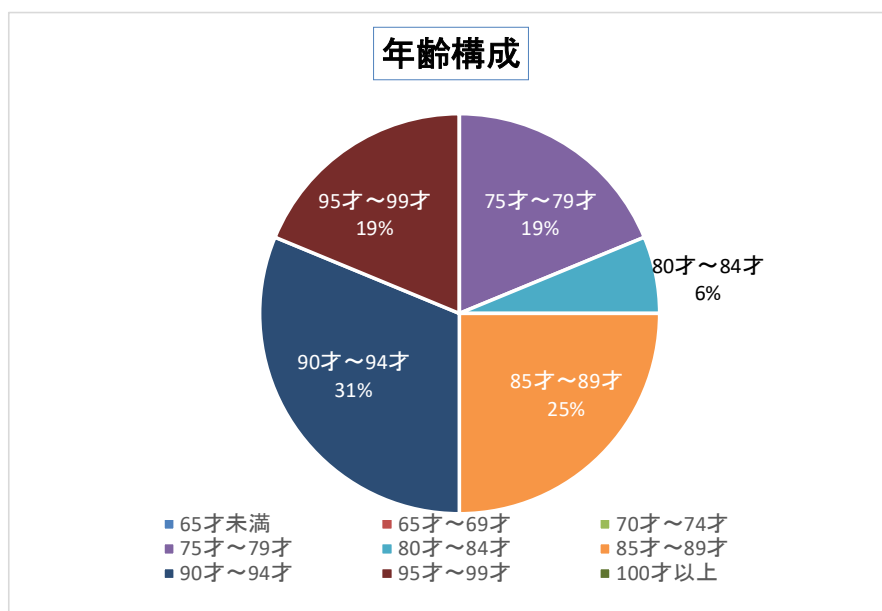
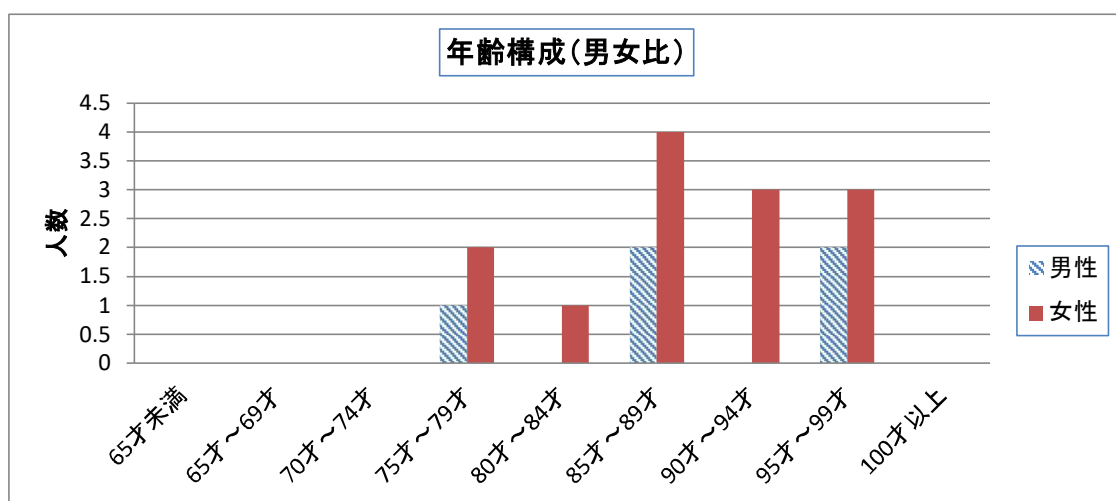
(10) たかほ会議 (計 12 回)

月 日	議題内容	参加人数
令和 7 年 4 月 30 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 (今年度の活動計画書配布) ・設備管理対応 ・今月、来月の予定 (家族懇親会開催・くもん学習療法について)	3 名
令和 7 年 5 月 21 日	・入居者の状況 (新規入居者等) ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (電気保安点検) ・今月、来月の予定 (お掃除ロボットリース契約について)	3 名
令和 7 年 6 月 19 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定・生産性向上委員会 (お掃除ロボット・調理員勤務時間短縮)	3 名
令和 7 年 7 月 9 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定・生産性向上委員会 (消毒業務について・花火の会・ほろ酔いマルシェ出張版)	2 名
令和 7 年 8 月 6 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定・生産性向上委員会 (災害時の対応・事故・たかほボランティア活動について・入居者の役割等について)	2 名
令和 7 年 9 月 10 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定・生産性向上委員会 (月間カレンダー作成改善・配食弁当・入居者の役割作りについて)	1 名

令和 7 年 10 月 8 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・今月、来月の予定・生産性向上委員会（電気料削減の工夫・くもん学習療法サポーター養成講座・配食弁当・入居者の役割作りについて）	1 名
令和 7 年 11 月 12 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（退去者のコール紛失） ・今月、来月の予定・生産性向上委員会（電気料削減の工夫・学習療法・入居者の役割作りについて）	2 名
令和 7 年 12 月 10 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（退去者のコール紛失について） ・今月、来月の予定・生産性向上委員会（学習療法・昼食弁当について） ・業務変更・改善事項	2 名
令和 8 年 1 月 14 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定・生産性向上委員会（安否確認方法検討・入居者の役割） ・業務変更・改善事項	2 名
令和 8 年 2 月 4 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（厨房ボイラーより水漏れし交換・紛失コール退去者負担で購入） ・今月、来月の予定・生産性向上委員会（安否確認方法の検討・北野サロン役割つくりでサロン展示物作成について）	3 名
令和 8 年 3 月 4 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（洗濯ホースについて） ・事故について ・今月、来月の予定・生産性向上委員会（安否確認方法検討・学習療法・サロン展示物について） ・業務変更・改善事項	3 名

1.入居者年齢構成(令和8年3月31日現在)

		在 籍 者			【最高年齢】 男性 95 歳 女性 99 歳 【最低年齢】 男性 78 歳 女性 77 歳 【平均年齢】 男性 89.0歳 女性 89.1歳 全体 89.1歳
		男性	女性	計	
65才未満		0	0	0	
65才～69才		0	0	0	
70才～74才		0	0	0	
75才～79才		1	2	3	
80才～84才		0	1	1	
85才～89才		2	4	6	
90才～94才		0	3	3	
95才～99才		2	3	5	
100才以上		0	0	0	
計		5	13	18	



2.食事状況(令和8年3月31日現在)

		自立	見守り	合計
男性		5	0	5
女性		13	0	13
合計		18	0	18

3.移動状況(令和8年3月31日現在)

		歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
		自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性		2	0	0	3	0	0	0	5
女性		7	0	0	6	0	0	0	13
合計		9	0	0	9	0	0	0	18

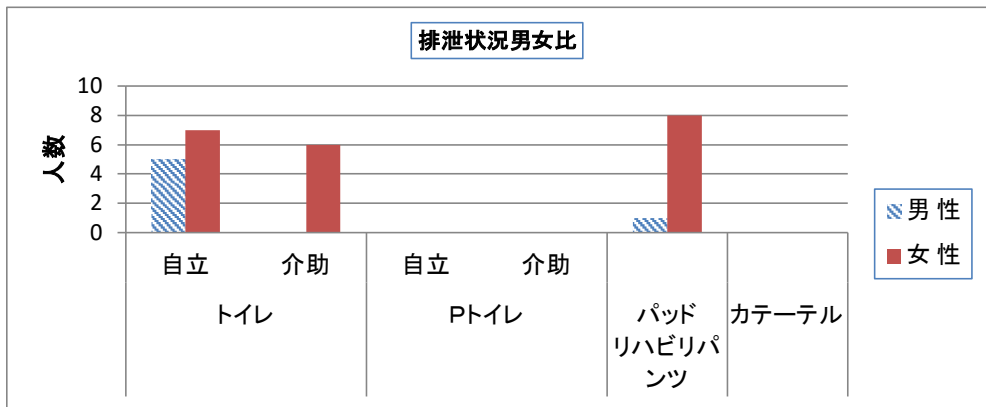
4.入浴状況(令和8年3月31日現在)

		一般浴		車いす浴	合計
		自立	介助		
男性		3	2	0	5
女性		5	8	0	13
合計		8	10	0	18

5.排泄状況(令和8年3月31日現在)

		トイレ		Pトイレ		パッド リハビリパン ツ	カテーテ ル	計
		自立	介助	自立	介助			
男性		5	0	0	0	1	0	6
女性		7	6	0	0	8	0	21
計		12	6	0	0	9	0	27

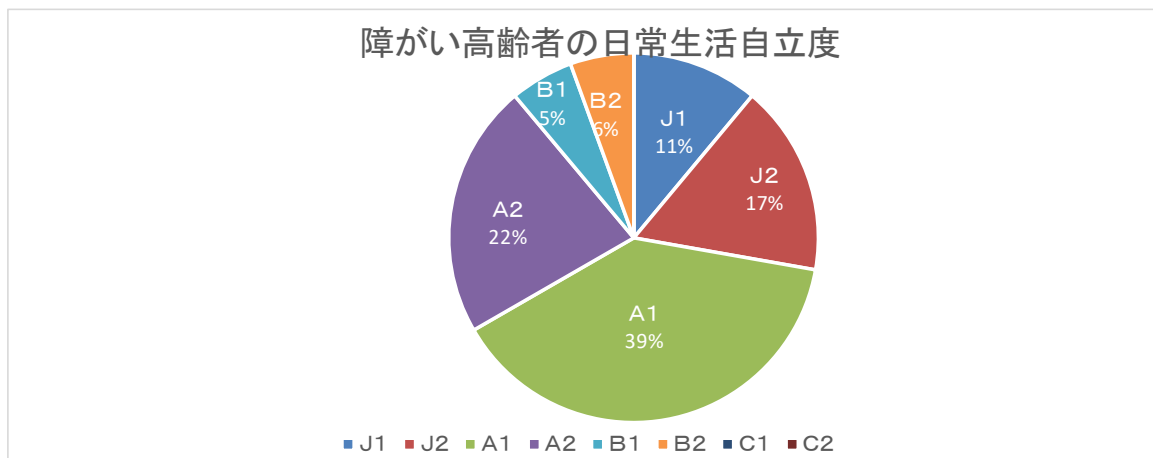
※重複あり



※重複あり

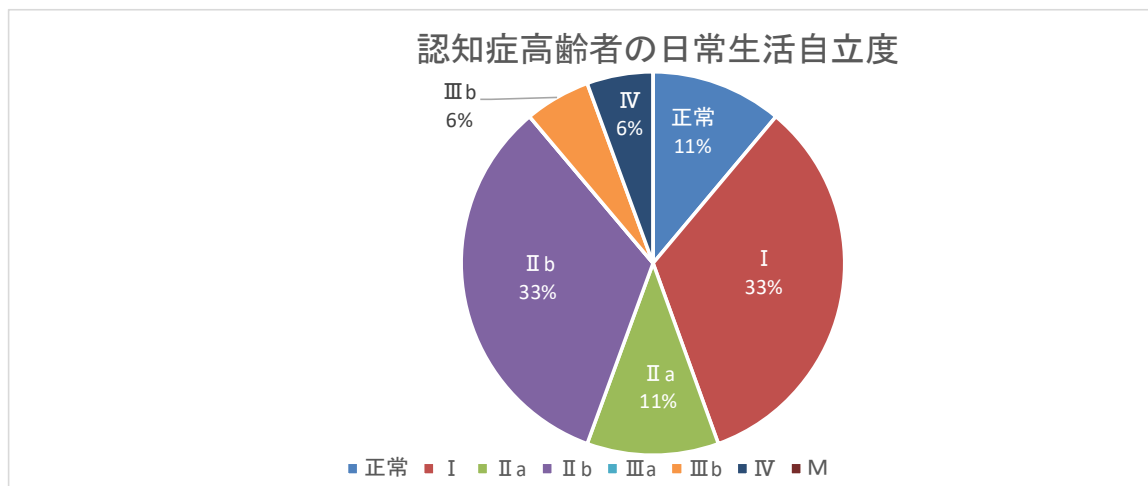
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	不明	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男 性	0	1	1	1	1	1	0	0	0	5
女 性	0	1	2	6	3	0	1	0	0	13
合 計	0	2	3	7	4	1	1	0	0	18



7.認知症(精神)状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

	不明	正常	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	計
男 性	0	1	2	0	2	0	0	0	0	5
女 性	0	1	4	2	4	0	1	1	0	13
計	0	2	6	2	6	0	1	1	0	18



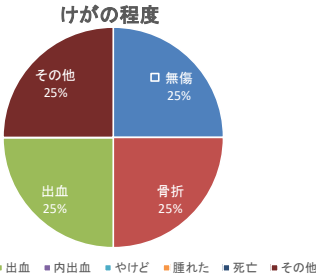
令和7年度 事故発生状況

【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ぶつけた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤飲(誤嚥)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投棄事故	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
興奮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

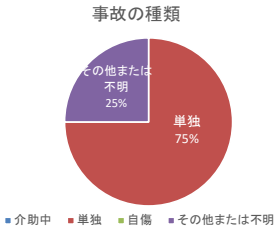
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出血	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
内出血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
やけど	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫れた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合計	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0



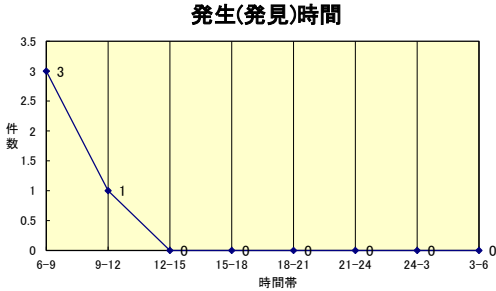
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
単独	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他または不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合計	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0



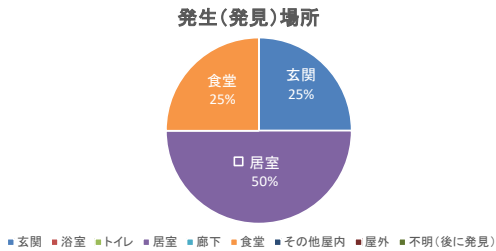
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
9-12	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
12-15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15-18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18-21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21-24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0



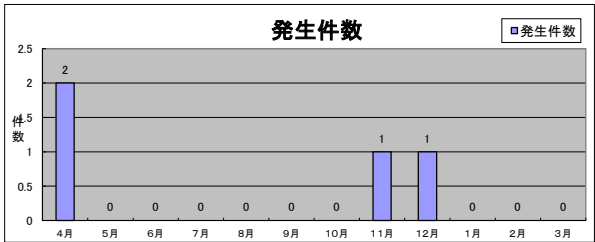
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玄関	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
浴室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居室	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廊下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食堂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
その他屋内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
屋外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明(後に発見)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
(うち受診をした件数)	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0



令和7年度鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和7年度は「自ら学び、自ら考え、自ら動く」の基本方針に重点をおき取り組みを行った。

「自ら学び」では、知識、技術を学ぶための研修参加と各自が研修講師を行うに当たり自己研鑽し人へ伝えることの重要性を学ぶことができた。

「自ら考え」では職員一人ひとりが利用者との関わりの中で、相手、家族の立場になり考え支援を行う場面があった。そして状況を考察し優先順位を自ら考え行動ができていた。また、自分たちが行っている支援に対しても、自立支援の重要性と必要性を十分に理解した上で働きかけを行っていた。

「自ら動く」ことに関しては、非常に優れた成果を残すことができていた一年だった。

行事計画、実施、利用者への支援内容の見直し等を必要に応じ自身で考えアクションを起こし、情報を発信し共有を図れることは、仕事に対する意識が高まっていると感じた。

昨年度からの取り組みでは、自分で外出することが困難な方を対象にし、楽しみや意欲向上へ繋げることを目的に、一緒に買い物へ行き自分の目で見て商品を選んでいただく外出企画を2名の方に行うことができた。計画から利用者・家族への説明、そして実施までを担当者が準備し行えたことで達成感や喜びを職員自身も得られた。

コロナ禍以降は、飲食を伴う行事を自粛しており、別の形として新たに始めた「長寿を祝うための訪問」では、喜寿や米寿を迎えられた方のお宅へ訪問し、花束と記念写真を贈呈させていただき大変好評だった。

事業所として長く取り組みを行っている茶話会活動も、食事会同様にコロナ禍以降は飲食をとらない形として今年度も継続し、3回の開催を行うことができた。その中でも旭川市での茶話会では、既存のサークル活動へ参加させていただくことでより多くの方々に事業所のPR活動を行うことができた。

自分たちが働きやすい職場作りの一環では、仕事へのモチベーションアップを目指し、全職員がリフレッシュ休暇8日間を取得することができた。

このように、今年度も多くの取り組みを行う中で職員それぞれの成長を大きく見て取れる一年であった。来年度も各取り組みを続けることで利用者、職員ともに生きがいや楽しみ、やりがいを共有してゆきたい。

2. 展望(次年度に向けて)

令和8年度も、「自ら学び、自ら考え、自ら動く」ことを目標に掲げる。

「自ら学ぶ」では、自分たちの知識と技術で満足することなく、研修会への参加を率先し一人ひとりが学ぶ姿勢で新たなことを吸収し自己研鑽を続けていく。

「自ら考える」では、自身で考え提案し利用者主体である自立支援を継続的に行えるよう、日々のケアに活かしながら展開していく。

「自ら動く」では、今自分に何ができるかを考え自ら行動することで、自身の行動に責任を持ち困難なことにも対処し改善を図っていく力を習得する。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績

(単位 千円)

目標収益 (A)	実際収益 (B)	達成率 (B)/(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)/(C)×100
37,523,870	38,102,173	109%	34,962,550	109%

(2) 茶話会開催状況

日程・地区	鷹栖地区	鷹栖地区	春光台
	令和7年 5月18日	令和7年 5月18日	令和7年 10月11日
参加人数	10名	11名	16名

(3) 長寿のお祝い開催状況

日程・地区	鷹栖町	旭川市
	令和7年9月20日	令和7年9月20日
参加人数	3名	5名

(4) ヘルパー研修開催状況

開催日	テーマ	講師	参加人数
令和7年 4月24日	自然災害図上訓練 (BCP)	米澤	7人
5月15日	苦情対応研修	深瀬	7人
6月16日	救急救命講習	消防	9人
6月26日	食中毒の予防研修	己上	7人
9月10日	災害時訓練	米澤	7人
10月16日	感染症予防対策研修	藤川	9人
10月16日	感染症予防対策訓練	藤川	9人
12月19日	接遇マナー研修	伊藤	8人
3月5日・12日	トランスファー研修	大矢	8人
3月24日	災害時訓練	米澤	8人

(5) 外部研修参加状況

開催日	内容	参加者
7月8日	令和7年度全道ホームヘルプサービス研究発表会	米澤・藤木
7月30日	次世代の経営を担う人材育成研修	米澤

9月19日	次世代の経営を担う人材育成研修	米澤
10月24日	パワーハラスメント研修	米澤・藤木 伊藤・深瀬
11月26日	次世代の経営を担う人材育成研修	米澤
11月15日	令和7年度多職種協同による自立支援と重度化対策・重度化予防研修	米澤
12月9日	在宅課カンファレンス	米澤
12月13日	上川・留萌地区別資質向上研修	米澤・深瀬 藤木
12月14日	全国高齢者ケア研究会 ICT 研究会	米澤
12月20日	令和7年度多職種協同による自立支援と重度化対策・重度化予防研修	米澤
1月22日	法定義務化研修（事業継続計画 BCP、自然災害、感染症	全職員
2月9日	感染症の予防・蔓延対策研修	全職員
2月19日	次世代の経営を担う人材育成研修	米澤
2月20日	高齢者虐待防止	全職員
3月2日	次世代の経営を担う人材育成研修	米澤
3月6日	ハラスメント対策研修	全職員
3月14日	令和7年度多職種協同による自立支援と重度化対策・重度化予防研修	米澤

(6) ヘルパー会議開催状況

開催日	内容	参加者
令和7年 4月24日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和7年度活動計画について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご家族からの要望（1件）苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）BCP災害時想定図上訓練	8名
5月15日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和7年度活動報告計画、茶話会について、利用者宅でのお金の取り扱い、買い物支援について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご本人からの要望（1件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）苦情対応研修	8名
6月26日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（食中毒予防研修について）（研修会参加について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご本人からの要望（1件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	7名
7月24日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（研究発表会の報告）（自立支援の働きかけについて）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご本人からの要望（1件）・苦情	8人

	(0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	
8 月 21 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (ミニ研修について) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (0 件) ⑤ご本人からの要望 (0 件)・苦情 (1 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	8 人
9 月 25 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (長寿のお祝いについて) (第 3 回茶話会について) (生産性向上アンケートについて) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (1 件) ⑤ご本人からの要望 (0 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	9 人
10 月 16 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (第 3 回茶話会報告、個別支援について) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (0 件) ⑤ご本人からの要望 (0 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価) 事故対応時の確認	8 人
11 月 20 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (車輻について) (利用者への配布文書について) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (2 件) ⑤ご本人からの要望 (0 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	9 人
12 月 19 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (車輻について) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (1 件) ⑤ご本人からの要望 (1 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価) 接遇マナー研修	9 人
令和 8 年 1 月 22 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (生産性向上委員会について、満足度調査結果) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (1 件) ⑤ご本人からの要望 (1 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	9 人
2 月 20 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (記録記載のルールについて) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (2 件) ⑤ご本人からの要望 (1 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	10 人
3 月 19 日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善 (令和 7 年度の活動報告について、令和 8 年度の事業計画、活動計画について) ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告 (0 件) ⑤ご本人からの要望 (0 件)・苦情 (0 件) ⑥その他 (今月の目標・先月の評価)	7 人

(7) 事故発生状況

	令和 5 年度	令和 6 年	令和 7 年
私物破損	7 件	5 件	10 件
訪問忘れ	1 件	1 件	0 件
苦情	0 件	4 件	1 件
救急搬送	0 件	1 件	1 件
車両関係	3 件	2 件	2 件
転倒など	5 件	3 件	1 件
投薬忘れ	1 件	4 件	2 件
誤投薬	0 件	3 件	1 件
死亡発見	0 件	0 件	0 件
その他	2 件	0 件	0 件
合計	19 件	23 件	18 件

(8) 令和 7 年度私物破損・事故内容

発生日	内容	原因	対策
令和 7 年 5 月 30 日	窓を開ける際にレースカーテンレール上部のプラスチック部品が破損する。	劣化しており、少しの負荷で破損した。	劣化が進んでいるものへは、負荷が掛からないよう配慮し扱う。
6 月 7 日	洗濯を干し物干しを引き上げた際に付属のクリップが破損した。	経年劣化していた。	部品の取り扱いは丁寧に行う。使用前に破損がないかを確認する。
8 月 1 日	訪問先で車をバックした際に電柱に衝突させた。	後方の確認を怠っていた。	車を動かす際には、「右よし、左よし、後方よし」と言いながらしっかり確認を行う。
9 月 22 日	訪問中ベッドに端座し着替えを行っていた際にベッドから滑り落ちた。	朝方に自身で服用した眠剤が残っていたため、不安定な状態であった。	状態が不安定な時は、側で見守り、必要に応じ一部介助も行う。
10 月 31 日	使用したおたまを洗浄し拭いた際に、取手部から折れてしまった。	経年劣化しているものに対し、取り扱いの注意が足りなかった。	長く使用し破損の恐れがあるものは、事前に買い替えの声掛けをさせていただく。
11 月 4 日	食器かごを移動させた際	移動させる際にかご	かごを移動させる前に、予

	に、かごの中にあった陶器のおろし金が床に落下し破損した。	の中を確認していなかった。注意不足。	め落下しそうな物がないかを確認し外しておく。
11月8日	掃除の際に本人が座っているテーブル下から、飲みこぼした錠剤が1錠見つかる。	手の平に乗せ口へ運ぶ際に、錠剤が落ちたことに気付かず確認が不十分だった。	透明な容器（薬盃）に薬を入れ口元に運ぶ事で、こぼれ落ち、飲み残し防止を図り確実に服用を勧める。
12月1日	食器洗浄の際に手が滑り小皿をシンク内に落とししまい割れてしまう。	本来は利用者が行うことをヘルパーが行い、時間が気になり急いでいたことで、注意不足となってしまう。	利用者が行えることは、手を出し過ぎずに、声掛けし促していく。
令和8年 1月22日	ガレージのゴミを確認する際に、鍵を挿したままシャッターを開け、鍵を変形させてしまう。	鍵穴に鍵を挿し込んだまま開けたことで、上部に鍵が当たり変形した。	シャッターを開ける時には、鍵を抜く。
2月11日	レンジで温めた皿を持ち、熱さで手を離してしまい落下し破損。	熱くなった食器を素手で持った。	温めた後は布巾や鍋つかみ等を使い、直接触れない。
2月17日	カブの皮を剥いている時にセラミック包丁の刃が欠けた。	円形の皮を剥く際に指を置いた一部に負荷が掛かった。	セラミック包丁は薄く負荷がかかりやすいため、ヘルパーは金属の包丁使用。
3月11日	朝の服薬介助の際に前日の朝薬の錠剤が容器内に残っているのを発見する。	服薬後に容器の中を確認していなかった。	服薬後は必ず容器内も確認をする。
3月12日	手の届かない所に落ちたものを動かすため、箒の柄を使用したところ、プラスチックのキャップ部分が割れてしまった。	落ちていた物を引き寄せる際に負荷がかかった。	使用するものを考え、硬い素材の物を利用する。
3月17日	訪問中に血圧が高く頭痛の訴えあり、搬送しくも膜下出血と診断ある。	起床後より頭痛あり、内服もできていなかった様子。	退院後は服薬の確認等を検討。
3月25日	訪問先で利用者宅前に車輛を駐車していたところ、	積雪もあり、利用者宅の敷地内に停めるこ	敷地内に停められない時には、了承を得て公園や役

	向かいの住人の車に接触される。	とができず、路上に停めていた。	場の駐車場を利用させていただく。
3月30日	トイレ掃除中に掃除ブラシを便槽に落としてしまった。	ブラシをしっかりと握っていなかった。	ブラシの柄に落下防止のため紐を付ける。

(9) 令和7年度苦情内容

発生日	内容	原因	改善状況
令和7年8月11日	ショートステイ利用中に排泄での異性介助があった、他者や自分への職員の言動に対し不満を感じた。	排泄での異性介助に関して事前の説明が不十分であった。職員の言動に関しては、捉え違いが考えられる。	事前に十分な説明を行い、了承を得る。

(10) 訪問内容別活動時間

(単位 件数)

訪問内容	令和6年度月平均時間	令和7年度月平均時間
身体介護	404	458
生活援助	37	30
複合介護	162	196
介護予防訪問介護（独自Ⅰ）	124	131
介護予防訪問介護（独自Ⅱ）	64	77
介護予防訪問介護（独自Ⅲ）	14	6
私的契約	10	8

令和7年度 総合事業（一般介護予防事業）事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和7年度は、「地域介護予防活動支援事業」「地域リハビリテーション活動支援事業」「介護予防普及啓発支援事業」「在宅医療・介護連携推進事業」「法人自主事業」の5事業に取り組んだ。

フィットネス倶楽部コレカラ（以下、コレカラ）の実利用者数は176名（前年196名、前年比90%）と減少した。一方で、延べ利用者数は8,200名（前年比101%）と微増であり、利用者一人あたりの利用頻度向上したことが示唆された。このことから、継続的な運動習慣の定着につながったと考える。

また、コレカラの利用から介護サービスへスムーズに移行した事例が3件あった。状態変化に応じた適切なサービス接続が実現できており、地域における介護予防から重度化防止までの一体的な支援体制の構築に寄与することができていると考える。

理学療法士の出張や長期休暇により、コレカラを計5日間臨時休館した。一時的に事業を休止する期間が生じたが、職員の休養取得や出張による学びの機会を確保することができた。

1) 地域介護予防活動支援事業

コレカラにおいては、介護予防を目的としたフィットネス機器によるサーキットトレーニングを実施した。令和8年3月末時点の登録者数は459名（男性122名、女性337名）で、4月より14名増加した。月間実利用人数は平均104.0名（前年比106%）と増加しており、特に夏季の利用人数増加が顕著であった。2月には無料体験会を開催し36名が参加、そのうち6名が利用再開につながった。

住民主体の介護予防活動の推進を目的に、鷹栖町オリジナルの介護予防体操「あったかすりハビリ体操」の普及・啓発および、あったかすりハビリ体操指導士（以下、体操指導士）の養成・活動支援を実施した。令和7年度はコレカラにて「あったかすりハビリ体操指導士養成講座」を開催し、新たに9名を養成、登録者数は62名となった。体操指導士の活動は、体操サークルや老人会、高齢者住宅、ぬくもりの家たかほ等に広がっており、地域全体の担い手として機能している。年間の体操教室開催回数は301回（前年比98%）、延べ参加者数は2,410名（前年比101%）とおおむね前年度と同水準を維持した。また、体操指導士の資質向上および連携強化を目的に、フォローアップ研修および交流会を開催した。交流会には上川管内の体操指導士が参加し、指導内容の復習や情報交換を行った。鷹栖町からは7名が参加し、他市町村の活動事例に触れることで、自身の活動を振り返る機会となり、今後の活動の質向上につながることを期待される。

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

新規利用者14名およびレッドコード利用者を対象に体力評価を実施した。測定項目にはフレイル判定を含んでおり、フレイル該当者および予備群（以下、フレイル高齢者）を早期に把握することができた。今年度はフレイル高齢者を対象にフレイル教室を開催し、17名が参加した。教室ではフレイルの基礎知識や対策について学ぶとともに、自身の生活習慣や運動習慣を見直す機会を提供し、参加者の行動変容につながる取り組みとなった。

また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等からの地域在住高齢者の生活・環境調整に関する相談は9件であった。住宅環境への助言や福祉用具の選定支援を通して、地域在住高齢者の安全かつ自分らしい生活を継続できるよう支援した。

さらに、町の「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」の一環として、前年度に引き続き特定健診（鷹栖地区）においてフレイル検診を実施した。13名が参加し、フレイルのハイリスク者を抽

出すことができた。得られた情報は保健推進係、地域包括支援センター、社会福祉協議会と共有し、専門職による支援や通いの場への参加を促すなど、関係機関との連携により継続的な支援につなげることができた。

加えて、3 団体に対してフレイル予防に関する講話を実施した。テーマは「転倒予防」「認知症」「社会参加」など多角的視点からフレイル予防を啓発できる内容とすることで、通いの場におけるフレイル予防の推進につながった。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室は、上半期、下半期ともに9クラス72名が参加した。1回あたりの平均利用者数は6.6名（前年比100%）であり、前年度と同様の参加状況を維持した。また、お盆時期の運動不足対策として、公式LINEを活用した運動プログラム配信「運動習慣化プロジェクト」を実施した。43名が参加し、そのうち41名が継続して取り組むなど、運動習慣の定着に寄与する取り組みとなった。

コレカラサポーターについては、実活動者数18名、延べ活動時間は153時間であった。8月には「コレカラサポーター養成講座」を開催し、新たに5名を養成、登録者数は45名となった。今年度は臨時休館を除き、体操教室の活動支援やデイ勤務等で理学療法士が不在となる日について、すべてサポーターが主体となって運営を担った。住民主体による介護予防を推進するとともに、理学療法士は地域の通いの場への支援等、地域における介護予防活動に注力することができた。

4) 在宅医療・介護連携推進事業

地域住民および医療・介護関係者を対象とした研修会を1回開催した。講師に訪問看護ステーションオハナの宮崎美貴子看護師を招き、「訪問看護師がみた在宅での看取りの実際」と題した講演を実施した。当日は町民21名、訪問看護師、保健師、介護支援専門員、理学療法士等の専門職16名、計37名が参加した。講演では、訪問看護師の視点から在宅での看取りの実際について具体的な事例を交えて紹介され、町民・専門職ともに在宅で最期を迎えることへの理解を深め、具体的なイメージを持つ機会となった。また、町民が自身の最期の迎え方を考える機会として、「もしバナゲーム」体験会を実施した。カードゲームを通して人生の最期に大切にしたいことを考え、言葉にすることで、人生観や価値観について主体的に考える機会となった。加えて、専門職にとっても町民の率直な意見に触れる貴重な機会となった。専門職意見交換会では、講演内容を踏まえ、在宅看取りに関する経験や課題について共有することができた。町外の専門職の参加もあり、職種や所属を超えた交流が図られ、顔の見える関係づくりが一層促進された。これにより、在宅での看取りを支えるための連携体制の重要性について、改めて認識を深める機会となった。

5) 法人自主事業

今年度新たな取り組みとして、道北バスを活用した森山病院ツアーを開催した。高齢期の交通手段確保および公共交通機関の利用促進を目的とし、鷹栖町から直接アクセス可能な森山病院まで実際に移動する体験の機会として実施した。17 名が参加し、公共交通機関の利用に対する理解と利用意欲向上につながった。また、コレカラ公式 LINE の登録者は 192 名（前年比 114%）となり、情報発信ツールとしての活用が着実に進んでいる。

春・冬の年 2 回「コレカラ大掃除」を実施し、延べ 37 名の利用者が参加した。加えて、前年度に引き続きボランティア交流会を開催し、コレカラサポーター、体操指導士、くもんサポーターの計 24 名が参加した。講演やゲーム大会、意見交換会を通じて交流を深めるとともに、日頃の活動への感謝を

伝える機会となった。

一方で、通いの場におけるヘルスリテラシー講座は、運営者との調整が整わず未実施となった。

6) その他

日本プライマリ・ケア学会にシンポジストとして登壇し、鷹栖町の介護予防事業についてプレゼンテーションを行った。また、第12回日本予防理学療法学会学術大会に参加し、「通いの場に参加する地域在住高齢者の社会的フレイルとソーシャルキャピタル・身体機能との関連」について口述発表を行った。町の取り組みを広く発信するとともに、他地域の実践との比較を通じて事業の有効性や課題を再確認する機会となった。

2. 展望（次年度に向けて）

令和8年度は「地域介護予防活動支援事業」「地域リハビリテーション活動支援事業」「介護予防普及啓発支援事業」「在宅医療・介護連携推進事業」「法人自主事業」の5事業を継続して実施する。

1) 地域介護予防活動支援事業

コレカラにおけるサーキットトレーニングの運動指導を継続し、登録者および実利用者数の増加に向けた広報活動を強化する。特に利用中止者に対する再利用促進を目的として、無料体験会等のイベントと連動した情報発信を行い、参加機会の創出を図る。また、コレカラの利用が困難になったご利用者に対しては、状態に応じて適切な介護サービスへ円滑に移行できるよう、地域包括支援センターとの連携を強化していく。あったかすりハビリ体操については、体操指導士養成講座を継続開催し、新たな担い手の養成を進めるとともに、既存の体操指導士に対する活動支援およびフォローアップを継続する。次年度は全国体操指導士交流会が苫小牧市で開催される予定であり、あったかすりハビリ体操指導士とともに現地参加する。他地域の取り組みに触れることで知見を深め、活動の質および意欲の向上につなげていく。

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

コレカラ利用者に対する定期的な身体機能評価を継続し、その結果に基づいた運動指導を実施することで、利用者の身体機能維持・向上を図る。また、体力評価においてフレイルと判定された方を対象にフレイル教室を開催し、ハイリスク者に対する重点的介入継続する。これにより、フレイルの進行予防および重度化防止を図る（ハイリスクアプローチ）。

さらに、地域包括支援センターや居宅介護支援センターからの相談に対し、地域在住高齢者の身体機能および生活環境の評価・助言を行い、在宅生活の継続を支援する。

通いの場を継続的運営していくには、専門職の支援が重要である。体力測定会や健康講話、健康相談等を実施し、地域におけるフレイル対策を推進する（ポピュレーションアプローチ）。

また、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」に向けて、町の特定健診と連動してフレイル検診を継続する。ハイリスクを早期に把握し、介護予防事業への参加につなげることで、運動機会の提供および重度化予防を推進する。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室での運動指導を継続し、参加者の運動機会の確保および継続的な利用を促進す

る。コレカラサポーターについては、活動の継続に加え、復習会を開催することで活動への意欲向上および主体的なかかわりの強化につなげる。また、公式 LINE を活用した「毎日運動プロジェクト」を実施し、利用者の運動習慣定着を図る。

4) 在宅医療・介護連携推進事業

鷹栖町の在宅医療・介護の連携強化を目的として、関係者を対象とした研修会や情報交換の場を設ける。あわせて、専門職が通いの場に出向き、住民を対象とした研修会や「もしバナゲーム」を実施し、在宅医療・介護に関する理解促進を図る。

5) 法人自主事業

より多くの高齢者のヘルスリテラシー向上を目的として、通いの場におけるヘルスリテラシー講座を開催する。また、互助の促進を目的に、ボランティア交流会や大掃除等の活動を実施する。さらに、多世代交流や交通手段の工夫を取り入れたイベントを通じて、高齢者の社会参加の促進を図る。加えて、公式 LINE の運用を継続し、コレカラの臨時休館情報や健康に関する情報を速やかに発信する。

3. 業績報告

1) 地域介護予防活動支援事業

(1) サーキットトレーニング

① 登録者数 (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	116	116	118	119	119	121	122	122	122	122	122	122
女 性	329	330	333	333	333	334	335	336	336	336	336	337
計	445	446	451	452	452	455	457	458	458	458	458	459

② 実利用者数 (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
男 性	12	10	12	14	13	15	12	16	12	12	13	12	12.8	91%
女 性	101	89	85	86	84	82	90	89	99	95	102	94	91.3	109%
計	113	99	97	100	97	97	102	105	111	107	115	106	104.0	106%

(2) あったかすりハビリ体操指導士

① 指導士活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
登録者 (名)	53	53	53	53	53	53	53	53	62	62	62	62		
実人数 (名)	16	19	18	18	18	16	19	18	20	26	22	26	236	118%
延べ 活動時間 (時間)	57	66	58	61	42	62	75	55	42	62	69	90	739	99%

② 地域での体操教室実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
教室数 (回)	28	29	24	27	19	28	25	26	19	19	27	21	301	98%
参加者数 (名)	212	198	199	212	162	218	225	224	156	156	221	227	2410	101%

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

(1) 体力評価

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	4	0	0	1	1	1	4	1	0	0	0	0
女 性	42	27	2	0	0	1	51	20	2	0	0	0
計	46	27	2	1	1	2	55	21	2	0	0	0

(2) 関係者から理学療法士への相談対応

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	1	2	1	1	0	0	0	1	0	3	0	0	9

3) 介護予防普及啓発支援事業

(1) レッドコード教室

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者数	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72		
実人数	71	72	69	70	69	71	71	71	71	71	71	71	70.7	100%
1回平均 利用者数	7.2	6.8	6.3	6.5	6.0	6.0	6.6	6.3	6.5	6.9	7.0	6.9	6.6	100%

※ 上半期・下半期ともに9クラス、1クラス8名で運営

(2) コレカラサポーター

① サポーター活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
登録者 (名)	40	40	40	40	45	45	45	45	45	45	45	45		
実人数 (名)	7	5	13	8	9	16	15	13	4	12	16	15	133	143%
延べ 活動時間 (時間)	7	6	20	11	10	15	16	15	4	13	14	18	153	123%

4) 自主事業

(1) 公式LINE 登録者

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	前年比
登録者数	172	174	178	179	179	180	184	186	187	188	191	192	114%

4 イベント・視察等

実施日	イベント名	概要
4月1日	令和7年度上半期レッドコード開始	・9クラス72名参加
4月9日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者1名 ・体操教室初回
4月15日	中央体操教室活動支援	・体操指導士5名、参加者7名
4月16日	温らいん倶楽部講話	・参加者7名 ・転倒予防に関する講話と体操
4月17日	コレカラ視察	・和寒芳生苑様4名
4月22日	第108回総合事業会議	・実績報告 ・コレカラバス利用周知について
4月23日	コレカラ視察	・上川総合振興局長、副局長、随員職員1名
4月25日	コレカラ視察	・社会福祉法人幾久栄会様7名
5月7日	春のコレカラ大掃除	・ご利用者19名参加
5月14日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者3名
5月27日	第109回総合事業会議	・実績報告 ・介護予防事業の効果検証について
5月28日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者3名
6月11日	特定健診でのフレイル検診	・鷹栖地区の特定健診にて実施 ・コレカラサポーター2名、理学療法士 ・体力評価、フレイルチェック ・13名参加
	コレカラ視察	・花みずき様2名、慈光会安倍相談役、元気の素上野代表
6月16日	電動車いす「WHILL」試乗会	・たかほ駐車場にて実施 ・コレカラご利用者、たかほ入居者参加
6月21日～22日	日本プライマリ・ケア学会 in札幌	・札幌コンベンションセンターにて開催 ・シンポジウムにシンポジストとして参加 ・鷹栖町の介護予防事業について報告
6月24日	第1回体操指導士フォローアップ研修	・6名参加 ・昨年度の活動報告、情報共有、体操復習
	第110回総合事業会議	・実績報告 ・道北バスを活用した事業について
6月25日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者5名
7月8日	コレカラ視察	・社会福祉法人征峯会様5名

実施日	イベント名	概要
7月9日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者5名
7月23日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士3名、参加者4名
7月25日	第111回総合事業会議	・実績報告 ・フレイル講座について ・上川管内体操指導士交流会について
8月4日～22日	LINEでの運動習慣化プロジェクト	・43名が参加 ・達成者41名（達成率95%）
8月6日	15町内会体操教室活動支援	・体操指導士1名、参加者9名 ・転倒予防に関する講話
8月7日	ろうそく出せ	・幼稚園児12名、教諭1名、サポーター2名、理学療法士参加 ・ぬくもりの家たかほや近隣宅へ訪問
8月20日	ゴールドコースト市長コレカラ見学	・市長、市長婦人、GC行政職員、鷹栖町長、役場職員参加 ・サーキット、レッドコード体験
8月25日	コレカラサポーター養成講座	・5名参加し、新たにサポーターに認定
8月26日	第112回総合事業会議	・実績報告 ・下半期レッドコード教室申込みについて ・体操指導士養成講座について
8月27日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者7名
8月29日	コレカラ視察	・道職員インターン生1名
9月1日	上川管内指導士大交流会	・上川管内体操指導士参加、鷹栖は7名参加 ・町よりハイエース配車 ・緊急時対応、体操復習、情報交換
9月3日、10日	フレイル教室	・フレイルと判定された17名参加 ・フレイル概要、低栄養、認知症、町の資源に関する講義 ・講師は健康長寿係係長、さつき会栄養士、理学療法士
9月13日	コレカラ臨時休館	・理学療法士出張のため
9月16日	森山病院バスツアー	・17名、理学療法士参加 ・講話、膝痛予防体操、ランチ、フィットネス見学、北彩都ガーデン散策
	令和7年度下半期レッドコード教室抽選会	・9クラス88名申込み
9月17日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士3名、参加者4名
9月25日	コレカラ視察	・鷹栖中学1年生見学

実施日	イベント名	概要
9月30日	第113回総合事業会議	・実績報告 ・体操指導士養成講座について
10月1日	令和7年度下半期レッドコード開始	・9クラス72名参加
	令和7年度あったかすりハビリ体操指導士養成講座開始	・10～12月にコレカラにて開催 ・9名参加
10月9日	木曜体操教室活動支援	・体操指導士2名、参加者8名、鷹栖高5名参加
10月9日、10日	鷹栖高校インターンシップ	・鷹栖高校2年生6名参加
10月14日	第3回全国シルバーリハビリ体操指導士連合会交流会	・鷹栖からは体操指導士5名、理学療法士がオンライン参加 ・講演、活動報告、エール交換、体操復習
10月15日	ゆかいな仲間たち体操活動支援	・体操指導士2名、参加者8名参加 ・認知症に関する講話、体操
	コレカラ視察	・北広島長生会7名、HIT理事長参加
10月20日	コレカラ視察	・上士幌町町議10名参加
10月21日	第114回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療・介護連携推進研修会について ・介護予防事業の効果検証について
10月25日	総合事業策定会議	・R7年度事業振り返り ・R8年度事業、予算について
11月7日	コレカラ臨時休館	・理学療法士学会参加のため
11月8日、9日	第12回日本予防理学療法学会学術大会 in 福岡	・口述発表「通いの場に参加する地域在住高齢者の社会的フレイルとソーシャルキャピタル・身体機能との関連」
11月19日	15町内会体操教室活動支援	・体操指導士1名、参加者6名、体操指導士養成講座受講者9名参加
11月22日	コレカラ体験会	・おせつ会7名参加 ・サーキット、レッドコード体験、講話
11月25日	第115回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療・介護連携研修会について
11月27日	コレカラ視察	・旭川大学22名参加
12月9日	コレカラ臨時休館	・理学療法士長期休暇のため
12月10日	冬のコレカラ大掃除	・ご利用者18名参加
12月16日	中央体操教室活動支援	・体操指導士6名、参加者9名 ・2月より月2回に増回決定
12月25日	第116回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療・介護連携研修会について ・無料体験会について

実施日	イベント名	概要
12月28日～1月4日	年末年始休館	
1月14日	はびねす体操教室活動支援	・体操指導士3名、参加者3名参加
1月15日	コレカラ視察	・北広島長生会4名参加
1月21日	第2回体操指導士フォローアップ研修	・体操指導士15名参加 ・体操復習、演習
1月24日	在宅医療・介護連携推進研修会	・講師：宮崎美貴子氏（訪問看護ステーション オハナ） ・講演、もしバナゲーム、専門職意見交換会 ・町民21名、専門職16名の計37名参加
1月30日	第117回総合事業会議	・実績報告 ・無料体験会について ・R8全国体操指導士交流会への参加について
2月4日、5日	コレカラ臨時休館	・理学療法士長期休暇のため
2月12日	コレカラ無料体験会	・ご利用者36名が参加 ・講師：森山病院理学療法士2名 ・ひざ痛に関する講演会、コンディショニング体験会、健康測定会、マシン体験
2月24日	中央地区体操教室活動支援	・体操指導士5名、参加者13名
	第118回総合事業会議	・実績報告 ・R8上半期レッドコード教室について ・ボランティア交流会について
	令和8年度さつき会事業計画ヒアリング（総合事業）	・事業計画、予算案
3月2日	月曜体操活動支援	・体操指導士5名、参加者8名参加
3月3日	コレカラ視察	・ひだまり様6名参加
3月9日	コレカラ視察	・福井ゆうあい会様4名参加
3月16日	令和8年度上半期レッドコード教室抽選会	・9クラス91名申込み
3月17日	ボランティア交流会	・サポ4名、指導士17名、くもん3名、スタッフ6名、計30名参加 ・活動報告、講演、ゲーム大会、意見交換会
3月18日	介護に関する入門的研修講師	・鷹栖高校1年生 ・フレイル、起居動作の介助方法について
3月25日	第119回総合事業会議	・実績報告 ・コレカラバス利用について ・たかすスポーツクラブとの連携について ・来年度の事業について

令和7年度 給食部門 事業報告

1. 総括

令和7年度は『住民参加による元気創り・生涯活躍の場づくり』をテーマに「地域食堂」を月1回開催し、アクティブシニアの生涯活躍の場を創出するとともに、食事を通じて地域住民の健康増進と交流の促進を図ることを目標に取り組んだ。

今年度も開催日を木曜日に固定し、毎月継続して実施したことで、地域住民への認知度が着実に定着してきたと感じられる1年であった。

さらに、町内バスを利用してフィットネス施設へ通われている方々に対し、運動後の栄養補給の場として食事提供を行うことができ、継続利用につながる体制を整えることができた。加えて、町内他施設の利用者にとっても、毎月の運動や外出の機会として継続的に利用されており、地域の楽しみのひとつとして貢献できていると感じている。

「健康料理教室」では、より多くの方に参加していただけるよう、あえーる以外の施設へ出向いて開催する出張料理教室や、男性限定の料理教室を企画し、新たな参加層へ興味・関心を広げる機会をつくることができた。

一方で、昨年度は申込者数が少ない場合には中止としていたが、今年度は栄養士1名体制で品数を調整して実施する方法へ変更し、中止することなく継続開催することができた。

そのほか、鷹栖町教育委員会が運営する「たかす健康ポイント」の対象施設として登録し、住民がより参加しやすい環境づくりにも取り組むことができた。

2. 次年度へ向けて

令和7年度の地域食堂の担い手は、法人内の「ぬくもりカフェ」のみであったため、次年度は新たな担い手の確保に向け、情報収集および地域との連携強化を進めていく。

料理教室については、令和7年度に実施した出張料理教室および男性限定料理教室が好評であったことから、次年度も継続開催できるよう、地区担当者の協力を得ながら、あえーる以外の会場での実施も含めて計画し、参加者の拡大を目指していく。

3. 健康料理教室（地域における公益的な活動）

実施日	内容	献立	講師	参加人数
5/16	乳和食で減塩	ホエイごはん 減塩味噌汁 厚揚げの肉巻きミルクポン酢 ミルクポテトサラダ 春菊とくるみの白和え	己上	6名

6 / 1 6	丈夫な骨をつくろう	ミルクぶっかけうどん 五目だし巻きたまご	己上	3名
8 / 6	健康おやつ (北斗住民センター)	バナナココアベイクドオーツ はちみつきなこ豆乳	鈴木	9名
1 0 / 2 1	お酒に合う 健康おつまみクッキング (男性限定料理教室)	鶏肉のガーリックソテー 揚げ出し風豆腐 玉葱とさば缶のサラダ ノンアルコールビール	己上	5名
1 / 1 6	野菜を食べよう	キャロットカップケーキ シナモンチャイ	鈴木	8名
3 / 1 3	時間栄養学を学ぼう	とりつくねの梅風味どんぶり かぶの豆乳味噌汁 人参のハニーマスタードサラダ	鈴木	7名

年間参加者数：38名

4. 地域食堂（地域における公益的な活動）

	献立	提供食数	実施者
4 / 2 4	春の彩りごはん あさりのすまし汁 春の炊き合わせ ファイバーサラダ	25食	己上 鈴木 住民協力者2名
	いちごのムース	14食	
5 / 2 2	米飯 味噌汁 キャベツ入りメンチカツ わかめと葱のポン酢和え	18食	己上 鈴木 住民協力者3名
	ヨーグルトババロア	12食	

6 / 1 9	ふきの炊き込みごはん 味噌汁 ほっけの山椒焼き ほうれん草のお浸し きゅうりの浅漬け	2 9 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	パウンドケーキ	1 5 食	
7 / 2 4	ピリ辛冷やし中華 揚げなすの味噌かけ 冷凍マンゴー	3 2 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	レモンのマフィン	2 1 食	
8 / 2 8	コーンと枝豆の混ぜごはん 味噌汁 鶏肉の南蛮漬け 冷奴	2 6 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名 実習生 2 名
	アールグレイのパナコッタ	1 6 食	
9 / 9	野菜たっぷりキーマカレー わかめスープ 野菜サラダ	2 1 食	己上 鈴木 住民協力者 1 名
	りんごと桃のケーキ（既成品）	1 1 食	
1 0 / 1 7	秋おこわ きのこの味噌汁 伏見卵 小松菜の胡麻和え	2 6 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	柿のムース	1 6 食	
1 1 / 2 0	豚肉とひじきの混ぜごはん 具沢山味噌汁 煮豆腐のきのこあんかけ ヤーコンとりんごのサラダ	2 0 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	さつまいものチーズケーキ	1 2 食	
1 2 / 1 1	豆乳担々麺 海鮮焼売 彩りサラダ	2 7 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	チョコムース	1 8 食	

1 / 2 9	オープンいなり寿司 豚汁 冷奴 白菜のゆず和え	3 0 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	蜜柑のパウンドケーキ	1 7 食	
2 / 1 9	米飯 わかめスープ 煮込みハンバーグ ジャーマンポテト 野菜サラダ	3 1 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	台湾カステラ（既）	2 0 食	
3 / 1 9	かき揚げ丼 具沢山味噌汁 卵豆腐 きゅうりの酢の物	2 8 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	桜のムース	2 0 食	

年間提供食数：5 0 5 食